

2001-2002 RI DISTRICT 2510 CONFERENCE REPORT



2001-2002年度
国際ロータリー第2510地区

地区大会の 記録



地区大会テーマ
めざせ
コミュニティへの
サービスを
2001年10月27日・28日

ホストクラブ／札幌南ロータリークラブ
SAPPORO SOUTH ROTARY CLUB



めざせコミュニティへのサービスを





2001-2002

RI DISTRICT 2510

地区大会の記録

2001年10月27日(土)-28日(日)



めざせコミュニティへのサービスを





大会第1日目 会長・幹事会



黄其光RI会長代理あいさつ



点鐘する岩城秀晴ガバナー



ロータリーソング斉唱



黄其光RI会長代理ご夫妻



岩城秀晴ガバナーあいさつ



ご招待者の紹介に応える石垣博美パストガバナー



福井隆男ロータリー文庫委員



受付にも目を配る加藤正雄地区幹事



司会の今井國雄地区副幹事



熱心に聞き入る会場



会場



記念フォーラム



パネラーの皆さん



岩城秀晴ガバナー



黄其光RI会長代理



黄其光RI会長代理、岩城秀晴ガバナーとコーディネーター、コメンテーターの皆さん



ドリンクサービス



熱心に聞き入るご招待者



熱心にメモをとる会場





RI会長代理歓迎晩餐会



あいさつする岩城秀晴ガバナー



竹山涼一元RI理事による乾杯



黄其光RI会長代理ご夫妻





ご招待ご夫人のテーブル



アトラクション「札幌子供ミュージカルによる合唱」



岩城秀晴ガバナー節子夫人指揮による札幌子供ミュージカル合唱



地区幹事の皆様



地区幹事の皆様



大会1日目を終え“ほっとした様子”のホストクラブ大会実行委員会の皆様

並行プログラム(記念ゴルフ大会)



工藤武久ゴルフ委員長あいさつ



ゴルフ優勝者(シニア)の表彰



ゴルフ委員会の皆様



いざスタート



スコアカード集計作業

大会が催された
札幌エルムカントリークラブのシンボル噴水

ゴルフ優勝者ジュニアの表彰



大会第2日目



オープニングセレモニー“RI 第2510地区”の紹介



岩城 秀晴 ガバナー



黄其光RI会長代理ご夫妻



畑中 俊介 大会委員長



中井 孝光 大会副委員長



吉田 壽昭 大会副委員長



ロータリーソング斉唱



物故者会員の追悼



札幌市への記念品贈呈



参加クラブの紹介



司会の青木健次大会副幹事と橋本登代子さん



遠藤 正之 大会登録委員長



森本 正夫 大会信任状委員長



石垣 博美 大会選挙管理委員長



伊藤 長英 大会決議委員長



桂 信雄 札幌市長



金井 英明 地区幹事



松田 昌士 記念講演講師

表彰



ガバナー表彰者の皆様





小林 博 ガバナーエレクト



加藤 正雄 地区幹事



川崎 秀雄 ホストクラブ会長



西脇 順二 大会SAA



遠藤 正之 直前ガバナーへ記念品贈呈

黄其光RI会長代理からの記念品贈呈



伊藤 義郎 元RI理事ご夫妻へ



岩城 秀晴 ガバナーご夫妻へ



竹山 涼一 元RI理事へ



札幌真駒内ロータリークラブの指川 健様へ



畑中 俊介 大会実行委員長へ



黄其光RI会長代理ご夫妻への記念品贈呈



記念懇親会



乾杯の音頭をとる岩城 秀晴 ガバナー



黄其光RI会長代理ご夫妻と岩城秀晴ガバナーご夫妻



交歓・親睦の輪が広がるメイン会場



熱演するしばたはつみ



交換留学生とともに



ロータリーソング“手に手つないで” 斉唱



並行プログラム スパウスプログラム



新世代プログラム 青少年プログラムSクラス・Jクラス





米山奨学会学友会・ 財団学友会合同プログラム



地区大会記録 目次

国際ロータリー会長メッセージ	24	大会決議案承認	90
プログラム〈大会第1日目〉	26	国際ロータリー現況報告	94
会長・幹事会		地区の現況報告	102
開会の挨拶	28	記念品贈呈	105
ガバナー挨拶	29	2002～2003年度	
国際ロータリー会長代理挨拶	31	ガバナーエレクト挨拶	106
協議	36	記念講演	
大会決議案上程承認	36	「企業の社会貢献と	
大会運営について	37	頑張り！北海道」	108
ロータリー文庫について	38	記念講演謝辞	123
記念フォーラム		表彰	124
「めざせコミュニティへの		次期地区大会開催地発表と	
サービスを」	40	開催クラブ会長エレクト挨拶	128
国際ロータリー会長代理歓迎晩餐会	63	国際ロータリー会長代理所感	129
ガバナー挨拶	63	ガバナーお礼の言葉	134
国際ロータリー会長代理挨拶	65	国際ロータリー会長代理	
乾杯の挨拶	67	ご夫妻への記念品贈呈	135
閉会の言葉	69	閉会の言葉	136
プログラム〈大会第2日目〉	70	記念懇親会	137
開会の言葉	72	並行プログラム	140
国際ロータリー会長代理		スパウスプログラム	142
ご夫妻・来賓・ご招待者紹介	73	青少年プログラム	
物故会員の追悼	74	「新世代プログラム」	143
参加クラブの紹介(地区大会登録者名簿参照)		米山奨学会学友会・	
歓迎の言葉	75	財団学友会合同プログラム	163
ガバナー挨拶	76	記念ゴルフ大会	176
ご来賓祝辞	78	ご来賓・ご招待者ご芳名	178
札幌市への記念品贈呈	79	地区大会特別参加者名簿	179
国際ロータリー会長代理挨拶	80	地区大会登録者名簿	182
大会運営委員会報告	88	地区大会運営委員会役員	
大会信任状委員会報告	88	及び実行委員会役員	194
大会選挙管理委員会報告	89	ホストクラブ実行委員会	195
大会決議案上程	89	地区大会を終えて	196
		編集後記	198



国際ロータリー会長メッセージ



MESSAGE OF RI PRESIDENT

To all Rotarians and Guests attending the District 2510 Conference Cherie and I send warm greetings and heartfelt good wishes to everyone attending this 2001-02 District Conference.

We also take this opportunity to express our appreciation for the dedication and hard work of Governor Hideharu Iwaki and Setsuko, who along with the conference committee, has put together a comprehensive program of Rotary information, fun and fellowship. This event provides a unique opportunity for you to learn more about Rotary and to share with friends new and old in gaining a deeper understanding of what it means to be a part of this organization. I urge you to take full advantage of all that this event has to offer.

Unfortunately it is not possible for Cherie and me to visit all the conferences taking place this year, so I have invited an outstanding Rotarian to represent me at your conference. Please welcome RI Vice President Gary C.K.Huang and his spouse, Corinna as our personal representatives. I'm sure you will enjoy their company during your conference. I've asked Gary to share with you my special concerns, including the importance of increasing our membership and strengthening our clubs.

We are at a critical time in Rotary's history and I am counting on each of you to help in demonstrating to people everywhere that for Rotary International in the 21st century---
MANKIND IS OUR BUSINESS!

With warm regard.

Sincerely,

Richard D.King
President



RI会長メッセージ 第2510地区大会参加の全ロータリアン 及びご来賓各位へ

私とチェリーは2001-2002年度地区大会に出席されている皆様に心からなる歓迎を申し上げます。又、この機会に岩城秀晴ガバナー、節子夫人と同時に大会実行委員会に対し献身的な活動に深く感謝を申し上げます。その包括的なプログラムはロータリーの知識と親睦の喜びを結び付けるものであります。この行事はロータリーについてより多くを学び、組織の一員である新旧の友人達を深く理解しあえる絶好な機会であります。準備された諸行事に全部出席されることをお勧め致します。

私とチェリーは残念なことに出席出来ませんが、素晴らしいロータリアンを私の代わりに出席させました。国際ロータリー副会長ゲリー・C.K.ホァングとコリーナ夫人を私どもの代理として歓迎してください。大会に出席されてよかったと感じられると確信しております。私の特別関心のある会員増強とクラブの拡大の重要性をゲリーに強調する様依頼しております。

我々は今ロータリーの歴史の中で危機的な時期をむかえております。私はあなた方一人一人が21世紀のロータリーの為に「人類が私たちの仕事！」と実証されることを願っております。

リチャード D.キング
国際ロータリー会長



Program for The First Day of RI2510 District Conference

◎President and Secretary meeting

Date : 2001.10.27(Sat)

Place : Sapporo Park Hotel Emerald(3F)

Master of Ceremonies

Vice District Secretary, Kunio Imai

13 : 00 Registration

14 : 00 *Meeting called to order and Gong
Governor, Hideharu iwaki

*National Anthem

*Rotary Song

(Warera no nariwai) "Our Duties"

Song leader, Ryoji Honma

Piano, Ryoko Washizu

*Introduction of RI President Representative,
Guests and Officers

Governor, Hideharu Iwaki

*Opening Remark

Conference Executive Committee

Chairman, Shunsuke Hatanaka

*Governor Address

Governor, Hideharu iwaki

*RI Representative Address

RI Vice President, Gary C. K. Huang

14 : 40 *Assembly

*Conference Resolutions Review

Conference Resolutions Chairman,

PG Choueï Itoh

*Conference Resolutions Endorsement

Governor, Hideharu Iwaki

*Conference Procedure

Conference Executive Committee

Vice Chairman, Toshiaki Yoshida

14 : 57 *Rotary Library

Rotary Library Committee, Takao Fukui

15 : 02 *Gong Governor, Hideharu Iwaki

15 : 03 *Notices

Conference SAA, Junji Nishiwaki

15 : 05 *Break

◎Commemorative Forum

Date : 2001.10.27(Sat)

Place : Sapporo Park Hotel

Park hall AB (3F)

15 : 30 *Forum

Theme "Community Service"

Discussion of Community Service based on the report from each club. We would like to find the better relationship between community service and community needs in the 21st century.

17 : 00 *Closing

*Notices

Conference SAA, Junji Nishiwaki

◎Reception for Representative of RI President

Date : 2001.10.27(Sat)

Place : Sapporo Park Hotel Emerald(3F)

Master of Reception

Conference Executive Committee

Chairman Shunsuke Hatanaka

17 : 30 *National Anthem

*Attraction

Chorus of Sapporo Children's Musical Group

17 : 45 *Welcome Address and Introduction of
Guests

Governor, Hideharu Iwaki

17 : 50 *Representative Address

RI Vice President, Gary C. K. Huang

18 : 00 *Toast

Past RI Director Ryouichi Takeyama

19 : 00 *Closing

Conference Executive Committee

Chairman Shunsuke Hatanaka



会長・幹事会

開会の挨拶

大会委員長

畑 中 俊 介



本日は、Gary C. K. Huang RI会長代理ならびに、Corina. S. L. Yaoご夫人、また、元RI理事、そして、多くのパストガバナーの方々にご出席を頂きまして、開会の言葉を述べさせて頂き大変光栄に存じております。今大会の行事が、この会長・幹事会で、いよいよ始まったという気がいたしまして、ちょっと緊張しております。今大会は、総登録数2,082名ということで、このご時世にしましては、

上出来だというふうに思っております。皆様会長・幹事さんの方々のご理解とご協力によりまして、このように大勢参加出来ることになったと、感謝申し上げます。どうぞ、明日の記念懇親会まで、大会を充分にお楽しみ頂きまして、そしてこの大会を通じて、ロータリーの認識を深められ、さらに、友情の輪を広げられることをご祈念申し上げて挨拶いたします。ありがとうございました。



ガバナー挨拶

ガバナー

岩 城 秀 晴



皆様、こんにちは。66クラブを公式訪問させて頂きましたので、大体皆様のお顔は存じ上げておりますが、お会い出来ましたことに、改めて今日の喜びを感じさせて頂いております。地区大会の第一日目のプログラム、会長・幹事会に副会長のGary C. K. Huangご夫妻が国際ロータリー会長代理として遠く台湾からお越し頂き、誠にありがたく、感謝を申し上げますと共に、心から、ご歓迎を申し上げたいと思います。また、地区外よりご多忙にも拘わりませず、多数のガバナー夫人そして、地区内の元RI理事、パスト・ガバナー、ガバナー・エレクトおよび札幌南ロータリークラブの姉妹クラブであります、東京東ロータリークラブの皆様、そして新世代の皆様のご来臨を賜りましたこと、心から歓迎と感謝の意を表したいと存じております。さて、ご

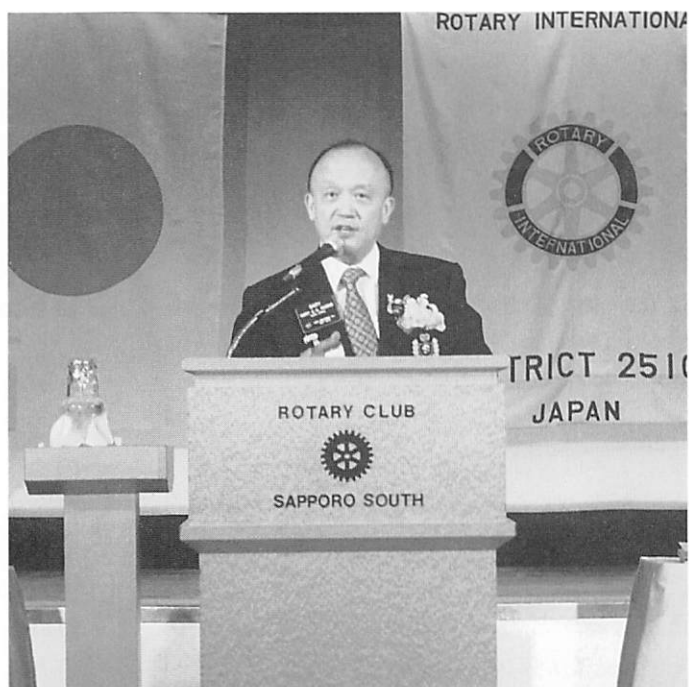
案内の如く、今年度の地区大会は、RI理事会で推奨されておりますように、年度の前半に地区大会を実施することに致しました。皆様にとっては、年に2回の地区大会が実施されるということで、誠に迷惑をお掛けしたことを心からお詫び申し上げます。会長・幹事会に出席の皆様は、すでにご承知の通り、今年度のキング会長のテーマは、Mankind is Our Businessでございます、人類社会には、身障者の方、飢餓に苦しむ方、病気によって苦しむ方を私達、ロータリアンがいかに希望をもたせていくかが仕事だと申されております。1843年に、チャールズ・ディケンズが書かれた、『クリスマス・キャロル』と題する物語から、引用されておりますが、大人の童話を1870年まで書いた作家だと言われております。私達ロータリアンの心にふれた節でも



あり、興味深くそのテーマに私は感銘をうけ、公式訪問において、クラブの方々にその話をさせて頂きました。それが、21世紀を迎えた今日に広がった奉仕の輪が、人類をさらに幸福に導こうとした理念であることを、申し上げさせて頂きました。そこで私は、ガバナーとして、「めざせコミュニティへのサービスを」をテーマに掲げさせて頂きました。今年度の地区運営は、フレッシュな動きと、更にクラブが楽しみのあるクラブとなり、和やかな例会になるように、心から祈念をいたしました。この地区大会も更に、会員の友愛によって、地域に密着した社会奉仕が高まることを期待する次第でございます。ロータリーは、1905年、不況に喘ぐシカゴで、4人の青年により生れた友情と思いやりの心が万人にひろがって、今日の世界的な奉仕団体となったことを思い浮かべるときに、ロータリーの奉仕活動の土台となるものは、会員相互の友愛の精神であろうと思われまふ。私は、既に、公式訪問を66クラブ終えましたが、その中で特に、1つは会員の増強、2つは教

育と研修、3つは組織の公共的イメージの高揚、4つはクラブの発展改善をお願い申し上げました。会員増強につきましては、当地区は、5年前には、約4,300名でございましたけれども、今年度の期首は、3,601名でございました。期待をしていましたところ、9月末では、3,674名となっております。期末には、是非、250名の純増で、お願い申し上げたいと考えてございます。この地区大会は、会員との友愛を深めるために、特に親睦に配慮いたしました。そして、人類が私たちの仕事の理念を追求すべく、「社会奉仕と新世代」をテーマにフォーラムを企画いたしました。これからの世紀における、ロータリーのあるべき姿を求めて、「入りて学び、出でて奉仕せよ」を实践すべく、その内容にいたしました。どうかこの2日間を楽しみながら、友愛の絆を深めて頂きたいと考えております。最後になりますが、今年度より、本格的に地区のリーダーシッププランを取り入れずで、4ヶ月を経過いたしております。お陰さまで、ガバナー補佐としての役割についても、ご理解を頂いております。今後は、バランスのとれた地区運営が進展して行くものと、確信いたしております。ポール・ハリスの心とロマンに共感を抱いた人達が、こだまのように反応して、これだけのロータリーに進展したと考えられます。新世紀に入ったロータリーも夢とロマンがあることを、心からご祈念しているわけでありまふ。意のついていない所もあるでしょうけれども、ご挨拶とさせて頂きまふ。ご静聴誠にありがとうございます。

国際ロータリー会長代理挨拶



国際ロータリー会長代理
Gary C. K. Huang

岩城ガバナーそして、大会委員長の畑中さん、RIのバスト理事でありました竹山さん、野口さん、そして、その他大勢のバストガバナーやロータリアンの皆様、こんにちは。今日はこの地区大会におきまして、国際ロータリー会長リチャードD.キングおよび、その夫人を代表いたしまして、このような場に出席出来たことは、私にとって、非常に光栄でございますし、大いなる喜びでもございます。今回この北海道での地区大会に出席出来ましたこと、非常に嬉しいことでございます。なぜならば、私は札幌が大好きだからです。札幌の土地はもちろん好きなんです、それ以上に私がお会いしたかった皆様方が大好きですので、札幌が好きだと言わせて頂きます。ビールだけを愛しているわけではございません。今年度の国際ロータリーの会長、

リチャードD.キングの元に1つのチームが結成されております。リーガル・イーグルという名前のチームがあるのですが、このチームメンバーのもと、国際ロータリーの理事が集まりまして、今年は、何処の大会に行くか、その行き先を決めるわけです。私は今回この第2510地区に参りましたが、この地区を選んだ理由が、3つございます。1つ目は、非常にすばらしい岩城さんというガバナーがいらっしゃるということです。岩城ガバナーは、非常に積極的で、親しみが持て、そして、常に笑顔をうかべていらっしゃいます。中国の仏様のように、非常に幸運に恵まれ、裕福だという顔をしていらっしゃいます。ですから、その笑顔の理由もわかるというものです。2つ目は、この地区におきましては、バスト・ディレクターとして、非常に優秀なお



二人が今回ここにいらしてらっしゃいます。お二人から私は非常に多くのことを学ぶことができました。昨晚伊藤義郎さん、竹山涼一さんにお会いする機会がありましたが、お二人は、私の師でもありますし、私のアイドルでもありますし、また将来の国際ロータリーの会長になりうる御方だと考えております。竹山さんに大きな拍手をお送りしたいと思います。3つ目は、この地区を私の友人が愛してたということです。1994年、台北におきまして、国際大会を開きました。その時のガバナーで名前は、トップ・チェーンという方です。7年ほど前に、チェーン氏は、地区ガバナーを務めてらっしゃいましたが、当時、台湾で最も若い地区ガバナーとして非常に大きな実績を残されました。41歳でした。その時私も41歳でしたが、1986年から87年にかけて、この台湾の第3450地区で、チェーンガバナーのもと、様々な仕事をさせて頂きました。私は2月生れ、チェーン氏は、3月生れで、彼のほうが1ヶ月若く、彼が一番若いガバナーということになりました。チェーン氏は、日本語が得意というわけではございませんでしたが、日本にロータリアンの友人がたくさんおられました。特に札幌の方々との友好が深く彼は幾度も私に話しておりました。これからも札幌に行きたいということを話しておられました。是非、地区大会の会長代理として、また行きたいということをです。しかし、残念なことに昨年、水泳中に事故が起きて、お亡くなりになられてしまいました。私は非常に心を痛めました。チェーン氏がいかに札幌を愛していたかを知っておりまして、その愛するだけの理由があったのだということも知っておりまして、是非、私が彼に代わって札幌に行きたいと思いました。私は日本の土を踏みまして、ちょうど24

時間経ったと言えると思いますが、もう自分の家に居るように、非常に気持ちが楽で、過ごさせて頂いています。それは、単に皆様方のご歓待が非常に心温まるものであったということでしょう。ありがとうございます。私はコリーナと、この数日間札幌に滞在させて頂きませんが、素晴らしい時を過ごせると確信しております。この2週間地区大会における様々な情報を頂き、その情報を読んで参りました。それを読ませて頂きまして、皆様方のこの地区が、素晴らしい業績を残していること、そしてその業績は何もその地区に限ったことではなくて、ロータリアン全員の向上にむけての素晴らしい仕事をしてきたことに関しまして、心より、敬意の念をお伝えしたいと思います。皆様方は、最高のロータリアンでいらっしゃいますから、他の方はどうしろこうしろと教えて頂く必要がまるでないのではないかと思います。しかし、今回は、国際ロータリー会長の代理として参りました。私自身国際ロータリーの副会長を務めておりますので、是非、皆様方にこれから三つの英語の言葉をお伝えして、私のメッセージとさせて頂きたいと思います。この三つの言葉が、皆様方の活動、そして私どもの活動が、今年度素晴らしい最高のものになるようにとお話を進めて参りたいと思います。すなわち、私どもの今年度のテーマ、「人類が私たちの仕事」という目標です。まず、最初の英語の言葉、ポジティブです。これは前向きにと訳せると思います。皆様方は、会長であり、幹事であり、そして、委員会の委員長でいらっしゃいます。その重要な職に選ばれたということは、非常に、光栄なことだと思います。それは、非常にポジティブなものとして、捉えていかなければいけないということです。皆様方一人一人が、ご自身のク



ラブに対して、自分の出来る最高の仕事が出来るといふことを、自信を持ちそして、ポジティブな前向きな姿勢で活動して頂きたいと思います。他のロータリアンの方が、皆様方に何を言おうとも、それは心配する必要がないと思います。また、パストプレジデント、前会長の方が、皆様方について、何と言ったかについても、それほど注意を払う必要がありません。勿論、耳を傾けるという事は必要なかもしれません。しかし、ご自身の仕事に対して、前向きであり続けて頂きたいと思います。なぜなら、皆様方クラブのロータリアンの一人一人が、皆様方をお選びになったということですから。

二つ目の英語の言葉、アクティブです。活動的ということでしょうか。そのアクティブという言葉は、あらゆる活動に積極的に参加するということを意味しています。最善を尽くすということで、自分のクラブのロータリアンの方々、そして、ひいては地区全体のロータリアンの方々の尊敬を得ることが出来ると思います。一つここで覚えて頂きたい点は、どう頑張っても、1年365日しかないということです。もうすでに4ヶ月過ぎてしまい残り8ヶ月しか残っておりませんが、やはりその時間を最大限に使って、ベストを尽く

して、様々な活動に、自分を参加させていく。このアクティブという考え方が非常に重要だと思います。そして、2002年6月30日になりましたら、ロータリアンの方々は、皆様方の活動を心に残して下さると思います。すなわち、皆様方が、クラブの為に、どのような仕事をなさって下さったのか、どんな素晴らしい成果を上げて下さったのかということをお心にとめて下さるのではないのでしょうか。そして、皆様方が去った後でも、皆様方の去ったことを淋しく思ってくれるものと思っております。2つの言葉を申し上げて参りました。ポジティブ、積極的に、アクティブ、参加する、そして、三つ目がビーフレンドです。この友情というものを通じて、私もはより多くの活動をすることが出来ると思います。また、この友情、友好というものがあるからこそ、ロータリアンになったんだと思います。この友情を通して、友好を通して、より多くの、よりよいサービスが出来、ひいては、人類に向けての奉仕が出来るものと思っております。皆様方のクラブの今迄の会長の方々、そして、自分よりご年配の方々とは、是非、友達になって頂きたいと思います。また、同時に、若い新しいロータリアンの人達とも友達になって頂きたいと思います。こういった、若い人達が、クラブの為に、地区の為に、色々な仕事をして頂いていますから。皆様方家族の方々、また、皆様方のご両親、兄弟、子供達、そして近隣の人々とも、友達になって頂きたいと思います。この三つの、ポジティブ、アクティブ、ビーフレンドという言葉覚えて頂ければ、皆様方は、ロータリアンとして素晴らしい仕事がお出来になると思いますし、ひいては、人類の為に、奉仕の役に立つと考えております。最後になりますけれども、この機会を頂きまして、私は皆



様方お一人お一人を、是非、来年の3月、台北にご招待させて頂きたいと考えております。毎年、会長会議が行われますが、開催の場は、世界で、3カ国から5カ国選んで行われます。これは、国際ロータリーの会長が選ぶわけです。第1回目は3年前京都で、第2回目は2年前に香港で開催されました。今年は、私どものキング会長が、台湾の台北をこの会長会議の場として選択いたしました。2002年の3月22日から24日、台湾台北のグランドホテルがその予定になっております。是非この地区からも、参加して頂きたいと思い



ます。勿論、日本語の通訳もつきますので、皆様方のスピーチも問題なく、進んでいくことが出来ると思います。私は今回札幌ビールで乾杯いたしました。皆様方台湾にお出で頂ければ、台湾シャウシン乾杯ということで、進めさせて頂きたいと思います。もし皆様方がいらしてくださいれば、勿論楽しい時間を過ごして頂けると思います。しかし、もしいらして下さらないのであれば、今晚は少し飲み過ぎるかもしれません。それでは皆様、ご静聴ありがとうございました。

PROFILE (RI会長代理プロフィール)

Gary C.K. Huang
RI副会長 (2001-02)




PERSONAL BACKGROUND

Name : Gary C.K. Huang (黄其光)
Birth Date/Year: February 12, 1945
wife : Corinna S.L. Yao (姚世蕾)

Rotary Activities

Joined the Rotary Club of Taipei (1976)
President, Rotary Club of Taipei (1982-83)
District Governor, D.3450, R.I. (1986-87)
Director, R.I. (2000-02)
Vice-President, R.I. (2001-02)

経歴

お名前 Gary C.K. Huang
生年月日 1945年2月12日生まれ
奥様のお名前 Corinna S.L. Yao

■ロータリー歴

1976年 台北ロータリークラブ入会
1982-83年度 台北ロータリークラブ会長
1986-87年度 第3450地区ガバナー
2000-02年度 RI理事
2001-02年度 RI副会長

■職歴

台湾 Sogo Shinkong Security Co., Ltd. 会長
P.S. Insurance Agencies Inc. 副会長
(元 Malaysian Overseas Insurance Co., 理事
元 Taiwan Securities Co., Ltd. 監査役
元 中華民国工商建設研究會 秘書総長)



協 議

大会決議案審議



大会決議委員長
伊 藤 長 英

只今から、大会決議案を上程させて頂き
ますので、宜しくご審議のほど、お願い致しま
す。では、大会決議案を朗読させて頂きます。

(大会決議案朗読＝省略)

大会決議案上程承認

大会決議案上程承認

ガバナー
岩 城 秀 晴

只今、伊藤長英バスターガバナーより、上程
させて頂きました、第1号から、第13号まで、
いかがでございましょうか。異議がなけれ
ば、拍手を頂きたいと思ひます。ありがとう
ございます。



大会運営について



大会副委員長

吉田嘉昭

ROTARY CLUB
SAPPORO SOUTH

大会運営につきましてご報告申し上げます。

本年は第2510地区初めての春、秋2回の大会開催と云うことでホストクラブとしては何かと心配もございましたが、川崎秀雄会長以下札幌南ロータリークラブの総力を結集し、畑中大会委員長の指揮のもと、「岩城ガバナール年度の地区大会を成功させよう」をスローガンに「心に残る地区大会」を目指して、準備を致してまいりましたが皆様のお力添えによりまして大会登録数も2,082名とすることができました。

これもひとえに地区内の各クラブ会長、幹事様をはじめ皆様のご協力の賜と心から御礼を申し上げます。

さて、本日はこの後、15時30分から記念フォーラムが開催されますが金井英明地区幹事をコーディネーターに「めざせコミュニティへのサービスを」をテーマに、第1部では当地区の「社会奉仕活動の現状と課題」について、第2部では「ロータリーの社会奉仕活動に対する社会の目」等を取りあげ、地域

に対する社会奉仕の新しい取り組みをテーマとしてございますので、その方向性について新たな示唆を頂戴できるものと期待いたしております。

そして本日の締めはRI会長代理歓迎晩餐会となっておりますのでよろしくお願いを致します。

尚、明日の大会2日目につきましても、同じ会場にて9時30分から本大会を始めとする重要なプログラムを経まして、14時20分から記念講演を予定しておりますが、演題は「企業の社会貢献と頑張れ！北海道」ということで札幌出身のどなたもご存知の東日本旅客鉄道株式会社 取締役会長 松田昌士様にご講演を頂くことになっておりますのでお楽しみ下さい。

松田様は東京にて「頑張れ北海道」の代表も務めておられますので、スケールの大きい、しかも元気の出るお話を頂戴できるものと存じます。

さて、その後は記念懇親会でございますが、今年はおもむきを変えて皆様にごゆっくりと楽しんで頂けますよう着席形式とさせて頂き、エレガントでエキサイティングな「しばた はつみ」さんのステージをご用意しておりますので2日間の疲れを癒して頂けるものと存じます。

尚、本日の記念ゴルフ大会は秋晴の天候のもと、最高のコンペになったものと存じますし、又、明日のスパースについても芸術の森となっておりますので本日同様に好天を期待したいものであります。

最後に本地区大会が成功裡に、そしてご参加下さいました皆様にとりまして今後の奉仕について新たなご示唆につながって頂ければとホストクラブとしてご祈念申し上げまして挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



ロータリー文庫について



ロータリー文庫監査委員
福井 隆 男

昨年から、ロータリー文庫にたずさわっておりますが今日はロータリー文庫委員長の代わりとして三重県から参りました。ご承知のように、ロータリー文庫は、ガバナー月信に、載せて頂いておりますが、インターネットを開いて頂きますと、きちんと出ています。私はこの地区の石垣パストガバナーと同期のガバナーでロータリーに入りまして30年になりますが、ガバナーになって初めてロータリー文庫の存在を知りました。ここに（見本を手）、詳しくロータリー文庫の本について書いてございますので、読んで頂ければ結構ではないかと思います。日本で約80年前に初めてロータリークラブが出来ましたが、ご承知のように、ロータリー日本50年史を編集企画しようとしたのが、1970年でございます。日本ロータリー連絡協議会、連絡委員会が、今

から31年前の（1970年）、昭和45年11月1日有楽町のビルに、ロータリー資料室として発足しました。昭和48年10月にロータリー文庫と改称して、文庫の資料としては、約2,000部もありませんでした。現在では、約20,000部近くの資料を持っています。1999年からRIに認められまして、ジャパン・ロータリー・クラブス・ライブラリーという名称を与えられました。ロータリー文庫は、最初、ロータリー連絡委員会から交付金を頂き、文庫の整理を進めていました。昭和50年、今から26年前に、ロータリー文庫運営協力金と名付けまして、各会員の方々から、年間300円、半期ずつ、150円をクラブから徴収させて頂き、運営にあたっているわけでございます。本そのもの、資料そのものは、お貸し出しは致しておりませんが、どこのクラブに必要な資料



があるかは直ちにお知らせする事が出来ません。例えば札幌南ロータリークラブの、竹山涼一先生の本が必要な方には、直ちにそちらにご連絡を差し上げております。また重複する資料がある場合は、直ちにロータリー文庫の方からお送りさせて頂いております。一昨年今ここにありますジス・ロータリアンエイジと、昨年、ロータリアン・モザイクの復刻版を限定出版いたしました、すぐに売り切れてしまいました。文庫通信169号に載っておりますが、現在は二つとも、文庫のほうで、

再販いたしております。また一昨年、97年の資料目録総括ダイジェスト版を、各クラブに送ってございます。クラブ事務室には、必ずあると思います。読みますと、色々な事が書いてございます。例えば、この第2510地区の地区誌を作る場合に、過去の古くからの区分けをしてございますので、そこを読んで頂きますと、地区誌編纂には、きわめて有効に活用出来るのではないかと思います。この資料目録総括ダイジェスト版を是非、皆様方に読んで頂き、ロータリー文庫を大いに活用して頂ければ良いと思います。またこの文庫をインターネットで開けて頂き資料を活用して頂くと大変嬉しいと思います。現在、職員は2名ですが、せめてこれが、3名あるいは、4名になれるように、忙しくなりますようにと、運営委員として、監査委員として、願っております。色々お話し申し上げましたが、是非、ロータリー文庫をご利用頂くようお願い申し上げます。私のPRを終わらせて頂きたいと思います。ありがとうございました。



●記念フォーラム

「めざせコミュニティへのサービスを」



第1部 フォーラム

1. 2510地区の社会奉仕活動の現状と課題
2. 地域は何を求めているか
3. 地域の新世代と共にする社会奉仕活動
4. 有珠山噴火災害記念事業に参加して
5. 21世紀に目ざす社会奉仕活動

○討論 (30分)

第2部

1. ロータリーの社会奉仕活動に対する社会の目
2. ロータリーに何を期待するか

会場：札幌パークホテル

3階パークホールAB

コーディネーター：金 井 英 明 地区幹事

パネリスト：	和田 壬三	地区社会奉仕委員会委員長
	菅原 剛太郎	地区社会奉仕委員会委員・1999-2000滝川RC会長
	米山 道男	地区財団学友委員会委員長
	小野寺 義雄	入江貝塚縄文遺跡ガイド・元小中学校教諭
	杉江 俊太郎	地区社会奉仕委員会委員・1998-1999小樽RC幹事
コメンテーター：	真田 和義	毎日新聞北海道支社報道部長
	北 良 治	奈井江町長



金井英明コーディネーター

司会：記念フォーラムを開催いたします。司会を務めさせていただきます地区副幹事の平でございます。宜しくお願いいたします。今回のフォーラムはお手元のプログラムの22ページに記載されてあります様に、「めざせコミュニティへのサービスを」というテーマで進めさせていただきます。本日ステージにご登壇されている方々のご紹介をいたします。まずRI会長代理ゲリー・C.K.ホァング副会長です。RI第2510地区岩城秀晴ガバナーです。2名のコメンテーターの方をご紹介いたします。最初に毎日新聞北海道支社真田和義報道部長です。同じく奈井江町、北 良治町長です。続きまして5名のパネラーの方々をご紹介いたします。地区社会奉仕委員会委員長、和田壬

三さんです。地区社会奉仕委員会委員、菅原剛太郎さんです。地区財団学友委員会委員長、米山道男さんです。現在入江貝塚のガイドをしております元小中学校教諭、小野寺義雄さんです。地区社会奉仕委員会委員、杉江俊太郎さんです。最後にコーディネーターの地区幹事、金井英明さんです。金井地区幹事進行を宜しくお願いします。

金井：はいありがとうございました。地区副幹事のご紹介を受けました金井でございます。大変お疲れのところお集まり頂きまして、感謝を申し上げます。記念フォーラムでございますけれども、約1時間半でございます。出来るだけ感動的なフォーラムで終始したいと、私達は準備を進めて参りました。皆様のご期待に応える様、頑張って務めさせていただきます。幸いにこのフォーラムのコメンテーターには素晴らしい方々にお出で頂きました。ロータリーの会員ではございませんけれども、一般社会から見たロータリーに対する期待などおっしゃって頂きたい、というように思っておりますし、また地区の方では社会奉仕委員長であります和田先生を始め皆さんパネラーとして大変なキャリアをお持ちでありますので、また素敵なお話をされと思



司会の 平 昌夫地区副幹事



います。この記念フォーラムは、「めざせコミュニティへのサービスを」ということで進めさせて頂きますけれども、本年度のRI会長のキング会長の「人類が私たちの仕事」ということと、それを受けて当第2510地区の岩城ガバナーがもっとも地域社会に奉仕をしようじゃないかと、このテーマを設定して、我々企業人という部分もございまして、社会貢献をもっとしていこうという様なことでこのフォーラムを進めて参りたいと思っております。幸い地区の中で各クラブが社会奉仕の色々な活動をされておりますので、その実例をご紹介しながら、皆さん共々、新しい社会奉仕の発展に努めていきたいという風に思っております。各パネラーの皆さんには具体的な事例でご提言を頂きますので、おそらくお解り頂けることが多々あると思っておりますので宜しくお願いします。時間が余りありませんので、早速進めさせて頂きますけれども、パネラーの先生方にそれぞれ約5分ほどお話を頂きまして5人の方々のお話の後に、30分～40分程度会場の方からご意見なりご質問を頂きまして、その後にコメンテーターのお二人の方にお話し頂いて、またご意見なりご質問なり皆さんで討論しながら、最後に岩城秀晴ガバナーの講評を頂き、そして黄其光RI会長代理の感想も頂きまして終了したいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

それでは最初に当地区「第2510地区の社会奉仕活動の現状と課題」につきまして、地区社会奉仕委員会委員長であります和田さんにまずお話と、提言をして頂きたいと思えます。宜しくお願いいたします。

和田：まず本日お集まりの各ロータリークラブの会長さん、幹事さん、社会奉仕委員長さんに非常に短い間にそれぞれのクラブの社会奉仕事業の現状について資料を提供して下さ

いましたことに、感謝申し上げたいと存じます。最初に皆さんから提供のあった資料をもとに、当地区の社会奉仕活動の現状についてビデオにまとめてみましたのでご覧になって頂きたいと思えます。それではよろしく願います。

（ビデオ）このビデオは第2510地区の社会奉仕活動の現状をまとめたものです。各ロータリークラブは自由に奉仕活動を選択することが出来ますが、各地域社会のニーズを最もよく反映する活動を実施するよう奨励されています。ビデオは当地区内の各ロータリークラブの社会奉仕委員会の活動内容を目次のように分類して紹介するものです。

〈環境保全〉（真駒内RC）この活動は森に自生する雑木の種を拾って2、3年かけて育て再び森に植林するという事業です。（七飯RC）大沼公園内に毎年野鳥の巣箱かけを行っています。（恵庭RC）市から借りた土地を小麦園と名付けてりんご、なし、ぶどうなどを植えて、毎年植樹、草刈りをし作業後には親睦会を行っています。（留萌RC）行政、NGOと共同で、毎年海開き前の市民海水浴場のゴミ拾いを行っています。（札幌西北RC）三角山の東屋の修理、清掃事業。屯田防風林の清掃。石狩浜清掃。（札幌はまなすRC）（札幌北RC）札幌駅前センチュリーロイヤルホテル前の歩道の柵花壇の造成。（芦別RC）カナディアンワールド市民公園の清掃、草刈作業。ロータリーの森の整備、植樹33年間継続して行っています。（江別西RC）ホテルの生息地のゴミ拾いを地元の高校生と一緒に実施。（深川RC）48市町村が実施する石狩川クリーンアップ運動に参加。

〈人間尊重〉21世紀は環境と並んで福祉問題とりわけ高齢化社会における老人介護の問題が我が国における最大の社会問題です。この



和田三三パネラー

問題を解決する鍵は、他人への思いやりの心にあります。以下各クラブの福祉に対する取り組みについて紹介します。(長万部RC) 全道でも有数の高齢化率高位町村65歳以上30.6%。高齢者障害者への入浴サービスへの奉仕活動。当番制で月1回、乗用車3台、人員3人を提供して送迎サービスを行って9年目を迎えます。(札幌はまなすRC) 介護老人施設オアシス21のバス遠足に参加。(室蘭北RC) ロータリー献血の集いを実施。会員、家族、通行人にも呼びかけて実施。(岩内RC) 岩内町障害児親の会の卒業式に参加。記念品贈呈。岩内あけぼの学園が自立のため栽培している花の苗を購入、協力しています。特別養護老人ホームへの慰問品寄贈。(白老RC) ロータリークラブ婦人の会の編み物の集い。北海道リハビリセンター寿幸園に入所中の女性55名を対象に靴下カバーを作って足に履かせる事業。肢体不自由児通園施設こだま園、心身障害者福祉施設愛泉園のクリスマス会への出席。(深川RC) 知的障害児の施設あかつき学園のサマーフェスティバルに参加、協力。(札幌西RC) 札幌育児園の園児を動物園に招待。ホスピス病院における癒しの音楽会、(赤平RC) 園児と共に老人福祉施設を訪れて一緒

に童謡を歌って慰問しました。

〈地域発展〉北海道は過疎対策も重要です。地域の発展のプログラムも紹介していきます。ここでは町の活性化のためのイベントも大切です。(森RC) 運動会、商工祭り、秋味祭り、紅葉祭り、七飯RC・長万部RC・森RC 合同花見例会など。イベントの盛んな町、中心となる商工会議所、組織ヘテント10基を計画的に寄贈。(岩見沢RC) 環境保全チャリティービアパーティー。市民1,000人の参加、参加費を市の緑の基金へ寄附。(留萌RC) 呑涛まつり、やん衆行灯に参加、会員全員で行灯制作に取り組み市民一体となり、ローターアクト及び会員家族と共に祭りに参加。留萌RC杯チャリティーパークゴルフ大会、104名の参加、収益金は社会福祉のために役立てています。創始杯ゲートボール大会を留萌ゲートボール大会と共催で実施。(札幌あけぼのRC) 手稲夏あかりへの参加、地域住民は幼稚園児、小学生の手作りの提灯を架台に取り付ける勤労奉仕活動に地域住民と共に参加。住みやすい町づくりに交通安全も欠かせません。

学校の少ない地方都市ではスポーツ交流事業も大切です。(白老RC) 白老RC杯少年サッ



カー大会実施。(札幌南RC) 札幌市・瀋陽市スポーツ少年相互交流事業への支援。(恵庭RC) 地域の青少年のスポーツ、野球、相撲の育成事業。

〈地域のニーズを見つける〉(苫小牧東RC) ジャズとボサノバの音楽会三四郎トリオライブin苫小牧にボランティア団体46団体を招待し、親交を深めました。地域のニーズを市民団体と交流することによって見いだす試みです。

社会奉仕事業を青少年や障害者、高齢者の方たちと共に行うことは効果的です。ロータリーの社会奉仕活動は超私の奉仕でありその理念は「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という実践倫理に基づくと言われています。しかし事業によっては参加者に最も多く報われるという実感を得難い事業があります。このような事業は、新世代や障害者の方たちと合同で行うことが効果的です。(上磯RC) 薬物乱用防止運動、学生、ROTEX、交換留学生なども参加、学校へのチラシの配布、準備から参加。(真駒内RC) 森だんだんプロジェクト、地域の家庭、職場、障害施設、福祉施設、学校と共同で森を育てるプロジェクト。(七飯RC) 地元中学生と共に、毎年大沼公園内に野鳥の巣箱かけを行っています。

(札幌幌南RC) 羊ヶ丘養護園の児童と共に畑づくりから収穫までを実施し交流しています。(札幌西北RC) 三角山の四阿周辺の清掃、草刈りを家族と共に行っています。(札幌北RC) 榊花壇の造成にローターアクト参加を得て実行。(江別西RC) 高校生と共にホテルの生息地の清掃作業を実施。(岩内RC) ローターアクトと共に全町クリーンアップ運動を実施。(赤平RC) 幼稚園児と共に老人施設を慰問。

奉仕する者される者が共に楽しめる事業は理

想的であります。(函館RC) 福祉施設の老人と共に函館競馬場で競馬を楽しむ。(函館北RC) ノースアイランダーズ創立30周年を期に手作りの催しとすることでハワイアンバンドを結成しました。その後今日まで約8年間福祉施設への慰問演奏会を続けています。(五稜郭RC) 会員の歌舞伎を老人ホームで披露。

(留萌RC) 少年野球大会を開催初日に少年、父母、審判団と共に交流焼き肉パーティーを実施。(小樽RC) 知的障害施設和光学園の子と市内高校生、ロータリアン、社会福祉協議会の方と共にスポーツ交流、交換会。(室蘭RC) 障害者、中国人留学生並びに企業での研修生を道新イタンキ浜納涼花火大会に招待。(千歳セントラルRC) 障害児とボランティアのパークゴルフの集いに参加、協力。(小樽南RC) 小樽商科大学留学生17名と共にオートクルージングを楽しむ。札幌地区札幌手稲RC・札幌あけぼのRC・札幌清田RC合同でキタラにおいて手稲東中・北野台中の合同の合唱部の合同コンサートを開催。(札幌西RC) 札幌育児園の園児を円山動物園に招待し、円山動物園子供の国の係の方と円山動物園友の会のボランティアと共に実施しました。ホスピス病院における癒しの音楽会を東札幌病院のボランティアの協力で実施。(札幌東RC) 地球環境保全フォーラム実施、市民会員含め320名が参加。(新札幌RC) チャレンジエコノートの作成と、著作権の札幌市への寄贈。創立30周年記念基金を利用してタイから学生4名先生1名を招待して地元の生徒や先生方と2週間交流しました。

地区社会奉仕委員会は初めての試みとして、洞爺湖RC、及び九州長崎の島原RCと共同して有珠義援金事業作文コンクール「虻田島原交流記念旅行 噴火の町に暮らして」というテーマで記念フォーラムを実施しました。こ



菅原剛太郎パネラー

の事業の為当委員会は足かけ2年間洞爺湖RCと共同して地域のニーズを見つける努力をしました。ボランティアとして避難所に暮らす子供たちを励ました、小野寺さんにも事業に加わって頂きました。事業は成功したと確信していますが、その最大の秘訣は地域に最も必要とされている事業を見いだしたからです。

(ビデオ終了)

和田：映像で当地区内のロータリークラブの現状についてご覧頂けたと思いますが、私はロータリアンとしての立場からあえて本日のテーマに沿って4点ほど反省すべき点について問題提起したいと思います。

まず一点は、地域のニーズに関してであります。継続事業については今この事業が地域社会に最も求められている事業であるのか、といった視点から絶えず調査し検証する必要があると思います。また同じ事業でも、もっと地域社会のニーズにあった方法がないかといった視点から検証する必要もあると思います。地域社会に今何が最も必要なのかを見いだすということは容易ではありません。私共の指向は私共の認識や価値観といった枠を越

えることは出来ません。従って幅広く情報を収集するということは当然であります、私共の価値観に偏りがなかったかといった反省のもとにたくさんの方の意見を求めて地域社会のニーズを求めることも必要ではないかと思えます。

二番目は参加者の問題であります。私共の社会奉仕事業の参加者はロータリークラブの会員、家族或いは従業員の方に偏っているのではないかと、という点であります。新世代の幼稚園、小学校、中学校、高校生、或いはインターアクト、ローターアクト、障害者の方々、町内会、NGOなど幅広く、新世代や市民の方に呼び掛けて事業を行うべきではないか。事業によっては他のロータリークラブの方々或いは青年会議所やライオンズクラブ、キウニスクラブなど様々な団体の方にも呼び掛けて行ってはどうかなという風にも思います。私は個人的には、仲間と一緒に年1回浜辺に集まってゴミ拾いをしておりますが、障害者の方とか或いは小学校、中学校、高校生の方、或いは企業のレクリエーション、或いは町内会の行事などとしてたくさんの方に集まって頂いております。その為1年間私共は、その事業の為に人を集めるのも事業だということ



で取り組んでおりますが、この点について充分だったのでしょうか。

三番目は事業のやり方についてであります。事業はロータリークラブの事業です。全会員が計画の段階から実行、終了、報告まで情報を共通にし、意見を出し合い協力して実行する、といったことが求められております。私は事業によっては、ロータリアン以外の地域の方々或いは他のロータリークラブのロータリアン、さらには新世代の方々、障害者、ボランティアの方々とも計画の段階から実行、終了、報告など全ての段階でご参加頂いてもいいのではないかという風に思っております。

四番目は本日のテーマに関わりますけれども、21世紀に向けてロータリーの社会奉仕事業活動をより充実される為にはこのままの事業形態でよいのか、といった点であります。地域社会の住民或いは他の団体と共同して、より大きな事業を成すべきではないだろうか。このような視点から21世紀に向けてロータリーの社会奉仕事業について見直す必要があるのではないか、といったことを問題提起したいと思うのですが、私は抽象的に申し上げまして具体的、個別的には他のパネラーの方からご報告があるかと思えます。以上です。

金井：ありがとうございます。和田委員長の方から4点ほど問題提起がありました。後ほどまたご意見なりご質問頂きたいと思えます。続きまして、「地域は何を求めているか」ということで地区の社会奉仕委員会の委員であります、菅原さんからご報告宜しくお願いしたいと思います。

菅原：社会奉仕のニーズは限りなく存在しており、地域住民から寄せられるもの、ロータリアンが媒体となって見つけるもの、RIや地

区から提案されたものなど様々であります。

そしておのおのプロジェクトの必要性、優先順位や方法が徹底的に調査、検討されますが、プロジェクトの選択についてはクラブの関与の形態がどのようなものか、地域で奉仕活動をしてきた歴史はどのようなものか、プロジェクトはクラブ全員にとって魅力的なものなのか、資金面の支援と時間投入、どのくらいの期間になるのか、ローターアクト、インターアクト、地域共同体と協力が可能かどうか、他の組織とパートナーを組めるかどうか、などの質問が重要であります。そして地域における効果的なプロジェクトは、現実の問題に対応すること、地域社会の人々の生活を向上させること、奉仕の利益者の能力を組み込むこと、全ての参加者の貢献が貴重且つ必要なものであると認識すること、利用出来る資源や情報を現実的に評価しそれに基づくこと、測定できる特定の到達目標や目的を設定すること、活動を進めるネットワークを構築すること等であります。ここに二つの事例を提示いたします。

その一つは、1999年9月に滝川クラブで実施した障害者支援プロジェクト「ボランティアフェスティバルin滝川99」の事例であります。このプロジェクトの狙いはノーマライゼーションが叫ばれている昨今、我々の住んでいる地域社会の中には多くの物理的、心理的バリア（障壁）が存在しております。今回は障害者とその家族、ボランティア団体のメンバーそしてロータリアンが同じ高さの目線で交流を深め、1日を楽しく過ごそうという企画であります。まず入念な調査と準備を行いながら、ロータリアンとボランティア団体の打ち合わせを繰り返し、合わせて「新たな障害者観とバリアフリー」と題した教育講演をボランティアスタッフとスタッフ研究会と



米山道男パネラー

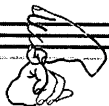
して実施し、当日の開催の弾みといたしました。当日朝方まで降っていた雨も上がり、写真2のノーマライゼーションモデル公園である、ふれあいの郷公園に障害者と家族150名、ロータリアン100名、ボランティア団体のメンバー150名が参加して開催されました。これはバリアフリー探検隊です。車椅子で街のあちこちのバリアを調査する車椅子に乗った調査隊であります。このバリアの実態調査結果を基に、改善すべき点を提言書に作成し行政に提出しております。一方公園のメインステージでは趣向を凝らしたアトラクションが行われました。脊髄損傷で車椅子の方の臨場感溢れるサックスの演奏、失明された方のギターの弾き語り、知的障害者の歌、マジック、手話の会のメンバーによる「上を向いて歩こう」の合唱、市民合唱団の合唱、参加者によるレク体操、よさこいソーラン砂川蝦夷の会の特別出演などで華を添えてくれました。また公園内のあちこちではロータリアン、市民ボランティアの方々との障害者の温かい交流が繰り広げられました。写真1は滝川西高茶道部の生徒達による野立であります。写真3は滝川夫人ボランティアの会のメンバーで大変な力になってくれました。種々の障害を

持った方達とその家族、市民ボランティア25団体、そしてロータリークラブメンバー計400名を越える楽しい交流の1日でした。このプロジェクト事業を通じて今後ともにバリアフリーの町づくりに努力していきたいと考えております。

次に支援金贈呈事業、「あなたの元気を応援します」について述べてみます。4年前から個人、団体を問わず草の根レベルで積極的な奉仕活動、市民活動に対してその活動をより活発に行うべく支援金の助成を行っている事業であります。地域社会には様々な奉仕をされている方がたくさんおります。この事業の目的は地域の奉仕活動を育てると同時に、地域のニーズを発掘するということにあると考えております。以上です。

金井：今、菅原さんの方から滝川RCの事例を紐解きながら地域は何を求めているかということをお話し頂きました。尚、ご質問ご意見その他後ほど伺いますけれども、三番目に「地域の新世代とともにする社会奉仕活動」ということで、地区財団学友委員会委員長の米山さんにご報告、問題提起をお願いいたします。

米山：米山です。それではOHPを使って説



明させて頂きます。和田委員長から与えられたテーマは地域の新世代と共にする社会奉仕運動というタイトルでしたが、全然考えがまとまらずに昨夜2時頃にまとまりましたので、早朝製造してすぐ出荷するお弁当みたいなもので鮮度は保証いたしますが、味はちょっと薄いかもしれませんので勘弁頂きたいと思います。時間が5分と限られておりますので駆け足で1から6までは各30秒づつくらいで終わります、7のところでは少し説明したいと思います。まず社会奉仕活動をRI会長は「人類が私たちの仕事」とおっしゃっていますが、私はもう少し広げて地球上に存在する全ての動物、植物或いは自然も全て調和がとれた共存が一番基本的な考えではないかと思っています。特に重点項目となりますのは、戦争をしたり環境を破壊したり弱者を抑圧したり、そのようなことが過去に行われてきましたけれども、それらに対して我々が何か出来ることはないか、さらに人間らしさのようなことを出来ることはないかを考えております。それではロータリアンはどのような人達でしょうか。私は思いますのは五つ、私はこれに当てはまらないところがたくさんありますが、一つは一般的に言いつて時間的に経済的にゆとりがある方々。二つめはさらに友愛の精神或いは奉仕の精神を持っている方。三つめはさらに各界の指導者になっている方。四つめは特に高度な専門的知識と技術を持っている方。私の専門的知識というのは、居酒屋の知識とか技術は山歩き知識しかないのですが、そういうものでも何か役に立つかもしれません。五つめは何か非常に人脈があるという方、そういうことがロータリアンの特徴ではないかと思っています。では何故新世代と共に奉仕活動をするかということですが、新世代とはどういう人達かといいます

と、体力気力があるとか比較的時間にゆとりがあるとか新鮮な感覚、同じようなことですが柔軟な発想が出来る或いは未来がある。何故一緒にやるかという二つ、一つは新世代自身にとって新世代の意識や知識が共に行動することによって向上する、もう一つは一緒にすることによって、相乗効果を期待出来るということだろうと思います。活動の対象は何かと申しますと、人類はもちろんですが動物、自然環境も対象になると思いますし、日本人だけでなく外国人或いは高齢者、新世代だけでなく成人も、もちろん対象になると思います。それから病気の人、障害のある人に対する援助も対象になると思います。新世代の人達は、一応30歳以下を新世代と定義しておりますが、特にロータリー関係の新世代の方が非常にたくさんおります。これは6種類ありますが、インターアクトは高校生でこれは10校でトータル180名会員がおります。ロータリーアクトは大学生或いは若い勤労者の人達ですが、12クラブが提唱して合計130名。それから高校生の1年間の青少年交換、短期も最近ありますけれども、これは既に35～40年ほどやっております。海外から350人来ています。現在は6カ国から14名来て、こちらからも14名送っています。ロータリー財団の奨学生、これは過去約40年続いておりまして、合計約200名送り出しています。帰ってきた人は学友という名前になっております。GSE、Group Study Exchangeというグループ研究交換、これも約30年続いておりまして、受け入れ、派遣共に約50名、帰ってきた人は学友という分類になっております。日本特有のロータリーの事業であります米山記念奨学生、これは留学生に対する奨学金を出している事業ですけれども、これも約35年続いておりまして200人、現在は24名というこ



とですが、この人達も学友会を結成しております。提唱クラブが全部でこの地域には71クラブありますが、まだ関与していないクラブもたくさんありますので、是非関与して頂いて、このロータリー関連新世代を増やす努力も是非お願いしたいと思います。この赤線を引いた学友の人達は、学友会をそれぞれ結成しており、明日並行プログラムでシンポジウムを行ないますので是非お聞き頂きたいと思います。それ以外の新世代といいますと、保育園、幼稚園児これも一緒に老人ホームを訪問して一緒に歌を歌うという立派な奉仕活動ができる新世代であります。小中高生、一つ例を挙げますと、当別高校にあります国際協力クラブというのがあります。花を育ててそれを売ってその益金を赤十字に委託して地雷の撤去に寄附しています。非常に素晴らしい考えで、まだ色々他の事業も行なっていますけれども、そういう特筆すべき高校のクラブ活動です。それから専門学校生、大学生、大学院生。北大では中村新総長の提唱で「元気プロジェクト」を50万円以下20件以内で、なにか学生にプロジェクトを提案させて実行するというのがあります。例えば構内のゴミ拾いですとか、遠隔地にいる子供たちに科学の面白さを教えに行くとか、それからコミュニティーFMを通じて北大を説明する、そんなようなプロジェクトが採択されたようです。それから修学生のことです。修学生と言いますのは日本語学校で学んでいる留学生で、こういう留学生と区別している制度は日本だけなんですけど、こういう人達も光が当たっていない人達です。こういう人達もむしろ活動の対象となる人達です。国際学校と言いますのは、北海道インターナショナルスクール、朝鮮高校のことです。それから非常に大きな素晴らしい青年グループは海外青年を経験した

方々で非常に色々な経験をしてきた方が道内にもおりますけれども、この人達は非常に力を持っておりますので、大いに協力したい相手だと思います。後は省略いたします。以上色々申し上げましたけれども、それでは新世代と共にどういう奉仕活動をするかということです、

①は、一緒にする奉仕活動で、清掃、慰問、スポーツ、キャンペーンなどたくさんやって頂いております。

②は、新世代に対する支援活動、スポーツ大会を開く、クルージングに招待する、これも非常に色々なクラブに活動して頂いております。

③は、新世代の活動を育成する事業、これは先程の菅原先生の滝川クラブが取り組んでおりましたけれども、活動を募集して助成する、或いはよくやっている団体を表彰する、そういうことも育成につながるのではないかと思います。

④は、いろんな関連新世代がありますが、その人達が増えるような、つまりインターアクトやローターアクトクラブを提唱して、まだ10～12クラブですので、もっとそういうことを提唱して頂きたいこととか、青少年交換、奨学生、GSEの応募を地域の青少年に推奨して頂きたいということです。

⑤は、もっと新世代と接する機会があれば自然にそこからまた新しいプロジェクトが生まれると思いますが、ロータリー関連ではライラというセミナーが奥貫委員長を中心に去年から活発に行われておりますけれども、各クラブ行事とか新世代がやる行事の方にも積極的に参加する。それから他の新世代にも目を向けて頂きたいと思いますのは、先程言いました留学生奨学生、青年海外協力隊経験者です。



小野寺義雄パネラー

⑥は、ロータリークラブ間の情報交換も必要であります。他のクラブの会報、70クラブの会報があるわけですが、それをよく読むことが必要なと、それから他のクラブの行事を見学に行く。私も今年の夏、長沼ロータリークラブのフェスティバルを見せて頂きましたけれども、非常によくやってらっしゃって、参考になりましたし、勉強になりました。そういう他のクラブのことももっと知ろうとする事、これが皆さんに私が強調したいことの一つです。

⑦は、今日いらしている奈井江町の北町長さん、真田報道部長さんもいらっしゃいますが地方自治体、報道機関、企業、教育機関、他の奉仕団体との協力も、大事だと思います。

(この最後のスライドが)今のお話をまとめたものですが、①は共同作業、ロータリークラブと新世代、これはよくやられていると思います。②の育成事業は、もうちょっと力を入れる必要があるかなと思います。③の支援活動もよく先程の例であります。④の増加という新世代グループをロータリー関連新世代に増加させるというところですが、これをもうちょっと力を入れたらどうかかなと思います。それから新世代との交流⑤です、これも

よく行われていますが、もっと工夫が必要だと思います。それから他のロータリークラブとの交流、協力、他の団体との交流、協力、このへんもっと必要だろうと思います。以上かけ足ですが報告を終わらせて頂きます。

金井：ありがとうございました。米山委員長には、昨日徹夜で一生懸命ご努力頂いたわりには、短時間で大変申し訳ありません。時間が多少押しておりますので、簡潔に早口でお喋り頂きまして恐縮でございます。

続きまして四番目でありますけれども、先程ビデオの中でご紹介しておりました、「有珠山の噴火災害記念事業に参加して」ということで、先程ご紹介申し上げました、入江貝塚ガイドをされ元小中学校の教諭をされておりました、小野寺さん、この方はロータリアンではございませんけれども、この記念事業に参加して我々にとって大変、貴重なアドバイスと存在で感謝を申し上げている方でございますので、宜しく願います。それでは、小野寺さん宜しく願います。

小野寺：極めて席が高うございますが、噴火以来おいでのロータリアンの先生方はじめ、大勢の方々のご支援を今なお頂いております。虻田に住まわせて頂いている一人とし

て、届かない言葉ではございますが心から御礼申し上げます。ありがとうございます。それでは早速お話をさせて頂きます。三つございます。

一つ目は子供は正直である、このお話をさせて頂きます。私は興味本位でどちらかという和不真面目な、そんな軽い気持ちで洞爺湖RCの、三浦先生にお電話を頂いて「おっ、行ってみるかな」。しかし不安が募るばかりであります。しかし子供達と一緒に会話をし、寝泊まりをし、その間の感想をやりとりする中で、「おっ、これは何とかなるぞ」そういう風に実感したのであります。そこで何故子供達の活動があのように見える形になったかと言うことを振り返った時に、子供達には経験させたくない経験を天災という名の下に過ごさなければならなかった日々、実体験がございました。それを作品にし、思いを文字にし、さらにそれを話し言葉に変えて子供達がやってのけた。私はその中で与えられた条件の中で、環境の中で、子供は正直に反応するものだということを学ばさせて頂いたのであります。そして研修旅行の途中で言うのです。子供の感性というのはすごいなあと思いました。「先生、もし深江町に災害がなかったらあの人達あれだけ力を合わせて頑張れたんだろうかね」こう言うのです。ご存じの道の駅の一場面でございます。また次の日、子供達は長崎の原爆のあの悲惨な姿を見るのです。

「先生火山が天災だね」「ああそうだな」「でも戦争って人災だね」この短い会話の中にこれから子供も、こうやってお話を聞いて頂く私も、学ばなければならぬことがたくさんあるかと思いますが、このように今度の義援金によって行われた事業というものは、まさにお腹が空いた子供におにぎりを与える喜びと、いただく喜びであります。二つ目の

お話は、これではいけないということをおいで先生方に聞いて頂きたいのであります。なるほどおにぎりはおいしかったという、しかしどうでしょう、それがロータリークラブの理念に基づいてこうなんだということは今の段階では解ります。こんな会話があるんです。「小野寺を先生と呼んでくれ」「先生こないだね、長崎まで連れて行ってきてくれてありがとうね。うちの子ねこうでこうで…」何回もロータリー、ロータリー、ロータリーという言葉がでてくるのであります。それを遮るように、「いや私は、いや私は…」と言っても、「いやいや、いいから聞いて」と。私が申し上げたかったのは、実は小野寺もロータリークラブの皆さんに連れて行ってもらったんだよ、ということが申し上げたかったのですが、それが一番最後になるんです。それほど今、機は熟しているということです。それは計画の段階でもあったように、作品を募集する段階でロータリークラブの名称がありますし、学校という組織の中でもありました。それを聞いた子供は家庭の中でロータリークラブという名前を使われたはずであります。見送りに来てくれました。子供の中に「ロータリークラブというそういう団体、組織があるんだな。」ということは解っている。これから先、おにぎりのおいしさを実感した場合に、そのおにぎりをどうやって作るのだ、お米はどうやって出来るのだという、そういう手立てを知らない限りそれ以上進まないのではないかと。私は生意気にもロータリークラブが地域、社会にあって非常に見えにくくなっているというのがこのことであります。ですから、この子供達の成長の具合を追跡調査、或いはその他今後予定されるであろう色々な事業に参加していく方法も一つではないかなと。それを呼びかけるのも一つではないかな



と。もちろん親もそうです。

時間がないので三つ目に移りますが、やらなければならないことと、出来ることには大きな差がある。どんな小さな計画であっても、やっぱりやろうと思えば大変なことばかりであろうと思います。しかし計画が立派であってもそれを成し遂げるというのは大変なことであり、時にほとんどの場合は挫折感が伴って、「あーこれ以上、うんうんうん…」ということになるのが小野寺の弱点でございました。しかし今度ロータリークラブがここにあるよということをちらっと見せて頂いたその中で、やっぱり体を動かしてみなければ、解らないことがあるな。前段の御三方の先生方のお話に尽きていることでございますが、この活動に参加するその一角はロータリークラブで結構なんですけれども、小野寺のように何にも出来ない人間だなと思いがちながらも、この感動。私は歳ばかり大人ですけども、長崎に行ってそのことを実感したのであります。向こうのロータリアンの方と親密という表現はおかしいのですが、とにかく古いご親戚のようなそういう優しい眼差しで極平易に会話が成り立っていることに私は驚きました。これは既に前段の蓄えられた姿として既に持ち合わせているロータリアンの、私の言葉で恐縮ですが連帯感なのでしょうか。私はそんなことを痛感させて頂いたのであります。これも地区だけではやっぱりダメだろう。後で和田先生にも聞かせて頂いたのですが、前回も来て何年も何年も同じ方との付き合いではないのだそうです。私はここにすごいな—と思いました。こういう既に持ち合わせておられる力を地域にどんどん流して頂く、この水源地から流れる愛情の飲み水がどんどん小さな蛇口まで届くのではないかなと私は思うのであります。ですからやらなけれ

ば解らないこの行動、この活動です。思い切って地域の皆さんに大きく働きかけて、行動に参加してもらうということが、あのおいしかったおにぎりをもう一回思い出せるような地域の人になってもらいたい、その中心になって頂きたい。まとまらないお話ではございましたが、小野寺の非常にありがたかったそういう報告をさせて頂いて一区切りとさせて頂きます。

金井：どうもありがとうございました。小野寺さんにはロータリーの事業と共に歩んだ事などを含めて、御提言、御報告を頂きました。ありがとうございました。

最後になりますけれども、「21世紀に目指す社会奉仕活動」ということで、地区の社会奉仕委員会の委員であります、杉江さんから御提言なり御報告をお願い申し上げます。

杉江：地区の社会奉仕委員の杉江でございます。21世紀に向けての社会奉仕活動ということですけども、ベテランがたくさんおられる中で私としては非常に重たいテーマであります。委員長に言われたときに、「何故私がこのテーマを」というと一言「君が一番若いからだ」ということでありました。ですからもしかしたら若いからこそ、ロータリー歴が浅いからこそ変な事を申すかもしれませんがご了承頂きたいと思います。どちらかと言うと21世紀に向けてというよりは、今説明あったこと全てが21世紀に向けての社会奉仕活動こうした方がいいのではないかと言われていたのではないかと思いますので、今まで話されたキーワードを元にまとめてみようと考えております。ただ一番大切なことは何かといいますと、今日この場にいられている各クラブの皆様がこの21世紀これから新しい時代が始まるんだ、その時に自分のクラブの社会奉仕活動というのは一体どういうようなことが一



杉江俊太郎パネラー



番いいのだろうか、ということをお各クラブで色々議論をして頂くそのきっかけづくりが今日である、そのように捉えて頂ければ幸いでないかと思います。

一番目のキーワードは地域のニーズを見いだす活動ということでありました。現在はあらゆる面で近代的で豊かになって参りまして、ロータリークラブが創設されたときに比べると非常に多種多様の行政や地域住民の望むことが増えて参りました。本当に地域のニーズにあった社会奉仕活動というのを見つけだす、このことがなかなか難しい時代になってきています。それに対応するためにはどうしたらいいのかと。やはり地域のニーズを見いだすための効果的な活動、地道ではありますがその活動が必要になってくるのではないかと思います。たまたまビデオでも隣の小野寺さんが言われましたので付け加えますと、例えば昨年3月有珠山が噴火しました。洞爺の方々は何を望んでいるのか。色々聞きますと、たくさんの人に来て欲しい、ということだそうです。それであれば、例えば地区の委員会なり、地区協議会なり、もしくは地区大会なり、それぞれのクラブの活動なり、洞爺で開いて、洞爺に集まって、というのが

洞爺の地域の方々が一番喜ぶこと。そういうのを見つけ出すということがこれからの必要なことだろうと思います。

二つ目のキーワード、これはクラブとしての社会奉仕活動だと思います。各クラブにおいて素晴らしい社会奉仕活動が行われておりますけれども、多くのクラブの会員の参加が得られていますか。多くのクラブの会員に参加を呼びかけていますか。クラブの会員一人一人が社会奉仕活動に積極的に参加意欲をお持ちですか。また各会員に参加意欲が持たれるような計画を組まれていますか。これを投げかけて受け止めて頂いた時に、どうかお考え頂きたいと思うのです。ある意味ではたくさんの、全員の会員が参加するクラブとしての全体事業ということもこれからは必要ではないかと思います。勿論ロータリークラブは個人奉仕が基本だというのは前提であります。しかしながらクラブ全体ということもこれからは必要ではないかと思います。

そして三つ目のキーワード、これはクラブとクラブの連動並びに、地域との連携であります。クラブとして地域のニーズにあった、そういう社会奉仕活動を進めていく上で、いくつかの同じ目的を持つ、もしくは同じ地域の



真田和義コメンテーター

クラブが連携を取ることによって、さらに大きな地域に対するインパクトが生まれます。そして他のクラブのロータリアンとの接点を持つことによって、親睦、交流の輪がどんどん広がります。さらにその中に地域の住民や他の団体の方々と連携を取ると、もっともっと大きなインパクトが与えられる事になる。30人で行う事業が300人、3,000人こういう人数で行えるのです。このように地域のニーズにあった奉仕活動を幅広く、たくさんのロータリアン、たくさんの地域住民その参加を得て行うことによって、地域住民がロータリーの社会奉仕活動の理解を深めてくれ、共鳴してさらに大きな輪の形成が出来る。つまりロータリアン同士、ロータリアンと市民が心と心の絆を持って地域のために奉仕できる、こんな活動がこれからの求められる社会奉仕活動ではないかという風に思っております。以上で終わらせて頂きます。

金井：ありがとうございました。杉江委員には21世紀に目指す社会奉仕活動についてキーワードを3つほど御提言、御提案頂きました。ここでだいぶ時間が押しておりますけれども、折角でございますので、会場でご意見、ご質問ございましたらお受けしたいと

思いますので、ご遠慮なくお願い申し上げたいと思います。もし無ければ、今日せっかくの市民の目と言いましょか、社会の目でお話し頂くことになっております、お二人の方をお招きしておりますのでたっぷり時間を頂戴したいと思っておりますので、早速お二人にお話を頂きたいと思っておりますが、今の5人のパネラーの方々のお話を受けて、日頃ロータリー・ロータリーの活動についてのご見識を含めて、アドバイスなりを頂きたいと思っております。

最初に「ロータリーの社会奉仕活動に対する社会の目」ということで毎日新聞北海道支社報道部長であります真田様からお話を頂きます。よろしく願いいたします。

真田：真田です。こういう席にお招き頂きまして本当にありがとうございます。ロータリー活動についての見識という部分ですが、正直言いますと具体的に考えたことはありません。勿論ロータリークラブというのがこういうことをしていることは知っていますけれども、それ以上の事について日頃の仕事の中でその価値観ですとか、具体的内容について個別具体的に考えるという機会が余りありませんでした。そういうことですから、今日のような席で、今パネラーの方々の色々なお話を聞いて、そして色々ビデオなど見まして「ああそうか。こういうようなことをやっているのか。」ということを再認識した次第です。そして私は三つぐらい思ったのですが、やはり報道、新聞社という仕事の内容とロータリアンの方々の考え方、取り組みというのは非常に似通っていると思います。

一つは世の為人の為。最近は死語になってしまったのですが、社会正義とかそういう社会的弱者を守っていく。こういうことがまず根底にあると思うのです。そういうことからす



ると、我々の仕事も皆さんの方から見ると、好きなことを書いて大変威張っている、という評価もあるかもしれませんが、根本はやはりこれも死語になっていますが、社会の木鐸であり権力を強いものと正していくこと。正しいことが強ければそれで構わないのですが、往々にして権威というようなものを正していく、というようなことが我々の仕事であります。ロータリアンの方々の仕事も同じだなと思いました。

地域のニーズということで地道に活動する、協力、継続ということは非常に大きな力になるということです。私たちに例えば取材で色々に掲載のお願いに来るのですが、そういうものに対して地道に対応して、日々の新聞で大きさは大きい小さいかありますが載せていって、社会に少しでもアピールできるようにする、こういうことが大切なことかなと思います。

三つ目は子供達に何を残すのか。これがきつとこのロータリアンの皆さんのある意味では目標ではないかという気がします。やっている取り組みが子供達、21世紀、22世紀の子供達に何を残していくか。ちょっと手前味噌なのですが、毎日新聞北海道支社の報道部で旧石器発掘の捏造問題に取り組みました。去年の8月に情報を得て動いて、去年の11月5日の朝刊でスクープ、特ダネという形で全国版に載せて、最近新聞協会賞なども頂いて非常に嬉しいのですが、手前味噌です。これも、記者達6人位ですけれども、嘘の歴史が、本当に捏造というのが事実だったら、子供たちに与える影響というのは、教科書にも載っていますし、嘘の歴史を21世紀に持ち越せない、何としてでもそれを阻止したい、そういう情熱なのです。特に教育に新聞をという運動があるのですが、よく学校などで各新聞を

広げて色々勉強する取り組みをしているのですが、そういう中でも例えば上高森という遺跡が日本人のルーツだ、ロマンだといって教えているのです、先生方が。当然です、新聞に載っているのですから。でもそれが嘘だ、そういうことが解った時、きちんと報道して子供たちに何かを残せた、ということを我々はその仕事とする。ロータリアンの皆さんも地域の小さな事から大きな事まで、色々なニーズに応じてやっていく、そこは大小あれ非常に似通っていると私は思います。ですから今回有珠山の事です、正に小野寺さんが子供達は率直だ、子供達の感性について触れましたけれども非常に成功している例だと思うのです。私も和田委員長からお話を受けまして、新聞でも報道させて頂きました。どんなニーズがあるか見つけ出すという、今回のテーマを含めまして成功した大きな例だと思います。岡田先生も先日西山火口と一緒に散策路で説明を聞きながら歩いたのですが、災害は災害だ、でもこの災害を逆手にとって何とか地域の復興のためにやってあげたい、そういう思いが今回のロータリアンの活動とつながっているのだと思います。それでは最後ですけれども、今後のロータリー活動中で私達の、私の少なくとも真田というレベルでの低い認識で申し訳ないのですけれども、言わせて頂くならば、若い記者というのは市民運動、消費者運動というところの名前で色々な事やっていますよと言うと、飛びつきのですね。要するに言うなれば弱い団体、最近ですとNPOですけれども、そういう方達からこういう情報があるので取材してください、というすぐ飛びつきます、何のためらいもなく。ところがロータリー活動をしていますと言うと、ほとんど誰も飛びつきません。それはお金持ちだから別にやること無いのではな



いか、こういった誤った先入観がもうあるのです、現実には。ですからこの誤解を我々も解きますけれども、日頃の広報活動の中では是非共取り組みをして頂きたい。それからこれはこのような場で言うて良いのか解りませんが、我々の仕事でロータリー活動と似通っているところで言うと、9月11日のアメリカの同時テロというのは、相当程度色々な考え方、21世紀、日本の安全保障などが影響しています。というのはロータリー活動のこと「人類が私たちの仕事」というテーマや、平和を希求するという様なことからすると、あの様なテロがどういう形でロータリーの皆さんの活動、考え方に影響してくるのかというところが私の知りたいところです。これは政治的な意味合いもありますのでこのような場でどうこう言えるのか解りませんが、少なからずあの現実は見つめざるをえない。日本のこの札幌でもどこの地域でも例外はあり得ない、私はそう思っておりますのでこのような場ですけれども、あえてロータリアンの皆さんの考え方にどのような影響をしているのか思いに触れてみたいと思っています。以上です。

金井：ありがとうございます。真田さんには報道の目からロータリークラブに対する貴重な意見なり、また誤解を解くように努力をされている、励ましのお話など頂きました。テロにつきましてはおそらく岩城ガバナーの方からお答えがあるかもしれませんが、後ほど総評でご期待申し上げたいと思います。それではもうひと方でございます。「ロータリーに何を期待するか」ということで、広域行政で大変ご活躍されております、奈井江町長の北様にお話を頂きたいと思います。宜しくお願いいたします。

北：ご紹介頂きました奈井江町長の北でございます。今日はロータリークラブ、非常に崇



北 良治コメンテーター

高なといえますか、誉れ高いクラブからお招きを賜りまして恐縮をいたしている次第でございます。しかも皆さんの前でこのような話をさせて頂くということに対しても、光栄に存じているところでございます。さて先程皆様方大変貴重なご意見を賜りまして、私自身も大変勉強になった訳でございますけれども、今まさに行政もそうでございますけれども、住民ニーズと私共とがどうマッチングしていくのか、こういう時代ではないかと思えます。従いまして今日の課題は私共に与えられた課題と全く同じだなど、こんな思いをいたしている次第でございます。特に地方分権時代、しかし地方分権時代といいながらも今大きな行政課題といたしましては、ご承知のように高齢少子化でございます。そして合わせてこの中で、国が或いは地方が持っている借金、666兆円、大変大規模なものでございます。そういった中で無駄は許されない、そしていかに効率ある行政を推進していかなければいけないか、こういうことが求められている事でございますから、そういった意味におきまして私共といたしましては、今の課題テーマというのはまさに我々に与えられているテーマであると、まさに地方の自治が試



されると思っております。特に私共奈良江町の例をちょっと時間がないので簡略に申し上げますと、今少子高齢の中で昨年、介護保険が出発いたしました。これをどう高齢者を支えていくか。従来ですと国からいわゆる流された予算、そして国から出来るだけ多くの予算を確保しながら、それを福祉にどう手当てしてゆくか、ということばかり市町村長が大いに考えている。それがまた腕として住民に逆に評価された。或いはハコモノをそれによって建てなければならない。或いは地域の中におけるスタッフをいかに広めていくか、こういうことを主たるものとして考えていきました。しかし今はもうそういう時代ではございません。ご覧のような通りです。今まさにその人にあったニーズ、その人にあった介護、医療、福祉をどのように展開していくかということでございます。従いまして計画プラン等を地方で自治体が考える、こういう時代になったことはご承知の通りです。従いまして地方分権と言っても行政に流れる訳ではございません。国から道庁に来てしかも地方自治体市町村に降りてくるということだけでなく、むしろ住民に降りてくるこういう視点を私共は持たなければならないし、そしてまさにリアリティーを持って進行しております。介護保険等についてはそのトップランナー、地方分権のトップランナーである。これをどうきちっとやっていかなければならないか、住民ニーズに即応したものをしながら保険、医療、福祉を連携していきたい、ということで私共もさせて頂いているところでございます。そういった意味におきましてはまさに地方自治体も本当にむらなく住民ニーズに合ったことをやらなければならない。これは一つはケアプランを作る。認定審査を地元で全部する、そしてそれに合ったサービス

を展開する、という時代要請に相成ったわけです。そんなことが私共が専心的に取り組ませて頂きました一つでございまして、今司会者からご案内頂きました様に、これを一つの町でやるということになりますと、人的資源、社会的資源、そして医療資源、福祉資源。先程申し上げましたように次から次へとかたづけられるものではございません。これはやはり周囲の市町村と合同でやっていく、出来るだけ資源の活用を周囲全体で使い合っていく。そして共用して行く。そういうプランを作っていかなければこれからの時代は乗り切れていけない、そしてニーズに合ったサービスを展開出来ない。私はそのように思います。そしてこのことについて、実は私共は介護保険が出来る前いち早く、先程からのお話の様に国際交流の中で学び取ることが出来ました。それは何処かと申しますと、フィンランドです。フィンランドのハウセラビというところと交流をもう7、8年続けております。私共が行く、議会が行く、議長が行く、ということだけでなく、現場が、一番精通した人がおりますし、現場を充実させることが一番大切。現場の職員を派遣しました。私共の町はロータリーはございまして、ライオンズがございまして。これについて基金に助成して頂きまして、そして所謂中学生、高校生、合わせて議員の皆さん方も何人かでございますが、住民も公募いたします。そして現場のスタッフを2人なり3人なり4人なり派遣しておりました。これでフィンランドの所謂福祉を学び取ることが出来ました。たまたま厚生省がフィンランドとの交流を重ねて学び取ろうとしている時期だっただけにケアプランが私共の町では8年前から出来ています。やはり先を読む、先を見る、そして職員がその訓練に従ってトレーニングされておりますか



ら、介護保険が始まったときにはいち早く、1カ月前押しをしてケアプランを作れたということが言えると思います。そしてそれに基づいて安定した介護が今日出来ていることが事実でありまして、やはり国際交流の中で現場サイドで交流を始めた、そしてそれを展開したことが大きなプラスになったということが言えると思います。やはり人づくりでございます。なんといいても人づくりです。私共も特別養護老人ホームは非常に遅く出来ました。平成8年です。まさに現場で学んできた職員、保健婦さん、介護士さん、或いは看護師さん達が私に進言いたしました。「個室を作りましょう。個室は個人のプライバシーを大切にします。そして自立を促す。ただ面倒を看ればいいのではなく、自立をどう促していくのかということは大切であります。」こういう提言をしました。そしてその通りに作らせて頂きました。厚生労働省は個室化をと、今言い出しております。しかしいち早くそれをやって全国から随分視察が来て頂いた訳ですが、そういう中から介護をしている職員がその精神をきちんと受け取りました。ただ面倒を見るのだ、お世話をするのだということではございません。自立をどう促すかということに一生懸命になっております。例えば汚い話ですが、なかなか運動不足になりますからトイレがでない、大便が出ない、一生懸命頑張っている。「町長さんこんなかわいいウンチがでたんですよ。」ちっちゃいウンチを見せてくれる。涙がでる思いがしました。ああ、一生懸命やっているんだなあ。こういう一つの人づくりだ、心だと思います。そしてフィンランドからも子供さん達に来て頂いております。一昨年来たとき中学生が4人で来ました。そしてホームステイを勿論して頂いております。あるお年寄りとお孫さん

がいる家庭でした。フィンランドから来る子供さんは実は普段着で来るのです。そして靴がちっと傷んでいた。日本まで来てこんな靴を履くか。おじいさんがお孫さんに何て言ったか、「いや、お土産に靴を買ってやる。」自分の孫に言ったそうです。「買ってやりたいから町へ行くんだ。」お孫さんが何て言ったか、「おじいちゃんそんな失礼なことがありますか。折角普段着でこうやって来ているでしょ。自分の履いて来た靴恥ずかしそうにしてないでしょ。そんなこととしてはダメだ。」おじいちゃんが教えられます。これは学校で評判になりました。ですからやはりそういう普段着の生活、交流、そしてその中から意識を高めていく人づくりだと思います。そういう面ではロータリークラブの皆様は先程ビデオで見せて頂きましたし、ロータリークラブ以外の皆様方の発表も聞かせて頂きました。各方面で大活躍をしており、素晴らしい。しかし今一步、先程も話がありましたけれども、他団体の交流という話がありました。私共は非常にその点では足りないことばかりだったな、むしろ行政がロータリークラブなど様々な団体と連携を取りまして、どんなところがウィークポイントか、どんなところが至らないか、お互いに意見を交わしながら充実していく、そういう地域社会を作っていく、ということがこれから大切ではないか。ライオンズクラブ或いはロータリークラブの皆様方、そういった中に飛び込んで行政が逆に行わなければならない、こんな思いを深めている。そしてその中から21世紀の新たな物を作り上げていかなければいけない。負担と給付の問題、自立をどうするか。何から何までいわゆる国に依存するのか、或いは公的な依存意識。我々がやらなければいけないことはサービスとして展開しませんという



◀ 岩城秀晴
ガバナー



Gary C. K. ▶
Huang
RI副会長

ことにはなりません、その職員の意識改革、住民の意識改革、そういう中で冒頭に申し上げました国が、或いは地方が大変な財政状況の中で痛みを分かち合いながら、素晴らしい支え合いの地域社会それは人づくりではないかと私は考えております。まあ短い時間ではございましたから、本当の思うところの一部しか申し上げられなかったのですが日頃思っていること、そして今日お聞きして感じたことを申し上げてこれで失礼させて頂きたいと思ひます。ありがとうございました。

金井：どうもありがとうございました。町長には本当にお忙しいところをお出まし頂きまして、行政の立場で人づくりなど現場の声を充分生かしながらの事例などを発表頂きまして、大変感銘深く聞いておりました。まだまだお話を伺いたいところではございますが、大変短い時間で恐縮でございます。それからまた今日パネラーの方々、コメンテーターの方々のお話を全て聞いた訳でありますけれども、本来ならフォーラムですのでご意見、ご質問をして皆さんで意見交換と思っていた訳でございますけれども、そろそろ予定の時間が来てしまいました。大変残念でありますけれども、この後とまた明日とスケジュールが

ございますので、その中で皆さんご意見のご討論なり出来ればと思いますので、よろしくお願い申し上げます。このフォーラムを通じましてそろそろ締めめの時間となりましたけれども、このフォーラムについて講評を岩城ガバナーにお願いをしたいと思ひております。よろしくお願い致します。

岩城：長時間にわたりまして皆さんご静聴ありがとうございました。実は私の年度において「人類が私たちの仕事」、如何様にすべきか色々ガバナー補佐の皆さん方と会長の皆さん方とご相談いたしまして、色々考えていましたけれども、地域社会における奉仕活動を如何様にやっているかということ、一度和田委員長さんに探って頂きまして、大変貴重なお時間と労力を頂きまして本当にありがとうございました。各委員の皆さん方本当にご協力頂きましたことを厚く御礼申し上げます。実は私66カ所のクラブさんに参りましたけれども、クラブの中で地域社会の自治とどのように関わりを持っているかということでガバナー補佐と一緒に市町村長さんにお会いさせて頂きました。その中で社会奉仕というものに対するロータリーの協力を強くおっしゃって頂きました。有珠



山の問題等もありましたが特に災害等におけるロータリーの力、ロータリーの心と心のつながり、こういったものを見せて頂きましたように、本当に感謝されておりますけれども、先程杉江さんが、21世紀に向かってロータリーは地域社会に対する奉仕活動をどうやったらいいのかとおっしゃってありました。これからについてもこのような進み方、そしてロータリーの奉仕活動を活発にして頂きたいと思っております。また北奈井江町長さん本当にありがとうございました。実は先程も申し上げました通り、地方自治のニーズの考え方を捉えるために、やはり町長さん、市長さんとのお会いをさせて頂きましたことを申し上げました。また毎日新聞の報道部長さんにはロータリーというのは公共的なイメージをどうやってアップしていくかそれにつきまして、盛んに皆さんに、ロータリークラブの皆さん方に申し上げておりますけれども、その中で報道関係それらについての関わりをもっと深くするべきではないかと言うことを申しておりました。そのような中でこのようなフォーラムが皆さん方のご熱意によりまして、また私が望んだ皆さん方に一人でも多く聞いて頂きたいという思い。そしてこの

地区大会が盛り上がり頂きたい、盛り上がっていくんだ、という信念のもとにやらせて頂いたことを申し上げさせて頂いて講評にさせて頂きたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

金井：どうもありがとうございました。それでは最後になりましたけれども先程ご紹介申し上げました、ゲリー・C.K.ホァングRI会長代理がお見えでございますので、色々な皆さんのお話を聞きながらご感想を伺えれば大変幸せなことと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

会長代理：ご紹介ありがとうございました。今私は色々な良い話やスピーチを聴かせて頂きました。そういったお話を聞きまして、皆様方も同意して頂けると思いますが、私共ロータリーにとりましてこのコミュニティーサービスというものが非常に重要なテーマであるということになります。特に私共にとりまして今年度のテーマ「人類が私たちの仕事」というテーマを掲げております。私個人といたしましても、今聞かせていただきましたパネリスト全員の方々のお話、非常に感銘を受け感動いたしました。素晴らしいお話をありがとうございます。皆様一人一人



に会場の方から大きな拍手をさせて頂きたいと考えております。21世紀におけるコミュニティサービス、しっかりとそれに対するニーズ市場は存在すると私共は考えております。そしてコミュニティサービスに対する需要も存在するのだということなのです。それでは市場と需要が存在するのですから次に何が必要かといいますと、やはり労働者ということになりましょう。すなわちその働いて下さる方は皆様方なのということです。すなわちより多くのロータリアンの方達を私共は必要としているということです。昨年私共ロータリーの歴史の中で初めてロータリアンの数が減ってしまいました。そのロータリアンの不参加の理由、勿論色々あると思います。しかしそういった問題を乗り越える手立ても数多くあると私は信じております。皆様方一人一人が紹介して下さる方は、何も日本の国籍の方である必要はありません。国際ロータリーですから勿論国際的な組織なのです。皆様方一人一人が新たな人をロータリアンとして紹介して下されば、勿論以前にロータリアンであった方でも構いません、そういったロータリーの精神に合う方を紹介して下さればよろしいということになります。善意のある方であれば、皆様方その様な方をよくご存じだと思います。ロータリアンになる

条件というのは決して厳しいものではありません。寛大な心を持つということが唯一の条件であると言っても過言ではないでしょう。今日は奈井江町長の北さんと毎日新聞の真田さんというスピーカーがいらして頂きました。非常に素晴らしいお話をして頂いたわけです。このお二人こそロータリアンにとっての最高の候補者になれることが出来るのではないのでしょうか。是非ロータリアンになって頂きたいと思います。ご一緒によりよい仕事、よりよいコミュニティサービスが出来るものと考えておりますが、ご一緒に手をつなげば、コミュニティの抱える問題をよりよく解決することが出来ますし、21世紀におきましてコミュニティのさまざまなニーズを掘り出すことが出来ると思います。それではこのお二人にもう一度大きな拍手と是非ロータリアンになって頂くことをお勧めしたいと思います。どうもありがとうございます。

金井：ホァング会長代理には大変感銘深い、そしてユーモア溢れるお話を頂きまして厚く御礼申し上げます。今朝ほどテレビを見ておりましたら、ダウン症の子供を一生懸命介護している女性の方が、今度自分がダウン症の子供を生んでしまいました。その子供が大変絵の才能があって成長していくわけでありまして、お母さんが嘆き悲しむ訳です。他の人のダウン症の介護している時には本当に同情して大変だなあと感じながらも行って、しかし実際自分の子供になるときには事ではない、というようなことがありました。嘆き悲しんでいるわけでありまして、その時おじいさんが実は、「この子がやっばり我々の色々な業を背負って生きているんだよ。この子供の為に一生懸命大切に育ててくれないのではないだろうか」と言うテ



ドリンクコーナー

レビの報道がございました。そして私も2、3年前に会長を経験しておりますけれども、その時に私共の社会奉仕委員会の委員長と一緒にダウン症の子供達の為に、そのお母さんのご支援に伺った時に、そのお母さん方に「大変ですね」と言う話をしましたら、そのお母さんが「私たちは大した大変ではないですよ。この子供達に学んでいるのですよ。」この子供達に同情するとかではなくて、実際にこの子供から得ているその幸せなり、学びなりそういうことの方がずっと大切だ、とその時思いまして我々は単に同情で行ったのですけれども、そうではなく逆に学んできたという。そのお母さんの一言今思い出しており



併設販売コーナー

ます。おそらく社会奉仕というのは確かに他に対する奉仕活動かもしれませんが、実は私共の問題、私たちの学ぶチャンスという風に思うような気がしてなりません。今日のパネラー、パネリストの皆さん、そしてコメントーターの皆さんのお話を聞いてそんな思いに浸りながら記念フォーラムを終わらせて頂きたいと思います。本当に拙いコメントーターで申し訳ありません。時間もちょっと押しました。本当に1時間半という短い時間ではありましたが、皆さんのご協力に再び感謝を申し上げましてこの記念フォーラムを終わらせて頂きます。ご協力本当にありがとうございました。

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

2002年度 国際ロータリー 第2510地区大会



ガバナー挨拶

ガバナー

岩 城 秀 晴

2時から皆様方にはフォーラムそれから会長・幹事会にご参加され緊張された時間帯であったろうと思います。本当に厚く御礼申し上げます。ここで一息入れまして懇親会をさせていただきます。つねづね私は66クラブの会長さんに申し上げておりましたけれども、今年度の地区大会はちょっと一味二味ひねりますよ、ということがこれでございましてご披露させていただきました。新世代の子供達でございますけれども、温かくお迎え頂きましてありがとうございます。どうかこのひとときを皆さん方と一緒にまたゲリーC.K.ホァング会長代理と一緒に楽しく、そして例会を楽しく「和やか」といっても申し上げておりますけれども地区大会も楽しくそして「和やか」といようなことでお願い申し上げたいと思っております。至らないガバナーでございますが、皆様方の温かいご協力を頂きまして2,082名のご登録をいただきました。こ

れも皆様方のご厚情と友愛の精神であろうと考えておりまして心から厚く御礼申し上げます。友愛というのは大事でございまして、先程ホァングRI会長代理が、申されましたように「十年の知己」に会ったような感じで付き合わせて頂いております。ホァングRI会長代理は、非常に温かい理解のある方でございますので皆さんも時間の許す限り一緒になってこの会を盛り上げて頂きたいと思っております。一言開会にあたりましてご挨拶申し上げそしてご紹介をさせていただきます。キング国際ロータリー会長の代理として地区大会にご臨席賜りましたゲリーC.K.ホァング国際ロータリー会長代理並びに令夫人のコリーナS.L.ヤオ様です。盛大な拍手をお願いします。ガバナー令夫人のご紹介を致します。第2560地区ガバナー令夫人野沢さる子様、新潟県新潟東ロータリークラブでございまして。第2820地区ガバナー令夫人北村栄子様、茨城県水海道ロータリークラブでございまして。第2580地区ガバナー令夫人牧野早智様、東京都東京東ロータリークラブ姉妹クラブでございまして。地区外からのパストガバナー並びに令夫人をご紹介させていただきます。第2630地区福井隆男パストガバナー並びに令夫人の章子様、三重県鈴鹿



西ロータリークラブでございます。第2500地区道下俊一パストガバナー、北海道浜中ロータリークラブでございます。続きまして当地区の元国際ロータリー理事、パストガバナー、ガバナーエレクト、並びに令夫人をご紹介いたします。竹山涼一元国際ロータリー理事並びに令夫人のタカ子様です。河邨文一郎パストガバナー並びに令夫人宣子様です。大橋康次パストガバナー、白石欽一パストガバナーです。富原薫パストガバナー並びに令



夫人睦子様です。野口信夫パストガバナー並びに令夫人の圭子様です。石垣博美パストガバナーです。伊藤長英パストガバナー並びに令夫人の祐紀子様です。森本正夫パストガバナー並びに令夫人の節子様です。遠藤正之パストガバナー並びに令夫人の美栄子様です。小林博ガバナーエレクト並びに令夫人の幸子様でございます。以上を持ちましてご来賓のご紹介を終わります。

RI会長代理挨拶

10地区大会



RI会長代理

ゲリー・C.K.ホァング

ガバナー岩城さんそして令夫人の節子様そして大会実行委員長の畑中様そして元RI理事であります竹山様と令夫人、そしてガバナーやパストガバナーそしてご出席の皆様、まず私と私の妻コリーナより、このように素晴らしい歓迎の晩餐会を開いて頂きましたことを心より御礼申し上げます。このような皆様方の地区大会におきまして、RIの会長でありますリチャードD.キング会長そして令夫人の代理の座につき参りましたことを非常に光栄と存じております。日本に着きましてちょうど24時間経ったとっていいと思うのですが、正に自分の家に居るような気分でございます。ありがとうございます。私も妻もこのように今回は皆様方に敬意の念を表しまして、妻はこういった格好をして参りましたが、私はタキシードを着てこなければ良かったのかもしれませんが、こういう格好をしているのはこの会場にいるウェーターと私だけかもしれませんが、私もこのような格好をしておりますので、皆様ロータリアンの方々にサービスをさせて頂きたいと考えております。なにか

食べ物或いは飲み物が必要だという場合は是非私に言って頂ければと思っております。私が手一杯になりましたら岩城ガバナーの方が手伝って下さると思います。先程子供達の素晴らしい歌声を聞かせて頂きました。非常に嬉しく思っております。子供達こそが私たちの未来だと思っております。何人かは将来のロータリアンになってくれるのではないかと思っております。また一つ感銘を受けましたのはガバナー岩城さんの令夫人であります節子様、非常にお忙しいと思います。そのお忙しい中でリハーサルをして、指揮もして頂いたということは非常に嬉しいことだと思っております。ですからこそいつも笑みを絶やさず、素敵な笑顔で幸せそうでいらっしゃるでしょう。それでは今までのことを感謝して拍手を差し上げたいと思います。また今日は私の古い友人に会うことが出来まして非常に嬉しく思っております。私は1992年テネシー州での地区大会のリーダーを務めるという光栄を頂きました。その時のパストガバナーであります道下さんがいらしております。非常



に嬉しく思っております。もちろん言葉の障害がありましてコミュニケーションはそれほど頻繁には、してきたわけではありませんが、よく一緒に飲ませて頂きました。今晚は一緒にサッポロビールが飲めるということでありましょう。今回この地区大会に登録された方が2,082名と聞いております。この数にも非常に嬉しく思っております。ですから明日の会議も大成功を納めることとなりましょうし、また私共全員が良い時を過ごせるものと思っております。この晩餐会では大いに楽しんで頂いて、必ずや明日もご出席願えるものと思っております。何故かと申しますとここにいらっしゃるガバナーも議長も一番素晴らしい方でいらっしゃいますので。最後になりますけれども来年3月に台北で予定しております会議、是非是非皆様方にご出席頂いて私がホスト役を務めさせて頂きたいと思っております。来年の3月22日から24日まで台湾

の台北におきまして今年度のアジアの会長会議を開く予定になっております。是非是非皆様方も来年この会議に出席して頂きたいと思っております。日本から他の地区ですが100名以上のロータリアンとご婦人、そして韓国からも100名以上のロータリアンとご婦人が出席される予定になっておりますので是非貴地区からも出席して頂きたいと思っております。その席で私どもの感謝の気持ちとして小さなお土産を差し上げたいと思っております。札幌の地区の方だけです。またその会議におきましては地元のロータリアンの参加者300名、海外からの参加者で800名以上を想定しております。是非皆様方、招待状がこのテーブルの上にありますのでどうぞお取り頂きたいと思っております。また皆様方が台北にいらして頂ければ、私が今この場でお受けしている素晴らしい歓迎のお返しをさせて頂けるものと思っております。ありがとうございました。

乾 杯



元RI理事
竹 山 涼 一

準備の時間がおありな様でございますから、お注ぎになる方はどうぞ遠慮なく注いで下さい。ゲリーさんと敢えて僕は敬称を使わずにゲリーさんと申し上げますが、初めてお顔を会わせたのはもう3年くらい前でしょうか。おそらくアナハイムだと思います。ガバナーが勉強する場所でございます。その次はおそらくインディアナポリス、3年ほど前の大会地ではないかと思います。お会いするたびに笑顔が出ました。おそらく彼も笑っているのですから私も笑っていると思います。私自身はさほど英語は得意じゃありませんので、今の通訳さんとはちょっと違って気易い話が出来ませんけど、やはり心の通じるものがありました。そのゲリーさんが急にこの副会長になったという知らせがありまして、しかも加えて我々の大会においでになるという知らせを受けて非常に私は嬉しく感じました。実はこれで私の前もってのお話は終わり

にしたいのですが、一言だけこの機会を借りて皆さん方に私の意中の一つを申し上げたいと思うのです。それは明日私が皆さんとお話しする、時間が全くございませんので一言だけ申し上げたいと思います。それは大会を秋に行うことについての一番はっきりした説明でございます。証人が一人ここにおります。ちょうど隣の地区の道下パストガバナーでございます。皆さんお解りだと思いますけど一年間で一番最先に大会をやるのが第2500地区。一番最後に大会をやるのが第2510地区でしたと言いますのは去年まで、つまり前年度までですね。だから今回の大会は前回の大会より5カ月しか経っておりません。それを何故強行するかと、こういう気持ちを持ってらっしゃる方がおると思います。しかしこれはひとつの一番大きな根拠は、RI理事会の推奨があった訳です。これはいわゆるリーダーシッププランが前提となっております



すから、出来るところなればやって欲しいというまず推奨があったこと。もう一つはこれも大変大事なことなのですが北海道のような場合は5月も6月もほとんど季節は同じです。夏とは言いきれないのですね。ところが世界の世界国際大会は必ず6月に行われます。そうしますと今年のように5月の20日くらいに大会があった場合その翌月にはもう次の国際大会に行く人は行かなければならない。まあ2、3年経つと大阪で大会が同じ事が行われます。どうしてもこれはやはり北国はこれは秋でなきゃいかんと私もしみじみ日頃思っていました。ところが実は私が説得する前に岩城ガバナーのエレクト時代から実は彼がそう思っていたことが解りました。これは偶然の一致です。正真正銘の。これで暗れて今日行える様な訳でございます。疑問にいろいろ思ってたっしやる方きっとこれから長い間にかけては良かったなと思って頂けると思いますので、ゲリーさんに直接関係のないことなのですがここでご理解願いたいと思います。ゲリーさんは明日いっぱい大会の会長代理のお仕事を終えまして、あさっては札幌を一日見たいとおっしゃってます。そし

て30日のお昼頃の関空行きの全日空で帰りまして、先程伺いますと台北にお着きになって一晩眠るか眠らないかのうちに、シカゴに向かって出発をするそうでございます。若いということは非常にいいことなので、どうぞゲリーさんこれからも是非ひとつ頑張ってください。それから一つだけ忘れておりました。ゲリーさんのすばらしい英語を通訳をしてくださった方をご紹介します。通訳の紹介は今が初めてでございますがもう一人の方は今日お帰りになりましたので、東京からいらした島田紀久子さんでございます。これもロータリーの取り持つ縁、伊藤義郎、私の大先輩の理事がやはり東京の大きな集団に呼びかけまして優秀な通訳を今ちょうど例の問題がお解りのようにありまして、テロ問題があつて通訳が引っ張りだこ。その中を何とか無理して来て頂きました。明日も一日お務め下さるようでございます。もうそろそろやめろという畑中委員長の厳しいお話でございます。それではどうぞ起立願います。それではやはり日本流に乾杯の言葉でひとつゲリーさんをこれからも応援したいと思います。乾杯。どうもありがとうございました。



閉会の言葉



大会委員長

畑 中 俊 介

皆様、今日の晩餐会お楽しみ頂きましたでしょうか。ゲリーさんとコリーナさんには本来であればディナーを楽しんでもらうはずでしたが、大変お二人忙しくて、写真を撮ったり名刺を交換したり握手をしたり大変な時間を過ごしたと思います。明日はもっと忙しい目にお遭いになると思います。どうぞ明日、あさって宜しくお願い申し上げます。それではこれを持ちましてお名残惜しいのですが、終わりと致したいと思います。おやすみなさい。





大会第2日目プログラム

◎本会議（午前の部）

と き 平成13年10月28日(日)
 ところ 札幌パークホテル 3階エメラルド(登録)
 札幌パークホテル 3階パークホールABC
 (本会議)

司 会 大会副幹事 青木 健次
 アシスタント 橋本登代子

- 8:30 ○登録開始
 9:30 ○着 席
 9:35 ○オープニングセレモニー
 10:00 ○点 鐘 ガバナー 岩城 秀晴
 ○開会のことば 大会委員長 畑中 俊介
 ○国歌斉唱
 ○ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」
 ソングリーダー 本間 良二
 ピアノ 鷺津 涼子
 ○RI会長代理ご夫妻・ご来賓・役員紹介
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○物故会員の追悼
 10:25 ○参加グループ・特別参加者紹介
 ガバナー 岩城 秀晴
 10:35 ○歓迎のことば
 ホストクラブ会長 川崎 秀雄
 10:40 ○ガバナー挨拶 ガバナー 岩城 秀晴
 10:45 ○来賓祝辞 札幌市長 桂 信雄
 ○札幌市への記念品贈呈
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○札幌市からの感謝状
 11:00 ○RI会長代理挨拶
 RI会長代理 黄 其光
 11:10 ○大会運営委員会報告
 大会登録委員会報告
 大会登録委員長 遠藤 正之
 大会信任状委員会報告
 大会信任状委員長 森本 正夫
 大会選挙管理委員会報告
 大会選挙管理委員長 石垣 博美
 大会決議案上程
 大会決議委員長 伊藤 長英
 大会決議案採択
 ガバナー 岩城 秀晴
 11:43 ○諸事お知らせ 大会SAA 西脇 順二
 11:45 ○昼食会場移動 地下2階パークプラザ
 ○昼食休憩(～12:45)

◎本会議（午後の部）

- 12:45 ○RI現況報告 RI会長代理 黄 其光
 ○地区現況報告 ガバナー 岩城 秀晴
 ○直前ガバナーへ記念品贈呈
 ○2002-03年度ガバナーエレクト紹介
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○2002-03年度ガバナーエレクト挨拶
 ガバナーエレクト 小林 博
 14:10 ○休 憩
 14:20 ○記念講演
 「企業の社会貢献と頑張れ北海道」
 講 師 松田 昌士
 ○講師紹介 地区幹事 金井 英明
 ○お礼のことば ガバナー 岩城 秀晴
 15:50 ○休 憩
 16:00 ○表 彰
 16:20 ○次期地区大会開催地・ホストクラブ紹介
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○次期地区大会開催地・ホストクラブ挨拶
 札幌北RC会長エレクト 出村 貢
 ○RI会長代理所感
 RI会長代理 黄 其光
 16:35 ○ガバナーお礼のことば
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○RI会長代理ご夫妻へ記念品贈呈
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○閉会のことば
 大会副委員長 中井 孝光
 ガバナー 岩城 秀晴
 16:47 ○点 鐘 ガバナー 岩城 秀晴
 ○諸事お知らせ 大会SAA 西脇 順二
 16:50 閉 会

◎記念懇親会 地下2階パークプラザ（移動）

- 司 会 橋本登代子
 17:20 ○開会のことば
 大会副委員長 吉田 壽昭
 ガバナー 岩城 秀晴
 ○乾 杯
 ○祝電披露
 ○開 宴
 ○ゴルフ成績発表
 ゴルフ委員長 工藤 武久
 18:20 ○アトラクション
 しばたはつみショー
 19:10 ○閉会のことば
 ホストクラブ会長 川崎 秀雄
 19:15 ○ロータリーソング斉唱
 「手に手つないで」
 ソングリーダー 本間 良二、
 しばた はつみ
 ピアノ 鷺津 涼子
 19:20 ○閉 会

Program for The Second Day of RI2510 District Conference

◎Main Conference(in the morning)

Date : 2001.10.28(Sun)

Place : Sapporo Park Hotel Emerald(3F)

(Registration)

Sapporo Park Hotel

Park Hall ABC 3F(Main Conference)

Master of Conference :

Conference Executive Committee

Vice Secretary, Kenji Aoki

Assistant to Master : Toyoko Hashimoto

- 8 : 30 *Registration
- 9 : 30 *Opening Ceremony
- 10 : 00 *Gong Governor, Hideharu Iwaki
- *Opening Remark
Conference Executive Committee
Chairman, Shunsuke Hatanaka
- *National Anthem
- *Rotary Song (Houshi no Risou)
"Service Ideas"
Song leader, Ryoji Honma
Piano, Ryoko Washizu
- *Introduction for Representative of RI
president, Guests and Officers
Governor, Hideharu Iwaki
- *Mourning for The Deceased Rotary
Members
- 10 : 25 *Introduction of all members and out
district members
- 10 : 35 *Welcome Address
Host Club President, Hideo Kawasaki
- 10 : 40 *Guest Address
Mayor of Sapporo, Nobuo Katsura
- 10 : 45 *Governor Address
Governor, Hideharu Iwaki
- 11 : 00 *Representative Address
RI Vice President, Mr.Gary C.K.Huang
- 11 : 10 *Conference Procedure Report
Conference Registration Committee Report
Chairman, PG. Masayuki Endo
- *Conference Credentials Committee Report
Chairman, PG. Masao Morimoto
- *Conference Balloting Committee Report
Chairman, PG. Hiromi Ishigaki
- *Conference Resolutions Submitted
Chairman, PG. Choei Itoh
- *Conference Adoption of Resolutions
Governor, Hideharu Iwaki
- 11 : 43 *Notices
Conference SAA, Junji Nishiwaki
- 11 : 45 *Lunch Park Plaza(B2F)
- *Break(~12 : 45)

◎Main Conference(in the afternoon)

- 12 : 45 *Report on Present Status of Rotary
International
RI President Representative,
Gray C.K.Huang
- *Report of District
Governor, Hideharu Iwaki
- *Presentation for Immediate Past Governor
Governor, Hideharu Iwaki
- *Introduction of Governor-elect for 2002-03
Governor, Hideharu Iwaki
- *Governor Elect for 2002-03 Speech
Governor Elect Hiroshi Kobayashi
- 14 : 10 *Break
- 14 : 20 *Commemorative Lecture
"Contribution of Business to Community
and Do the Best, Hokkaido"
Speaker Masashi Matsuda
- 15 : 50 *Break
- 16 : 00 *Commendation
- 16 : 20 *Introduction of Next District Conference
Site and Host Club
*Next Conference Host Club Speech
Sapporo North RC President Elect
Mitsugu Demura
- *Commentary of Representative of RI
President Gary CK.Huang
- 16 : 35 *Appreciation Remark
Governor, Hideharu Iwaki
- *Presentation to Representative of RI
President Governor, Hideharu Iwaki
- *Closing Remark
Conference Executive Committee
Vice Chairman Takamitsu Nakai
- 16 : 47 *Gong Governor, Hideharu Iwaki
- *Notices
Conference SAA, Junji Nishiwaki
- 16 : 50 *Closing

◎Commemorative Friendship Party

Park Plaza(B2F)

Master of Party : Toyoko Hashimoto

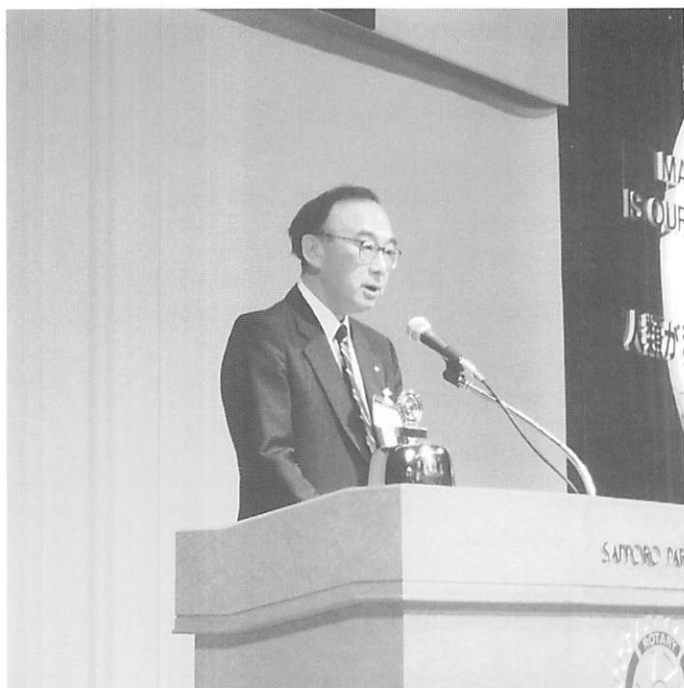
- 17 : 20 *Opening Remark
Conference Executive Committee
Vice Chairman Toshiaki Yoshida
- *Toast Governor, Hideharu Iwaki
- *Introduction of Congratulatory Telegram
- *Dinner Party
- *Golf Score Announcement
Golf Competition Chairman,
Takehisa Kudo
- 18 : 20 *Entertainment "Shibata Hatsumi Show"
Singer, Hatsumi Shibata
- 19 : 10 *Closing Remark
Host Club President, Hideo Kawasaki
- 19 : 15 *Rotary Song "Hand in Hand"
Song leader,
Ryoji Honma and Hatsumi Shibata
Piano, Ryoko Washizu
- 19 : 20 *Closing



開会の言葉

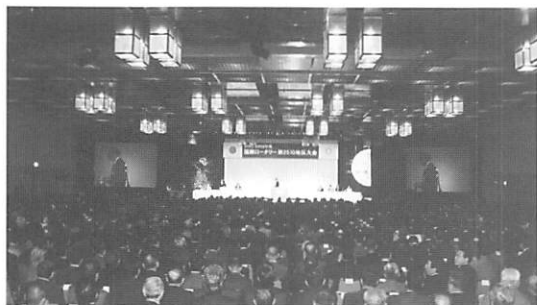
大会委員長

畑 中 俊 介



2001年、2002年度の地区大会には、国際ロータリー副会長のGary C.K.Huang氏、Corinna S.L.Yao令夫人をRI会長代理として迎え、ご来賓として、桂 信雄札幌市長をはじめ、元RI理事、地区内外から多数のガバナー、パストガバナーを、そして、ご家族、それにホストクラブと姉妹クラブであります、東京東クラブ、そして、2,000名を超える、地区内のロータリアンとご家族、青少年と共に、一同に会することは誠に嬉しく、感激であります。ご参加下さいました皆様には、心より、御礼申し上げます。札幌南ロータリークラブ

にとりまして、3回目の地区大会のホストでございますが、これまでの経験に加え、楽しく参加してよかった大会にしようと、クラブ全員で準備してまいりました。岩城秀晴ガバナーは、「めざせ、コミュニティへのサービスを」を大会テーマに掲げ、21世紀のロータリーのありかたを模索するプログラムとなりました。どうぞこの大会を通じ、ロータリーへの理解と認識を深め、さらに友情の輪を広げられ、楽しく、実り多い大会となりますよう、心より念願し、開会を宣言します。





RI会長代理ご夫妻 ご来賓、ご招待者紹介



〈ご来賓〉

札幌市長

桂 信雄

〈ロータリーご来賓〉

RI会長代理(副会長) Gary C. K. Huang (D3480) Taipei, Taiwan

(黄 其光)

RI会長代理夫人 Corinna S. L. Yao

(姚 世蕾)

〈ご招待者(地区外)〉

第2560地区
ガバナー夫人

野沢さゑ子 (新潟東)

第2820地区
ガバナー夫人

北村 栄子 (水海道)

第2580地区
ガバナー夫人

牧野 早智 (東京東)

第2630地区
バスト・ガバナー
(ロータリー文庫監査委員)

福井 隆男 (鈴鹿西)

第2630地区
バスト・ガバナー夫人

福井 章子 (鈴鹿西)

第2500地区
バスト・ガバナー

道下 俊一 (浜 中)

〈ご招待者(地区内)〉

元国際ロータリー理事 伊藤 義郎 (札幌)

元国際ロータリー理事夫人 伊藤寿美子 (札幌)

元国際ロータリー理事 竹山 涼一 (札幌南)

元国際ロータリー理事夫人 竹山タカ子 (札幌南)

第2510地区
バスト・ガバナー 河邨文一郎 (札幌西)

第2510地区
バスト・ガバナー夫人 河邨 宣子 (札幌西)

第2510地区
バスト・ガバナー 大橋 康次 (札幌東)

第2510地区
バスト・ガバナー 白石 欽一 (札幌手稲)

第2510地区
バスト・ガバナー 富原 薫 (札幌)

第2510地区
バスト・ガバナー夫人 富原 睦子 (札幌)

第2510地区
バスト・ガバナー 西條 正博 (札幌)

第2510地区
バスト・ガバナー 野口 信夫 (小樽)

第2510地区
バスト・ガバナー夫人 野口 圭子 (小樽)

第2510地区
バスト・ガバナー 石垣 博美 (札幌西)

第2510地区
バスト・ガバナー 伊藤 長英 (苫小牧北)

第2510地区
バスト・ガバナー夫人 伊藤祐紀子 (苫小牧北)

第2510地区
バスト・ガバナー 森本 正夫 (札幌西北)

第2510地区
バスト・ガバナー夫人 森本 節子 (札幌西北)

第2510地区
バスト・ガバナー 遠藤 正之 (札幌幌南)

第2510地区
バスト・ガバナー夫人 遠藤美栄子 (札幌幌南)

第2510地区
ガバナー・エレクト 小林 博 (札幌北)

第2510地区
ガバナー・エレクト夫人 小林 幸子 (札幌北)



物故会員の追悼



室蘭北RC (第9グループ)

川村 泰三

2001年2月14日ご逝去・享年 63歳



札幌西RC (第4グループ)

菅原 克己

2001年3月13日ご逝去・享年 76歳



江別RC (第3グループ)

細田 正次

2001年3月15日ご逝去・享年 64歳



江差RC (第11グループ)

神保 匡久仁

2001年4月6日ご逝去・享年 41歳



札幌東RC (第5グループ)

吉田 信

2001年4月8日ご逝去・享年 76歳



札幌西RC (第4グループ)

若狭 等

2001年5月22日ご逝去・享年 76歳



当別RC (第3グループ)

配野 定平

2001年5月23日ご逝去・享年 81歳



小平RC (第1グループ)

中川 晴人

2001年5月27日ご逝去・享年 53歳



美唄RC (第3グループ)

山口 晃

2001年6月3日ご逝去・享年 59歳



函館東RC (第11グループ)

赤城 泰

2001年7月1日ご逝去・享年 81歳



札幌北RC (第4グループ)

佐藤 鉄彌

2001年7月13日ご逝去・享年 83歳



余市RC (第6グループ)

中根 力

2001年8月16日ご逝去・享年 73歳



小樽RC (第6グループ)

坪井 眞範

2001年8月24日ご逝去・享年 84歳



江別西RC (第3グループ)

大関 久治

2001年8月31日ご逝去・享年 75歳

歓迎の言葉

ホストクラブ会長
川崎 秀雄



ホストクラブを代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。秋色に染まった街路地に雪虫が群れ飛んで、冬への序奏が始まるうとしております。この季節、当地札幌に、キングRI会長代理として、台湾から、Gary C. K. Huangご夫妻をはじめ、札幌市長桂 信雄様をお迎えし、また、地区内外の本当に沢山のロータリアンの皆様、さらに、姉妹クラブのよしみをもって、おいで下さった、東京東ロータリークラブの方々にもご参加を頂きまして、このように盛大な大会を開催できますことは、誠にありがたく、ホストクラブを代表致しまして、皆様方の友情とご厚意に深く感謝し、心からの歓迎を申し上げます。

顧みますと、当クラブは1956年、北海道で第1番目のアディショナルクラブとして、誕生致しまして、今年の6月に45周年を迎えることが出来ました。この間、輩出しました、ガバナーは過去2名、そして、このたびの岩

城ガバナーは、18年ぶり、3人目であり、大会のホスト役も、3回目でございます。私も、札幌南ロータリークラブには、創立時に提唱され、今日まで歴代うけつがれております、「なごやぎ」という理念がございます。私もはこの理念のもとで、長い間、友愛と信頼を培って参りましたが、今大会も、この「なごやぎ」の精神をバックボーンに、意義ある、そして心温まる、楽しい大会を目指して、全会員一致協力、ベストを尽くして準備を進めました。あるいは、不行き届きの点や、皆様のご意向に添えないこともあろうかと思いますが、何とぞご寛容をいただき、皆様の暖かいご協力を賜りますように、お願いを申し上げます。どうか、この大会をお楽しみ頂きますことを祈念致しまして、粗辞ではございますが、歓迎のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。



ガバナー挨拶



ガバナー 岩 城 秀 晴

今日は早朝から、そして、この秋空のもと、紅葉の満ち溢れた北海道の、そして札幌のこの七色のにぎわいのある景色を見ながら、お集り頂きましたことを、心よりご歓迎申し上げますところでございます。本日ここに、2001年～2002年度国際ロータリー第2510地区 地区大会にご参加の皆様方に、心からの御礼とご挨拶を申し上げたいと存じております。本年は、5月19日に、2000年～2001年度の地区大会を行いまして、さらにこの10月に、再度の開催を致しましたにもかかわらず、多数の会員の方々、並びにご婦人の方々にもご出席を頂きまして、心から厚く御礼申し上げますところでございます。ご案内の通り、年に2回というようなこともございましたけれども、まげて、ご出席賜りましたことを、重ねて御礼を申し上げる次第でございます。また、ご来賓には、札幌市長 桂 信雄様をはじめ、国際ロータリー会長代理として、Gary C. K. Huangご夫妻、地区外からガバナー夫

人、パストガバナーそして、地区内の元国際ロータリー理事ご夫妻、パストガバナーご夫妻、ガバナーエレクトご夫妻、そして、地区大会特別参加者として、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブの方々、交換留学生、米山奨学生、ロータリー財団奨学生、ロータリー財団学友会の方々を含めまして、合計2,082名の多きにわたってございます。このようなご参加を頂きましたことに心から感謝を申し上げる次第でございます。リチャード・D.キングRI会長は、2001年～2002年度のテーマを「人類が私たちの仕事」、「Mankind Is Our Business」として掲げられ、21世紀を迎えた人類が、全世界に、そして地球上にどのような行動をしていくかを提唱され、私達のテーマとされたわけであります。私はこのテーマの実践を皆様方に一日も早く、地区の会員の方々にご参集を頂きまして、メッセージをご報告申し上げたかったわけであります。そして、本日、皆様方にこのテーマを良



く理解して頂き、RI会長と同じ熱意で、ロータリーの奉仕活動を実践して頂きたかったからでございます。その一つは、会員の増強であります。そして、二番目には、「めざせ、コミュニティへのサービスを」でございます。ロータリーは地域社会の奉仕活動をもっと実施していきたくからでございます。地域には、それぞれの特色ある社会奉仕活動を数多く実施致しておりまして、その行動が、少なくともロータリーの社会奉仕がはっきりと目に見えるようなことにしていきたいのでございます。この年度は、新世代の方々にも、ロータリアンとしての語りかけを行うと同時に、奉仕活動として共に活性化を推進していきたいと思っております。実は、昨日「めざせ、コミュニティへのサービスを」というテーマでフォーラムさせて頂きました。300名に垂んとする会長、並びに幹事、そして、クラブ社会奉仕関連の皆さん、そして、パネラー・コメンテーターの皆さんにご出席頂きまして、活発な、社会奉仕に向かったのフォーラムをさせて頂きまして、心から、これまた厚く御礼申し上げます。私は、今この世紀における、社会奉仕、ロータリーがまさに、社会奉仕をしていくことが、ロータリーとしての1つの大きな夢であろうと感ずるわけでございます。地区大会の開催にあたってキングRI会長は、ご自身の代理として、国際ロータリー副会長のGary C. K. Huang氏を選ばれまして、本地区に派遣して下さいました。ご案内の通り、私二晩ほど、ホァングさんと食事をさせて頂いておりますけれども、ホァングさんは、台湾の方で、お若い方ですがロータリー

には、大変ご熱心な活動的な方と伺っており、本地区と致しましては、誠に光栄に存する次第でございます。友、遠方より来る、また、楽しからずやという昔のことわざが中国にございましたけれども、本地区の活動と、現況につきまして、明確にご享受頂きたいと、このように思っております。また、RI会長代理の台湾と北海道とは、国際交流が活発で、当札幌には、2月の雪まつりをはじめ、観光にいらっしゃる方が、多勢いらっしゃいまして、これはまた、喜ばしい友好関係であろうと感じております。さて、今年度の地区大会は、会員との友愛を深め、親睦を深めようという意を注ぎました。そして、ロータリーの理念を追求するべく、社会奉仕と新世代をテーマにフォーラムを計画致しました。これからの世紀における、ロータリーのあるべき姿を求め、「入りて学び、出でて奉仕せよ」を実践すべく、計画を致しました。どうか、この2日間は、「人類が私たちの仕事」をテーマに楽しみながら、友愛の絆を深めて頂きたいと存じております。実は、皆様方のお手元に、このようなパンフレットがあると思いますが、これには、親子との絆、この図を描いてございますので、その意味合いを充分にお含み頂きたいと存じております。終わりになりますけれども、本大会の開催にあたり、短期間に大きな仕事を推進された、地区大会実行委員の皆様、並びに、ご理解とご協力賜りました、全クラブの皆様方に、心からなる謝意を申し上げまして、ガバナーとしての挨拶とさせて頂きました。ご静聴誠にありがとうございました。



ご来賓祝辞

札幌市長
桂 信 雄



おはようございます。札幌市長の桂でございます。まだ、息が整っておりませんけれども、ご指名でありますから、歓迎のごあいさつをさせて頂きたいと思います。本日、国際ロータリー第2510地区大会がこのような大勢の皆様方のお出でを頂きまして、私どもの街、札幌で開催をして頂くということは、大変光栄でございます。皆様方を札幌市民とともに、心から歓迎を申し上げたいと思います。そして、日頃から、皆様方には、本所の地域福祉の推進にも、大変ご理解を頂いております。後ほど、感謝状を贈呈させて頂きすけれども、このたび、地域振興基金へ心温まる御寄付を頂きますことに、この場をお借りして、前もってお礼を申し上げたいと思います。現在、皆様方の国際ロータリー、第2510地区は、伺いますと、71クラブ、約3,600名

もの、会員の方々がいらっしゃると同っておりますが、札幌市はもちろんですけれども、それぞれの地域におきまして、本当に真心のこもった奉仕活動を展開されて、それぞれに、心豊かな地域社会作りのために、多大なご貢献をなさっておられることに、心から敬意を表するものでございます。とりわけ、先月のニューヨークで発生した、同時多発テロ事件につきましては、会員の皆様方が早速、一致協力して、募金活動を展開されておられるというふうになっております。そうした、尊い活動を率先して展開されておりますことに、街づくりを進める、勧めているものの一員として、大変心強く思っております。ご案内の通り、現在私ども札幌市は、人口183万人を擁する我が国第5番目、人口では、約5番目の都市であります。今や、行政、経済、

札幌市へ記念品贈呈

ガバナー 岩 城 秀 晴

常日頃、私達、市民に対する思い入れ、その他を立派に行政として展開して頂いておりますことに、誠に感謝している所でございます。今後とも、私達の奉仕活動につきまして、ご理解とご支援賜りますこと、心からお願い申し上げます。



文化、あらゆる面で、北の中核都市として、発展を続けていると自負致しております。しかし、そうは言いましても、住民の方々にとって、それぞれの街が、本当に暮らしやすい魅力のある、街であるためには、都市基盤の整備というのは、もちろんでありますけれども、なんと申しましても、そこに住む住民の方の間に、心の通い合いといえますか、互いに支え合う気持ちが、しっかり根付いているということが、大変大事である。この、連帯感を培われているということが、最も大切であるというふうに思います。そうした意味で、それぞれの地域で、様々なご活動を通じて、奉仕の精神や、思いやりの心を大切に育てておられます、ロータリークラブの皆様、改めて敬意を表するとともに、今後もこれまで培われたその豊富な経験を礎として、潤いあふれる地域社会の実現に変わらぬお力添えを賜りますように、心からお願い申し上げます。

結びになりますが、今回の大会が様々な交流により、実り多いものになりますよう、期待致しますと共に、国際ロータリー第2510地区のますますのご発展、そして、会員の皆様の今後いっそうのご活躍、ご健勝を心から祈念致しまして、簡単でありますけれども、地元開催市長としての、ご歓迎の挨拶とさせていただきます。おめでとうございます。

札幌市からの感謝状





Greeting : R.I.Vice-President,



R.I.Vice-President, (2001-02)

Gary C. K. Huang

Mankind is Our Business

District Governor Hideharu Iwaki,
All Past Districts Governors, Fellow
Rotarians, Ladies & Gentleman,

It is a great pleasure and honor for my wife Corinna & I to represent R.I. President Richard D. King and his lovely wife Cherie to your District Conference. It is always a pleasure to come back to Japan. You have never failed to disappoint me in hosting a wonderful week of activities and events all surrounding Rotary. RI President Richard King cannot be here today, and in his place, he has asked me to speak to you about our Rotary theme for 2001-2002: Mankind is Our Business.

In light of the events happening last month in America, I think there is no better time to discuss our theme for this year. If the mighty America can be a victim to such horrid crimes, then no one is safe. These people are not targeting just Americans, they are targeting capitalism, personal freedom. These have no longer become American ideals, they are now global ideals, and we are all equally at risk as humans. Mankind is Our Business. It was the WORLD trade center, home to many businesses and not just American ones. I expect, that in any tragic situation such as this, people will wake up and remember that HUMANS are the most important loss, over work. But



how about on a day to day existence? How many of you can honestly say that you go to work each day, and worry about your co-workers and friends rather than what report has to be written? Mankind IS Our Business. If I fail in my insurance, my business goes bankrupt. My kids give up their cars, I don't play golf. But if I fail to make Mankind my Business, my soul goes bankrupt. I give up purpose for my life.

You are all successful business people, I have no doubt. I am confident of your professional abilities, and I know that many of you are in a position to teach me, rather than the other way around. However, I think American businessman Andrew Carnegie says it best, "I'm not in the business of making steel. I'm in the business of marking men. They make steel" Well, today I'm not in the business of insurance, I'm in the business of making Rotarians!

Now for any business, you need a market. Well, I think we can all agree, that there definitely is a high demand for the services of Rotary and Rotarians. Today, our Earth's population is 8 billion people. But one in eight of us is hungry. Every 3 1/2 seconds, someone dies from hunger. If this room were representative of the world population, by the time I'm done talking, those of you in the first four rows, would

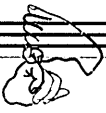
be dragging your own chains and haunting the rest of us.

Rotary has long made a commitment to fighting Polio. Our original target date for the elimination of this disease, is the year 2005. It's now 2001 and our job is not yet complete. Since we started PolioPlus, the number of polio cases has declined by 99%, but what about people in that 1%?

Another example of the demand for Rotary services comes from education. A few years back, I had the privilege of meeting Rotarians in India who had started a program to educate women in remote areas. It was truly amazing, how much these women had learned, both in terms of vocational skills, and self-esteem. But for every woman who benefited from the program, there were another 5 unaware of how to improve their lives.

The list goes on, last year we had Task Forces on the care for the elderly, natural disaster, blindness, community violence, the environment, literacy, the disabled. And these are only the problems we made Task Forces! We haven't even gotten around to covering AIDS or peace efforts.

So, we have a market, we have a demand. Next, for our business, we need workers! That is YOU! We need more Rotarians!



Last year, Rotary membership worldwide dropped for the first time. I realize that there are a lot of reasons that people stop participating in Rotary, but there are also a lot of ways to overcome those vary reasons. Many of you who have had the misfortune to hear me speak before, have often heard me say, if EACH of you, find one person to join Rotary, our membership would double. The person you choose to introduce doesn't even have to be in Japan! Remember, we are an international organization. I know, that each of you can think of one person, perhaps even a former Rotarian, who is Rotarian in deed and thought, and has not joined our club. Think like Jacob Marley, may be you know someone who OUGHT to learn the lessons of Rotary, who like Scrooge, is a good person, but simply doesn't recognize the emptiness of his life without kindness. Rotary doesn't put restrictions on who can join: the only requirement is a generous spirit.

In the business of Mankind, Rotary membership is everything. You are the worker, the factory, the machine, the product, the supplier. Without members, Rotary's good deeds would end tomorrow. We would have no new ideas on how we can serve the community, we would have no new energy to give to our programs, we would have no funds to contribute to our projects. For the first time since the 1940's,

Rotary membership worldwide has declined every year, for the last three years. There are so many reasons to join Rotary: business network, community service, world citizenship. Rotary is an opportunity to serve, a challenge in personal development, and a place to make new friends. It's a college degree in public speaking, please feel free to give me grades later. And above all, it's about friendship and fun. I mean, honestly, can you think of a single Rotary meeting where you didn't laugh at least once, or a single Rotary Conference where you didn't go home with a single good memory? With so many reasons to become part of the Rotary family, we think that people just need to be encouraged! So, this year, we are starting Rotary's Global Quest.

Rotary's Global Quest is a goal for EACH Rotary club to bring in at least one qualified new member per month for this Rotary year. Each club has to have a minimum NET gain of 5 new members at the end of the year. In addition, each district will be asked either to from three new clubs, OR to have at least five existing clubs gain 15 new members.

The top 50 districts, and 100 clubs will be recognized at the International Convention in Barcelona. The district with the largest net gain will be named the overall winner. And if the recognition isn't

enough for you, the top district governors and club presidents will be invited to Barcelona, Spain at Rotary International's expense. The Board of Directors has set a world goal of 1.5 million new members. It's an ambitious goal, but the clubs in Hokkaido have always delivered what I asked. And I know, it's not too much to ask, that at least one of the Top Districts and Clubs recognized in Barcelona be from Japan.

Now, we have the demand, we have the supply. We need some way to bring them together. The underlying principle of economics and business comes from a man named Adam Smith. Smith claims, that people, will always act in their own self-interest, and thus drive the invisible hand of the market. So as business people, let us make a deal. It's what we call a win-win negotiation in the "real" world. You deliver me a product, or a service. I give you some kind of compensation. Each person in this room, and that means YOU, think of at least three ways in which they can contribute to Rotary, to Mankind. And you will be paid, in the priceless smiles of those you help, the admiration of your peers, and the feeling of satisfaction when you wake up each morning, look at

yourself in the mirror, and can honestly say, "I fulfilled my Rotary vow, Service Above Self."

As I see some of you getting tired, I remember Mr. Edgar How says, "Make your business talks as short as your prayers, and you will always be a winner." Fellow Rotarians, let us come back one last time to our story, A Christmas Carol, and our theme for this year, Mankind is our Business. Franklin Pierce Adams, an American president, who I've never heard of before, said "Christmas is over and Business is Business." And perhaps that is why I've never heard of him. He didn't see generosity of spirit as something lasting, and he felt that business, that is monetary business, should always come first. But any money you make in this world, stays in this world. Your importance to society is only what you give. Money, is ephemeral, once it's spent, it's gone. But kindness is everlasting, because it is always relived in memory. It's October, and there are two months until Christmas. But as Rotarians, we have the power to make every day Christmas, when we make Mankind our Business.

Thank you !



国際ロータリー会長代理挨拶

RI副会長(2001-02)

黄 其光



人類が私たちの仕事

ガバナー 岩城秀晴様

バストガバナーならびにロータリアンの皆様

本日ここに、国際ロータリー第2510地区の地区大会にあたり、RI会長リチャードD.キングならびに美しい令夫人シェリー様、ご夫妻のRI会長代理として出席致しますことは、私と私の妻コリーナにとりまして、大きな喜びであり、真に光栄なことと存じます。私どもにとりまして、日本への訪問は常に楽しみであります。地区大会のプログラムもそうですが、なによりもロータリアンの皆様の温かい歓迎に深甚より感激申し上げます。残念ながら、本日の地区大会にリチャードD.キングRI会長は出席できませんが、代わって、私が皆様に2001～2002年度のRIテーマ「人類が私たちの仕事」をお話するようにと命じら

れました。

先月起きたアメリカの同時多発テロの教訓から、我々が本年度のRIテーマを討議することは、大変重要な意味を持っていると思います。もし、強靱なアメリカがあのような恐るべきテロに屈するならば、世界の誰もが同じ恐怖に脅かされているといっても過言ではありません。彼らはアメリカだけを攻撃の対象にしたのではなく、資本主義や個人の自由を破壊しようとしているのです。まさにこれはアメリカだけの問題ではなく、全世界の問題であります。我々はこれを人類全体の問題として捉え、世界各国がテロ撲滅に地球規模で立ち向かわなければなりません。人類が私たちの仕事です。同時多発テロで攻撃された貿易センターは、アメリカのみならず世界のビ



ジネスの中心的存在でした。このような悲劇的な大惨事に屈することなく、「人類は最も重要である」ということを肝に銘じ、人類の大切さを心にしっかりと刻みこんでほしいのです。しかし、毎日の生活はどうでしょうか？あなた方のうちの何人が、正直言って、毎日働き、同僚や友達のことを心から心配しているのでしょうか？人類は私たちの仕事です。例えば、私が保険業で失敗すれば、私の会社は倒産します。そうすれば、私の子供たちは車を諦め、私はゴルフを止めるでしょう。しかし、私が人類に失敗したら、私の魂は消滅し、私は人生の目標を失うでしょう。

ここにご参加の皆様は疑いもなく、事業家として成功者だと思います。私はあなた方の専門職務としての才能を信じます。皆様方の多くは私を指導する立場にいらっしゃると思いますが、ここで私はアメリカの実業家アンドリュー・カーネギーの言葉を引用したいと思います。「私は鉄鋼を製造しているのではありません。私は人物を発掘しているのです。そして、彼らが鉄鋼を製造してくれるのです」さて、私もまた私は保険業に携わっているのではありません。ロータリアンを発掘することに関わっているのです。

如何なるビジネスにも市場は不可欠です。ロータリーとロータリアンの奉仕活動には大きな期待が寄せられていることは皆様もご承知の通りであります。今日の地球の総人口は80億です。8人に1人が飢餓を訴え、3.5秒毎に誰かが飢餓で死んでいます。もし、ここが世界の人口の縮図であるならば、私が話を終えるまでに、一列から四列までの人々が自

分自身自ら鎖をかけ、残りの我々に救いを求めてくるでしょう。

ロータリーは長い間、ポリオ撲滅と闘ってきました。我々のポリオ終結宣言の目標は、2005年です。今年は2001年ですから、まだ完全に目標を達成していませんが、ポリオブラスの促進のおかげで、99%は達成されたでしょう。しかし、残りの1%の人々はどうなるのでしょうか？

ではロータリーの別の奉仕活動をみてみましょう。教育はどうでしょうか。私は数年前に、遠隔地の婦人を対象にした教育プロジェクトを推進しているインドのロータリアン達に会う機会を得ました。まさに驚異的です。職業能力の向上と自己達成に向けて、熱心に教育がなされています。その教育プログラムのおかげで、彼女達は生活の質を高める5つの方法を知ることが出来ました。

昨年実施されたタスクフォースは、高齢者への援助、災害、文盲、社会暴力、環境問題、識字率の向上、障害者への支援などです。これらは我々が既に推進している奉仕活動ですが、エイズならびに世界平和への貢献など、まだ取り組んでいない課題が残されています。

我々のビジネスは市場があり、需要があり、つぎに労働者が必要になります。それがあなたです。私達にはロータリアンが必要なのです。昨年、初めて世界的にロータリーの会員が減少しました。ロータリー活動に参加する会員が減少した要因は、幾つか考えられますが、同時にそれを克服する色々な方法も



考えられると思います。私が嘆くのを聞くより、一人が一人の会員増強をすれば会員は2倍になります。会員の紹介は、日本に住んでいる人だけが対象ではありません。そうです、ロータリーは世界組織なのです。会員に推薦したい候補者は、もしかすると元ロータリアンかもしれませんが、我々の会員ではありませんでした。ロータリーの研修会で学んだと思いますが、スクルージは善良な人間でしたが、人に情けをかけなかったために、自分の思いやりの無い行為を後悔し、彼の人生は満たされないものがありました。

ロータリーの会員になるには何の制限もありません。ただ親切で寛容な心が望まれます。

人類のビジネスにおいて、ロータリーの会員は全てです。あなたが労働者であり、工場であり、機械であり、製品であり、供給者であります。会員なしではロータリー活動も明日止まってしまうでしょう。常に斬新なアイデアが無ければ、地域社会の奉仕活動も出来ません。我々のプログラムを推進するにはどうしても、新しいエネルギーが必要です。我々のプロジェクトを支援するには、財源が必要です。1940年代以来はじめてここ3年間、毎年、世界的にロータリーの会員減少がみられます。ロータリーに入会すると多くの特典があります。ビジネスのネットワークづくり、地域社会の奉仕活動、国際社会への参加です。ロータリーは奉仕活動の機会、自己達成への挑戦、そして新しい出会いの場を我々に提供してくれます。またパブリックスピーキングで学位を取れる絶好の場所です。どうぞ後で私のスピーチに点数をつけてくだ

さい。結局、ロータリーは友情と喜びであります。率直に申し上げますと、今までに一度も笑わなかったロータリーの会合があったでしょうか？一つでも良い思い出をつくらず家に帰ったロータリーの会合があったでしょうか？ロータリーの素晴らしさを分かち合ために、人々を探し出しましょう。増強には新会員の啓発誘導が必要なのです。そうです。今年こそ“ロータリー・グローバル・クエスト”に参加しましょう。“ロータリー・グローバル・クエスト”の本年度目標は、各クラブ、少なくとも毎月1名の増強をすること、或いは、年間最低純増5人の増強を確実にすることです。加えて、1地区で3つの新クラブを誕生させるか、或いは、少なくとも5つのクラブが最低15名の会員純増を達成することです。

優秀な50地区および100のクラブがバルセロナの世界大会で表彰されます。最高の純増をした地区は最優秀純増地区として表彰されることになります。さらに、10地区のガバナーとクラブ会長が、RIの費用でスペインのバルセロナにご招待されます。RI理事会はロータリーの会員を150万人にするという目標を設定しました。それは野心的な目標ですが、北海道のロータリークラブの皆様は私が申し上げました事を、ご理解していただけるものと思います。これらの増強目標は皆様にはそんなに負担にはならないかも知れませんが、必ず日本の中から優秀地区或いは優秀クラブとしてバルセロナにご招待されます様期待しております。

さて、我々には需要と供給があり、それら



を均衡の取れた相互関係に保つことが大切です。経済とビジネスの原理は経済学者アダム・スミスの影響を受けています。スミスは、「人々は常に利己心に基づいて行動しているが、見えざる手によって導かれている」と述べています。我々も事業家として行動しましょう。それは実社会では優れた交渉と呼ばれています。あなたが私に製品と奉仕を運んで下さい。私はなんらかの報酬をあげましょう。ここにお集まりの皆様方お一人お一人が、ロータリーに対して、人類に対して貢献できる少なくとも3つの方法を考えて下さい。その結果、あなたが支援した人々の笑顔がお礼となって返ってくるでしょう。あなたの同輩の賞賛を浴びるでしょう。毎朝満ち足りた気分で目を覚ますでしょう。鏡にご自身の姿を映してみして下さい。「私はロータリーの誓約、超私の奉仕を実行しています」と正直に答えられるはずです。

お疲れの方もいらっしゃるでしょうが、ここでエドガー・ハウの言葉を引用したいと思います。「商談は祈りのように短くしなさい。そうすればあなたは常に勝利者です」

ロータリアンの皆様、最後にもう一度、クリスマス・キャロルと本年度のRIテーマ「人類が私たちの仕事」にふれたいと思います。アメリカの大統領、フランクリン・ピアス・アダムスは——私は一度も名前を聞いたことが無いのですが——こう言いました。「クリスマスは終わった。そしてビジネスはビジネスだ」恐らく私は彼のこの言葉は聞いたこ

とがありません。彼は、何か最期に寛容な心が欠けていたと思ったのでしょうか。ビジネス、即ち金融ビジネスが常に優先されると感じたのでしょうか。実際、あなたはお金儲けをするでしょう。しかし、大切なことはあなたが社会に何を貢献したかです。金銭ははかないものです。一度使えば、無くなります。しかし、親切心は永久不滅です。常に記憶の中に残されているからです。今、10月ですから、クリスマスまであと2ヶ月となりました。さて皆さま、もし人類が私たちの仕事だとすれば、私たちロータリアンは毎日をクリスマスに変えるパワーを持っていると信じています。

ご静聴ありがとうございました。



大会運営委員会報告

大会登録委員会報告



大会登録委員長
遠藤正之

大会登録委員会からご報告申し上げます。登録総数2,082名となりました。内訳を申し上げますと、ご来賓の特別参加9名、地区外会員3名、ご家族2名、地区内会員1,803名、ご家族119名、青少年交換学生ローテックスを合わせて31名、インターアクター37名、ローターアクター27名、米山奨学生21名、米山学友5名、財団奨学生6名、財団学友19名となっており、合計2,082名でございます。以上、友情とご協力に感謝申し上げて、ご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

大会信任状委員会報告



大会信任状委員長
森本正夫

大会信任状委員会のご報告を申し上げます。信任状委員会としまして、本大会に各クラブから、選挙人の信任状の提出をしていただきました。これを、国際ロータリー細則第15条、第5節、第1項に基づきまして、慎重、審議致しました結果、提出されました信任状の選挙人は、いずれも皆適確であることが確認されました。同時に当地区のクラブ総数は、現在71クラブでございます。当地区内の会員数は、7月1日現在、3,601名でございます。さらに、さきほど申し上げました信任状提出の選挙人の数は、146名でございます。以上の事が確定しましたので、ご報告申し上げます。以上でございます。

大会選挙管理委員会報告



大会選挙管理委員長
石垣博美

大会選挙管理委員会からご報告申し上げます。当地区の2002年から2003年にかけてのガバナーエレクトには、札幌北ロータリークラブの小林博君が決定いたしております。2003年から2004年にかけての、ガバナーノミニーにつきましては、ガバナー月信第2号、第3号によりまして、10月10日必着の主旨で、地区内各ロータリークラブに候補推薦のご依頼を申し上げましたが、一つの推薦もございません。このため、これからは当地区のガバナー指名委員会におきまして、2003年、2004年のガバナーノミニーを決定したいと存じております。以上、選挙管理委員会からご報告申し上げます。

大会決議案 上程



大会決議案委員長
伊藤長英

昨日の会長・幹事会におきまして、大会決議案が承認されました。只今から、この本会議におきまして、大会決議案を上程致しますので、よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。(大会決議案) 以上でございますが、これから後は、岩城ガバナーによりしくお願い致します。



大会決議案

●決議第1号

「国際ロータリーのテーマを推進する件」

リチャードD.キング国際ロータリー会長は本年度のテーマとして「人類が私たちの仕事」を示されました。

我々第2510地区のロータリアンは、このテーマをよく理解し積極的に推進して、ロータリーの奉仕活動に最大限の努力を傾けることを決議致します。

●決議第2号

「リチャードD.キング国際ロータリー会長並びに黄 其光国際ロータリー会長代理ご夫妻に感謝する件」

2001-2002年度の国際ロータリー第2510地区地区大会を札幌市で開催するに当たり、リチャードD.キング国際ロータリー会長は会長代理として黄 其光国際ロータリー副会長を派遣されました。

同氏は令夫人と共に本大会にご臨席下さり、キング国際ロータリー会長のメッセージを伝えられ、さらに国際ロータリーの現状についてのご講話と共に格調高い所感を表明され、大会参加者に多大の感銘を与えられて本大会を成功へと導かれました。

本大会はリチャードD.キング国際ロータリー会長に心からの謝意を表すると共に、黄 其光国際ロータリー会長代理ご夫妻に記念品を贈り、感謝と敬意を表することを決議致します。

●決議第3号

「2004年度規定審議会の代表議員及び補欠議員を指名する件」

2004年度に開催される規定審議会への当地

区クラブ代表として、パスト・ガバナー石垣博美氏、補欠議員としてパスト・ガバナー伊藤長英氏に出席を依頼することを決議致します。

●決議第4号

「会員増強と退会防止及びクラブ拡大を推進する件」

当地区のロータリアンは、リチャードD.キング国際ロータリー会長が本年度の最優先事項として掲げられた会員増強と退会防止及びクラブ拡大を一層推進することを決議致します。

●決議第5号

「地域社会に対する奉仕活動を推進する件」

当地区のロータリアンは、リチャードD.キング国際ロータリー会長が挑戦事項として、地域社会への奉仕を掲げられたので、より積極的に遂行することを決議致します。

●決議第6号

「2000-2001年度の地区資金収支報告並びに監査報告を採択する件」

2000-2001年度の地区資金収支報告並びに監査報告は別紙の通りであります。

本大会は国際ロータリー細則第15条第6節第4項の規定に則り、正式に採択することを決議致します。

●決議第7号

「国際ロータリー第2510地区

直前ガバナー遠藤正之氏に感謝する件」

2000-2001年度地区ガバナー遠藤正之氏は、フランクJ.デブリン直前国際ロータリー



会長のテーマ「意識を喚起し-進んで行動を」を地区内ロータリアンの理解に努められ、ご在任中は当地区のロータリーのリーダーとしてその卓越した手腕をロータリーに対する情熱を持って激務を見事に果たされました。

よって本大会は同氏の功績をたたえ、深甚なる謝意を表することを決議致します。

●決議第8号

「ロータリー財団の寄付増進に協力する件」

国際ロータリーのロータリー財団はロータリー活動の大きな柱の一つであります。

当地区の全てのロータリアンは国際理解、友好、親善、人道的援助の願いを込めて、ロータリー財団への寄付増進に協力することを決議致します。

●決議第9号

「米山記念奨学会の寄付増進に協力する件」

米山記念奨学会は日本のロータリー活動の大きな柱の一つであります。

当地区の全てのロータリアンは国際理解、友好、親善の願いを込めて、米山記念奨学会への寄付増進に協力することを決議致します。

●決議第10号

「バルセロナ国際ロータリー大会への参加を推進する件」

2002年6月23日～26日にスペイン、バルセロナ市において開催される国際大会に当地区会員並びにご家族の積極的な参加を推進することを決議致します。

●決議第11号

「札幌市への寄付に関する件」

本大会を記念し、札幌市に対して地域福祉振興基金支援金を贈呈することを決議致します。

●決議第12号

「次期地区大会開催に関する件」

2002-2003年度国際ロータリー第2510地区地区大会は、札幌北ロータリークラブをホストクラブとして札幌市において開催することを決議致します。

●決議第13号

「地区大会ホストクラブに感謝する件」

2001-2002年度国際ロータリー第2510地区地区大会が札幌パークホテルにおいて開催され、多くの成果を収めつつあることは、札幌南ロータリークラブの周到なる準備と会員とご家族のご協力の賜であります。

よって本大会はここに深甚なる謝意を表することを決議致します。

大会決議案採択

ガバナー

岩 城 秀 晴

本大会決議案は、皆様方の大きな拍手でご賛同されましたので本案は採択されました。

ありがとうございました。(満場拍手)



Resolutions at the 2001-2002 District Conference

District 2510, Rotary International

Resolution : 1

Promoting the Theme of Rotary International

President Richard D. King of Rotary International presented "Mankind is our business" as the theme for this year.

We, Rotarians of District 2510, hereby resolve to fully understand and promote this theme and make utmost efforts in Rotary's service activities.

Resolution : 2

Expressing gratitude for President Richard D. King, Vice-President Gary C. K. Huang and his wife

The President Richard D. King dispatched Vice-President Gary C. K. Huang as the President's representative for the 2001-2002 District conference of District 2510, Rotary International, held in Sapporo.

Mr. Huang attended the Conference with his wife, conveyed a message from President King and explained the status of Rotary International. He also deeply impressed the participants by addressing his thoughts in a dignified style and led the Conference to a great success. The conference hereby resolves to express its heartfelt gratitude to President King, as well as to present a souvenir to Mr. And Mrs. Huang to express our gratitude and respect to them.

Resolution : 3

Designation of representative and the alternate representative for 2004 Council on Legislation

We hereby resolve to request the attendance of Past Governor Hiromi Ishigaki as a representative and Past Governor Choei Ito as the alternate representative of Council on Legislation to be held in 2004.

Resolution : 4

Promoting the membership development and retention and the extension of the club

Rotarians of this District hereby resolve to further promote the membership development and retention and the extension of the club, which have been addressed by President Richard D. King of the Rotary International as top priorities for this year.

Resolution : 5

Promoting service activities for the community

Rotarians of this District hereby resolve to further promote service activities for the community as it has been addressed by President Richard D. King of the Rotary International as a matter to be challenged.

Resolution : 6

Adopting 2000-2001 District financial report and audit report

The 2000-2001 District financial report and audit report are as per enclosure. The Conference hereby resolves to adopt them formally in accordance with Section 15.060.4

the Bylaws of Rotary International.

Resolution : 7

Expressing gratitude to Immediate Past Governor Masayuki Endo of International Rotary District 2510

Mr. Masayuki Endo, the 2000-2001 District Governor, strove to promote understanding of Rotarians in the District concerning the theme of Immediate Past President Frank J. Devlyn of Rotary International, "Create Awareness - Take Action," and fulfilled his duties as the leader of this District with excellent ability and a passion for Rotary during his term of service. The Conference hereby resolves to recognize and express our deep gratitude to his distinguished achievements.

Resolution : 8

Cooperation for increasing contributions to The Rotary Foundation

The Rotary Foundation of Rotary International is playing a leading role in Rotary activities. All Rotarians of this District hereby resolve to cooperate in increasing contributions to The Rotary Foundation in hope of promoting international understanding, friendship, goodwill and humanitarian support.

Resolution : 9

Cooperation for increasing contributions to the Yoneyama Scholarship Committee

The Yoneyama Scholarship Committee is playing a major role in Rotary activities. All Rotarians of this District hereby resolve to cooperate in increasing contributions to the Yoneyama Scholarship Committee in hope of promoting international understanding, friendship and goodwill.

Resolution : 10

Promoting participation in the Barcelona Convention of Rotary International

We hereby resolve to promote active participation of the members of this District and their families in the International Convention to be held in Barcelona, Spain, between June 23 and 26, 2002.

Resolution : 11

Contribution to the City of Sapporo

In commemoration of this Conference, we hereby resolve to present a donation to the Regional Welfare Promotion Fund of the City of Sapporo.

Resolution : 12

Opening of the next District Conference

We hereby resolve that the 2002-2003 District Conference of District 2510, Rotary International, be held in Sapporo hosted by Sapporo North Rotary Club.

Resolution : 13

Expressing gratitude to the host club of the District Conference

The 2001-2002 District Conference of District 2510, Rotary International, was held at Sapporo Park Hotel and was a brilliant success thanks to the thorough preparations made by the Sapporo South Rotary Club as well as the cooperation of its members and their families. The Conference therefore resolves to express its sincere gratitude to the club.



Rotary International Today

District Governor Hideharu Iwaki,
All Past Districts Governors, Fellow Rotari-
ans, Ladies & Gentleman,

Good afternoon ! I hope that you have all enjoyed your District Conference so far. I always love the opportunity to come back to Japan, amongst so many old friends. But I was especially happy for the opportunity to come to Hokkaido. You may know, in Taiwan, we like to "Gan-Bei". And we especially like to drink beer. Hokkaido is home to one of the best beers sold in the world, Sapporo. I've been trying to convince my wife Corinna that I need to take advantage of this and drink a little more. I know Corinna and I have truly enjoyed being here, except for the part where she has to listen to me talk again. She says she gets enough of that at home. But I think that today's topic, is very important, and of course, a primary reason for the yearly District conferences. So I hope that you will stay focused for a few more minutes, and then I will try to let you



know a little more about Rotary International today. Let me start this afternoon, by telling you where Rotary stands today, giving you an update on the Rotary Foundation, and then just conclude with where Rotary is heading in the future.

The Board of Directors of Rotary International for 2001-02 is composed of 19 members, including the President and President-Elect, they come from 13 different countries whose homelands are U.S.A., Thailand, Brazil, France, England, Australia, Japan, Austria, Finland, Panama, Korea, India and Taiwan. You may think that this list covers all the places Rotary goes. But we actually have a lot of more to go.

We have as of June 2001 nearly 1.2 million Rotarians with about 103,000 ladies in Rotary's 30,149 Clubs in 530 Districts in 163 countries and 40 Geographical Regions. We reach more places than the United Nations! In Interact we have about 179,130 members

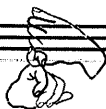


in 7,789 clubs. In Rotaract, we have about 161,184 members in 7,008 clubs. In Rotary community Corps, we have 4,201 members in our corps. Our youth Exchange program which was started in 1929, has 7,000 young people participating in this program annually. Rotary also is unique, because we are a non-government organization, we serve directly to the people, without having to dilute or filter our efforts through government politics. But our efforts globally are seriously handicapped by our declining membership. I have already previously mentioned this to you, but one of the ways we are trying to overcome this problem is with Rotary's Global Quest. Remember, each of you only need to introduce ONE new member, and your club, or your district could be the winner!

The Board of Directors is working very hard to try and make this easier for you. In our June Board meeting in Evanston, we passed several resolutions regarding membership. First, we encourage ALL clubs, to have both women and men. I've long supported women in Rotary, and founded the first all women Rotary club in Taipei. I mean, why automatically eliminate half of the people you meet as potential Rotarians? We aren't looking for any category of person, we are looking for a KIND of person. Second, the Council on Legislation held in April this year in Chicago. One of the most important decisions was: To define the locality of a club to replace the concept of club territory. For example, we

are going to support the new project to start "cyber" Rotary clubs on the Internet. We are rapidly approaching Rotary's 100th year. To make our organization as strong, even stronger than it has been, in the next 100 years, we need to take hold of all the opportunities the future offers. As business people, we have already recognized the power of electronic communication, so why we have been slow to adopt it in Rotary? I really enjoyed some of your club and district websites from last year, and I hope that you will continue to maintain and update them. So, I have just given you two ideas on ways to increase membership, women and cyberclubs, and I know that each of you also have several ideas. Together, I know we can ensure the future of Rotary. You can all do it!

Another way we can increase membership, is through the youth participation. Many of you are familiar with my efforts for Rotaractors and Interactors. Rotary has officially launched the Rotary Centers for International Studies. This is the first year we will actually be sending students abroad! We selected 70 talented World Peace scholars to participate in two-year graduate programs. But this program is entirely dependent on the support of the region these students would like to visit. Japan traditionally has always welcomed international scholars, and I hope you will continue to support our program. Remember, these promising young leaders who take advantage of our programs now, are precisely



the kind of people we want them to join our Rotary family later.

In terms of the Rotary Foundation, we are still committed to the complete worldwide eradication of polio by the year 2005. We have just a little more to go, and it would be such a shame to give up, and not finish the job. Remember, Mankind is our Business, and in this business, there is no such thing as bankruptcy.

The Foundation's multiple humanitarian projects continue to work in developing countries to bring clean water, health care, food, and job training to all who need it. Our 3H Program spent \$5.5 million in these efforts last year, and the Matching Grants Program spent an additional \$19.9 million.

The Foundation's Ambassadorial Scholarships is currently the world's LARGEST private source for International scholarships. You may not know, that we also have started to provide grants for professors and teachers to serve in developing countries. After all, it's easy to talk about the idea for world peace, but how can people know what is required of world peace, when we don't understand how people live in other parts? I like the quotation from Nobel Peace Prize winner Albert Schweitzer, "It is a man's sympathy with all creatures that truly makes him a man. Until he extends his circle of compassion to all living things, man himself will not find peace."

For that reason, I hope, that you will continue to support students studying in Japan, but ALSO that you SEND students and teachers abroad, that they may extend our circle of compassion.

These two things combined : (1)strong membership and (2)an increased global awareness, ARE the future of Rotary. The kanji character on all the Sapporo beer bottles in Chinese means "life." From what I understand, it means something very similar in Japanese. It's a well-chosen name. Hokkaido, the home of Sapporo beer, is one of the most naturally beautiful places I have ever been. And I can tell you that through my more than 25 years with Rotary, I have seen a lot of the world. I also am told that the red star on the cans of Sapporo beer represents the North Star that so faithfully guided sailors. Together, Sapporo beer is trying to establish a message of life and leadership. Although it's up to argument, whether beer can give life and leadership, those two things are exactly what Rotary needs now. I know that Rotarians can provide just that, not only for Rotary, but for all those who need our service. You've shown me each time you reach a new goal for donations, each time you come up with a new project for our foundation, each time you welcome a new international student. We both know, offering life and leadership is not as easy as drinking beer everyday. But Rotarians have never run from difficult challenges. Today, Sapporo



is the oldest Japanese beer. It's success is not only a part of it's product, but also it is a part of the company. The success of Rotary is only one-half what we do for the world, and one-half what we do for our own organization.

My fellow Rotarians, our RI Convention this year will be held in Barcelona, Spain during 23-26 June. The RI Convention is one of the biggest events a country could host apart maybe from the Olympics. This is an event for all Rotarians and their spouses and I would on behalf of President Richard D. King and Rotary First Lady Cherie urge all of you to join them at the convention. Especially, Japan will host the 2004 Osaka International Convention. For those of you who have not been to Spain, I assure you that it is truly a beautiful country.

In conclusion, I would like to thank you all for your dedicated services and generous contributions to make the above Rotary International programs possible.

I am sure if we continue to put more efforts into Rotary's four avenues of services. The world will recognize that we care for our community, for our world and for its people and it is our business to bring more individuals into Rotary because **MANKIND IS OUR BUSINESS.**

Last but not less, let me wish you again, good luck on your efforts for this year as **WE MAKE MANKIND OUR BUSINESS**, and an exciting rest of the District Conference.

Thank you !



国際ロータリーの現況



ガバナー 岩城秀晴様
バストガバナーならびにロータリアンの皆様

皆様こんにちは。さて皆様はこの度の地区大会を楽しんでいらっしゃるでしょうか。私はいつも、日本訪問を楽しみにしています。多くの親しい友人に会えるからです。特に北海道へは楽しみにして参りました。ご存知の通り私たち台湾人は“乾杯”が好きで、ビールを飲むのが大好きです。北海道は、世界でも最も売上の多いサッポロビールの本拠地でもありますので、私は妻のコーリーナに免じてビールを飲むのを楽しみにして参りました。私達は御当地を訪問できましたことを心より嬉しく思います。ただしコーリーナは家でいつも聞いている私の話を、今日また聞かなければなりません。しかし、今日は地区大会なので非常に大切なことをお話しします。皆さま、もう暫く私にお時間を下さい。これから国際ロータリーの現況をご報告したいと思います。

2001～2002年度のRI理事会は、RI会長、RI会長エレクトを含めて19人のメンバーで構成

されています。理事会のメンバーは、13カ国の出身者で、アメリカ合衆国、タイ、ブラジル、フランス、イギリス、オーストラリア、日本、オーストリア、フィンランド、パナマ、韓国、インド、台湾です。ロータリーの包括する範囲はこの13カ国とお考えでしょうか。実際にはもっと広い範囲なのです。

我々の身近にいるロータリアンの行動を把握するのは簡単です。朝起きて、1日中働き、ランチか夕食にロータリーに行き、卓話を聞き、我々が参加するプロジェクトや、寄付についてのクラブ会長のスピーチや要望を聞き、家に帰り、妻か夫の話に耳を傾け、子供と一緒に遊ぶといったところでしょうか。しかしそれも暫くすると、マンネリ化します。そこで1年に一度はこのように年次大会を開催し、RI会長代理の話に耳を傾けることになっているのです。今日は、ロータリーの全てをお話しします。今日、ロータリーがおかれている立場、ロータリー財団の状況、今後のロータリーの展望などをお話ししたいと思います。



2001年6月現在、全世界のロータリアン総数は約120万人、女性会員は103,000人、クラブ数は30,149クラブ、地区数は530地区、加盟国数は163ヵ国、ゾーン数は40ゾーンです。ロータリーの組織は国連より広い範囲になります。インターアクトは7,789クラブで会員は179,130人です。またローターアクトは7,008クラブで、会員数161,184人です。ロータリー地域社会共同隊（RCC）は4,201会員がいます。青少年交換プログラムは1929年に始まり、今では世界で年間7,000名の交換留学生が参加するまでとなりました。ロータリーの組織は非政府、非営利組織で全く独自で世界の人々に直接、奉仕の手をさしのべています。しかし、会員が減少すれば、我々が促進している地球規模の奉仕活動にも支障をきたします。既にお話し申し上げました通り、この問題を克服する方法は、ロータリー・グローバル・クエストに参加することです。あなたが一人増強するだけで、あなたのクラブが、あなたの地区が優勝するのです。

RI理事会は組織強化を図る為に、色々と努力しています。6月にエバンストンで開催された理事会では、ロータリーの組織強化のために幾つかの決議案を採択しました。第一は、我々は、女性会員の入会を推奨します。私は長年、女性会員を支援してきましたが、台湾に女性だけのロータリークラブを結成させました。ロータリーに入会する可能性のある世界の半分の人々を除いて、如何にしてロータリーの増強が出来るでしょうか。私たちは特別な人を探しているのではありません。思いやりのある親切な人々を探しているのです。第二は、今年の4月にシカゴで開催

された規定審議会での最も重要な決議は、クラブテリトリーの規定についての改定です。例えば我々は、インターネット上で、電腦(cyber)ロータリークラブを結成し、新しいプロジェクトを支援することが出来るのです。ロータリー100周年は、駆け足で近づいて来ています。以前にも増して更なるロータリーの組織強化のために、またこれから100年後のために、あらゆる機会をとらえ、ロータリーの未来を築くために、ロータリーへの認識と理解を推進していく事が大切です。我々事業家は既に電子通信の威力を認めています、電子通信はロータリーにも徐々に浸透しつつあります。私も昨年からウェブサイトで、皆さまのクラブや地区を楽しみにしています。ですから皆さまもそのまま持続して最新情報を更新してください。以上2点が、私からのロータリー組織強化への提案です。皆さまも色々の良いアイディアを持っていらっしゃると思います。ロータリアンの皆さん、一緒にロータリーの未来を築こうではありませんか。あなたなら出来るはずです。

会員増強のもう一つの方法は、若い人を参加させることです。多くの皆さまが、ローターアクトやインターアクトとの面識があると思います。ロータリーは国際問題研究の為に、ロータリーセンターを設立しました。第一期国際平和奨学生を海外に実際に派遣することになり、2年間の修士課程プログラムに該当する70名の優秀な学生が選考されました。しかしこのプログラムは、学生の留学先の地区に支援をお願いすることになります。日本は今までも常に奨学生を受け入れてきましたが、この国際研究平和奨学生プログラムも同



様に、ご支援をお願い致します。このプログラムに参加する若い奨学生たちは、大切な未来のロータリアンです。

では、ロータリー財団についてお話し致します。ポリオ終結宣言は2005年です。我々は継続してこのプログラムを推進しなければなりません。ポリオ撲滅は終結していないのですから、途中で挫折することは出来ません。人類が私たちの仕事です。このビジネスに限り、倒産はあり得ません。

ロータリー・マルチプル人道プロジェクトは、発展途上国で推進されています。飲料水、健康管理、食料、必要とされている職業訓練などです。3Hプログラムに昨年550万米ドル、同額補助金プログラムに1,990万米ドルが追加支援されました。

ロータリー財団国際親善奨学生プログラムは、国際奨学金制度の中でも世界一大きな規模となりました。まだご存知無いかも知れませんが、ロータリーは大学教授並びに教師を発展途上国へ派遣するプログラムをスタートさせました。結局、世界平和について語るのは易しいのですが、そこに住んでいる人々の暮らしを理解せず、人々が世界平和の為に何を希望しているかを知ることは出来ません。皆様ご存知と思いますが、ここで私は、ノーベル平和賞受賞者のアルベルト・シュバイツァー博士の言葉を引用したいと思います。「全ての生き物に対する深い愛と優しい心が、本当にその人の人間性を高め、全人類への思いやりと寛容な心が、世界の平和をもたらす」どうぞ、日本の皆様も留学生の受入支

援を継続していただき、それと同時に海外へ学生を派遣して下さい。この事業を通して、思いやりと寛容の精神を育むことが出来ると思います。

ロータリーの未来を築くために、次の2点に関連させることです。(1)ロータリー組織の強化を方策を講じ、(2)世界に貢献する能力を強化すること。サッポロビールのビンについている漢字は中国語で、“生命”を意味します。私が理解したところでは、中国語と日本語は非常に似ていると思います。私はロータリー歴が25年以上で、世界各地を歩きましたが、サッポロビールのある北海道は私が訪れた中でも一番美しい所です。そしてサッポロビールの星のマークは船乗り達への指南役を果たす北極星を表していると感じました。サッポロビールは、生命とリーダーシップをメッセージとして送りたいのだと思います。果たして、ビールが我々に生命とリーダーシップを与えてくれるのかどうか、議論の余地がありますが、まさしくロータリーがいま必要としているのもこの2つ“生命”と“リーダーシップ”なのです。ロータリアンの皆様はロータリーに対してだけでなく、我々の奉仕を求めている人々に対してもそうでありたいと願っております。新しい奉仕活動に対する寄付、新しいプロジェクトに対するロータリー財団の支援、国際研究奨学生に対する受入支援などです。生命とリーダーシップの提供は、我々が毎日ビールを飲むのとは訳が違います。しかし、ロータリアンの皆さんなら、たとえ困難な挑戦であっても必ず乗り越える事でしょう。今日、サッポロビールは日本で最も古いビールです。ロータリーを成功に導



く鍵は、一つは世界に貢献する事と、もう一つは、ロータリー組織の内部を強化する事です。

共に奉仕する同僚の皆さん、本年度の6月23日から26日まで、スペインのバルセロナで、世界大会が開催されます。この世界大会はバルセロナオリンピック以来、スペインで一番大きなイベントになるでしょう。ロータリアンの皆さま、配偶者の皆さま、リチャードD.キングRI会長並びにロータリーのファーストレディ、シェリー様に代わりまして、大勢の皆さまが世界大会に参加して頂けますよう、私からお願い申し上げます。また日本は2004年に大阪で世界大会が開催される予定です。スペインを訪問されたことのない方の為に申し上げますが、スペインはほんとうに美しい所です。

では最後になりましたが、ロータリーの年

次大会を開催するにあたり、このように心温まる歓迎と皆さまの寛容な心に深く感謝申し上げます。

引き続きロータリーの四大奉仕の実践にご尽力されます様お願い申し上げます。ロータリーが推進している地域社会への奉仕、国際社会への貢献、人類への貢献は、世界が認めるところでありましょう。ひとり一人がロータリーを通して社会に貢献する、それが私たちの仕事です。人類が私たちの仕事なのですから。

本当に最後になりました、皆さまありがとうございました。RIテーマ「人類が私たちの仕事」のもとに、本年度のロータリー奉仕活動の達成と、貴地区の地区大会が成功されます事をご祈念申し上げます。

ご静聴有難うございました。



地区現況報告

ガバナー
岩 城 秀 晴



皆さん、ちょうど食事が終わり、窮屈な椅子に座られ、遠くは3時間4時間ドライバーをされて、おいでになって下さいましたこと、なお、又これから、窮屈だと思いますが、どうかひとつ、ゆったりとした気持ちでお聞き頂きたいと思っております。只今、Gary C.K. Huang会長代理が、非常に友愛のユーモアあふれる思いで、私たちに問いかけて下さいました。そういうことを考えますと、私どもの友愛というものは、今ここでお互いに隣り合わせの方がこの大会を通じてますます深まっていくのではないかなあと、こう思っております。今日は現況報告でござい

ますけれども、その中でいろいろと逐一、私のコメントを入れながら、ご説明することを、お許し頂きたいと存じます。それでは、はじめにクラブ数と会員数でございまして、クラブ数でございまして、昨年度末では、70クラブございまして、新たに、札幌大通公園ロータリークラブが誕生し現在は71クラブでございまして、また、拡大につきましても、そろそろ皆様方にご協力頂かなければと思っておりますが、現況ではそのようになっております。次に、会員数ですが、リチャードD.キングRI会長が、皆さんの友人を一人でも会員にお誘い頂いて、ロータリークラブの奉仕活動がさらに円滑にして頂くようにと、言われております。お陰さまで、会員増強につきまし



でも、皆様方のご協力によりまして、だんだんと意気が盛り上がり、期首の人数が3,601名でございましたが、九月末現在では、73名増えております。従いまして、3,674名という数でございます。また、会員数が増えるような機運がございますけれども、私が申し上げております、一人一人の方が、友人をお誘いになって頂き、毎月一人の会員を増加して頂き、最後には、アバウトでございますけれども、250名程度に増やして頂ければなということで、お願いをしてまいりました。その努力につきましては、大変皆様のご協力を頂いているところでございます。現在会員数の多いところは、135名のクラブでして、一番少ないクラブは、誠に恐縮ではございますけれども、9名となっております。平均いたしますと、52名でございます。以上、クラブ数と会員状況につきまして、ご報告させて頂きました。

二つ目は、国際奉仕活動について、申し上げますさせて頂きたいと思えます。タイ東北部のもっとも貧しい恵まれない子供たちへ栄養のある昼食、文房具、生活必需品等の援助を、タイのノンカイロータリークラブと共同で行っております。昨年度は特に洞爺湖ロータリークラブ主導で、救急車を、恵庭ロータリークラブ、北広島ロータリークラブ、由仁ロータリークラブ共同で消防車をノンカイ市に寄贈いたしました。また、札幌北ロータリークラブを中心として、スリランカに医療用ベッドを送り、援助をいたしております。これにつきましては、今年度においても、計画中でございます。

次に、青少年交換事業についてでございます。先ほども、青少年交換学生がここに参加いたしておりますけれども、受け入れ学生は11名、派遣学生は11名となっております。国

別で申し上げますと、オーストラリア5名、アメリカ3名、カナダ1名、フィンランド1名、メキシコ1名が受入国でございます。派遣国は、オーストラリア6名、アメリカ3名、カナダ1名、フィンランド1名となっている状況でございます。以上が交換留学生の事業についてでございます。それから、各種奨学生について、ご報告させていただきます。まず、ロータリー財団学生でございますが受け入れ奨学生が2名、派遣学生が7名でございます。国別で申し上げますと、オーストラリア、ロシア、フランス、イギリス、アイルランド、カナダでございます。続きまして、ロータリー米山記念奨学生について、申し上げます。継続は6名、新規で19名の合計25名でございます。これにつきましては、非常に希望者が多く、昨年度は108名の希望者の中から、19名の学生に絞る非常にきびしい現状でございました。米山記念奨学会につきましては、優秀な学生さんを一義的に受け入れようと考えており、従来は、貧困の方も受け入れたわけでございますが、一人でも多く、優秀な学生を受け入れたいという米山記念奨学会の理念にのっとり、そのような形になっております。国別に申し上げますと、韓国8名、中国6名、台湾3名、イラン、カナダ、マレーシア、インド、アメリカ、インドネシア、アフガニスタン、ロシア連邦の国々が1名となっております。次に、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブの現況を申し上げます。インターアクトクラブは、10クラブございまして、会員数が166名でございます。室蘭大谷高校インターアクトクラブは、もう三十年を経ておりまして、まもなく、記念大会を開催されるようでございます。札幌商業高校、函館ラ・サール高校、希望学園札幌第一高校、駒沢大学附属岩見沢高校、北海高校、



登別大谷高校、札幌龍谷学園高校、北海道静内高校、函館大谷高校、今年度中には札幌山の手高校にインターアクトクラブが誕生する予定となっております。インターアクトクラブの行事として海外研修旅行が、今年の8月1日～5日までの5日間、インターアクト28名、顧問教師9名、ロータリアン2名、合計39名がソウル市等を訪問し、友好を深めてきております。次に、ローターアクトクラブの、ご報告をさせていただきますが、14クラブあります。会員数は142名で、クラブ名は、岩見沢、北海道拓殖短大、函館大学、室蘭、室蘭北、留萌、伊達、札幌大学、函館、赤平、岩内、函館北部、札幌北、千歳です。各地でそれぞれの活躍、活動を行っておりますが、なおいっそうのご活躍をご祈念させて頂くわけでございます。

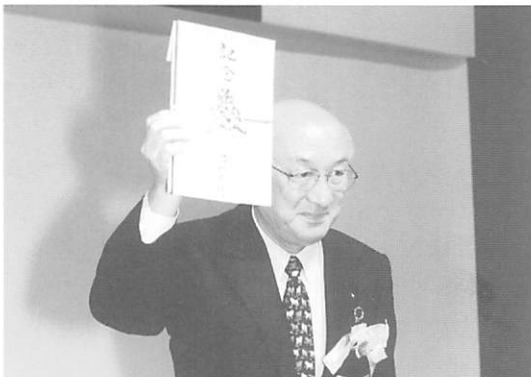
次に各種寄付金状況について、ご報告させ

て頂きます。ひとつは、ロータリー財団の寄付ですが、2001年9月末現在における寄付額を順次申し上げます。年次寄付は、320,000ドルを目標といたしましたが現在、29,270ドルでございます。恒久基金は、寄付額が1,000ドル、現在このような状態でございます。これからのロータリー財団に、来月が財団月間ですので、その際またご協力を頂戴したいと、かように考えているところでございます。2つめは財団法人、ロータリー米山記念奨学会に対する寄付でございます。2001年、9月末日現在、普通寄付金が5,054,700円、特別寄付は、3,932,000円、合計、8,986,700円となっております。累計額は、6億35,114,453円となっております。以上、現況報告をさせて頂きましたけれども、なおいっそうの、皆様方のご理解とご協力を頂きまして、ご支援賜りますことをお願い申し上げます。

記念品贈呈

直前ガバナーには色々とお世話頂き、誠にありがとうございます。些少ではございます

けれども、記念品を贈呈させていただきます。ありがとうございました。





2002～2003年度 ガバナーエレクトあいさつ



ガバナーエレクト
小林 博

ガバナーエレクトを仰せつかりました小林でございます。はからずも本年のはじめ、ガバナー指名委員会よりガバナーのご指名を頂きました。私の所属いたします札幌北ロータリークラブはご存知の方も多いと思いますが、会員数がおよそ半減するという苦境のどん底にありましたので、私も受けるべきか否か色々考えました。ですが、有志の方々の心温まるご支援を頂きまして、私は指名を受けることにいたしました。

ご存知の通りいまロータリーはかつての華やかな成長期をすぎまして、いわば価値観の混乱の中にあるような気がいたします。ロータリーがこのままでいいんだろうかと思っている人が少なくないように思います。なんとなく、皆がどうしたらいいか、これからのロータリーはどうなるんだろうかと悩んでいるというふうにお見受けいたします。

そこで、我々はこれから何をしなければい

けないんでしょうか。ということ、考える前に、我々が、今、なぜこのロータリーにいるかということの意味をはっきり自覚することからはじめなければ、私どもはこうやってロータリーにいること自体に意味がなくなってしまうんじゃないでしょうか。

私どもは、新たな世紀を迎えまして、また激しい時代の動きの中にありまして、その動きに後れることなく、むしろその流れを先取りするくらいの情熱をもって、理想とする友愛と奉仕のロータリーを真剣につくっていかねばいけない、そういう時であると思います。

皆様のお力を頂きながら、全国に誇れるロータリーを作っていきたい。いかがでしょうか皆様方、私も一生懸命頑張っていきたいと思いますが、地区の皆様、どうかご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



■経歴

生年月日・出身地

1927年（昭和2年）5月17日・札幌市

所属クラブ

札幌北ロータリークラブ

勤務先・役職

財団法人札幌がんセミナー理事長

学歴・その他

1945年3月 北海道立札幌第二中学（現札幌西高等学校）卒業

1952年3月 北海道大学医学部卒業

1966年2月 北海道大学医学部癌研究施設教授（～1991年3月）

1991年4月 北海道大学名誉教授
財団法人札幌がんセミナー理事長

■公職歴

1962年6月～ 日本病理学会評議員、理事（1978年4月～1991年3月）、名誉会員（1991年4月～）

1966年1月～ 日本癌学会評議員、理事（1983年1月～1997年3月）、会長（1990年）、名誉会員（1999年～）

1985年2月～ 財総合健康推進財団理事

1986年4月～ 国際対がん連合UICC国内委員

1988年11月～ 中国医科大学顧問教授

1991年4月～ 北海道医師会道民健康教育センター長（～1993年3月）

1992年4月～ 北海道医療大学教授（～1999年3月）、客員教授（1991年4月～1992年3月、1999年4月～）

2000年4月～ 放送大学学園客員教授

■著書

- ・がんの予防・新版（岩波新書、1999年）
- ・がんに挑む がんに学ぶ（岩波書店、2000年）
- ・がんの健康科学（共編著 放送大学教育振興会、2001年）

■ロータリー歴

1972年3月 札幌北ロータリークラブ入会

1986～87年 GSE委員会委員長

1986～89年 GSE委員会委員

1992～93年 財団学友委員

1994～95年 札幌北ロータリークラブ会長

1996～97年 GSEチームリーダー

1999～00年 } 米山記念奨学金選考委員
2000～01年 }

2000～01年 国際奉仕委員長

2001～02年 ガバナーエレクト

米山功労者



講師紹介



金井 英 昭

RI会長であります、キングさんのテーマは、人類が私達の仕事という事でありすし、私達の地区では、岩城ガバナーのもとに、もっと地域社会に貢献をしていこうじゃないかということで、本大会でも、「めざせ、コミュニティのサービスを」というテーマで、ロータリーの活動や、さらに企業を通じまして、もっともっと、社会貢献をしていこうという事を強く訴えて、今大会も運営されております。本記念講演につきましては、すでにご案内の通り、松田様には企業人として、社会貢献を特に先駆的なお立場でご努力されて、大変な成果を得ております。先日、お会いしたときも、京都の議定書の環境基準をはるかに超えて、JR東日本はやっておるよというお話を伺いまして、大変感銘を受けたわけでございますけれども、そういったお話を含めて、今日は素晴らしいお話を伺えるんじゃないかと思ひまして、私自身も大変期待している所でございます。ここで、簡単でありますけれども、松田会長様のご経歴をご紹介申し上げたいと思います。松田様は、昭和36年に北海道大学大学院法学部の研究科を終了いたしまして、同年すぐ、日本国有鉄道いわゆる国鉄にご入社されました。昭和61年の2月に国鉄の再建実施推進本部の事務局長として、ご活躍されまして、当時、国鉄の民営化のために、大変なご努力をされたこと

につきましては、皆さんもすでにご承知のことと存じます。昭和62年の4月に、その民営化されました、東日本旅客鉄道株式会社の常務取締役総合企画本部長となり、その後、平成5年に、同社の代表取締役社長にご就任されまして、昨年、平成12年6月に、取締役会長になられるまで、社長として、精力的なご活躍をされ、経済界や鉄道のご発展につくされてきた方でございます。公職も数多くございまして、主なものを申し上げますと、国鉄鉄道連合会の副会長、また、世界鉄道協議会の議長に就任されて、それぞれ、国際的にご活躍されておりますし、国内的には、社団法人経済団体連合会の常務理事など、経済団体の要職を多数歴任されている方でございます。さらに、近々、社団法人になりますけれども、日本ツーリズム産業団体連合会の理事をされておりますし、日本の観光を考える百人委員会の委員で、私どもの北海道にも大変なじみのある、北海道の観光を考える百人委員会の会長として、北海道の観光の発展にも大変、ご尽力をいただいております。また、北海道クラブ、これは社団法人でありますけれども、会長にもなっております、北海道頑張れという、そういう主旨の北海道クラブの会長で、頑張っている方でもあります。もうすでにご存知でありますように、松田様は、北海道のご出身でありますので、現在大変に厳しい北海道の景気、それに頑張れという元気さをおそらくエールという形でお話の中にあると思いますので、私も、大変期待しておりますし、皆さんの期待に応える素晴らしいお話があると思いますので、ぜひご期待頂きたいと思います。それでは、松田会長、よろしくお願い申し上げます。

●記念講演概要

企業の社会貢献と頑張れ！北海道



講 師
松 田 昌 士 氏

北海道に来て何回か、皆さんにお話を申し上げたことと思いますが、これからいろいろな話をさせていただく前に、今日は少し私どもの会社の話から入らせていただこうと思っております。今、日本中、テロの影響もあり景気が悪くなってきており、大変深刻な事態になっているということは、皆さんもご承知のことだと思います。そのなかにあって、現在の日本は、特殊法人改革とか、北海道にも言えることですが、市町村の合併を進め行政コストを削減するとか、様々な課題を抱えております。私どもJR各社の前身である日本国有鉄道は、15年前に経営破綻したわけですが、15年前というのは、非常に景気の

よいときでありまして、このようななかで、経営破綻するというのは、ある意味では恵まれていた部分もあったと思います。国鉄改革を当時に行わないで今日まできていたら、一体鉄道は再生できたのだろうかと思っています。国鉄改革から15年経ち、おかげさまで、JR北海道ともども、経営状況は順調だと言えます。世の中で多くの会社の経営が傾いているなかで、堅調な実績を出し、健全経営を続けております。確かに日本経済は不況で、当社でも売上高が減ったりしていますが、人の動きはあまり落ちてはいないと思います。つまり、ビジネスのお客様の新幹線利用も含め、鉄道収入も大きく落ち込んでいるわけで



はないので、不況といっても、まだまだ手の打ちようはあるなど、私は比較的楽観視しているわけであります。

鉄道の話の前に、国鉄の長期債務の処理スキームについて、少し触れさせていただきたいと思います。今札幌の駅前もJR北海道が大きなビルを建設中です。完成すると、大きな経済効果を生むのではないかと期待しているのですが、東京も同様に、様変わりをしておりまして、昔の汐留の地区にどんどん高層ビルが建っています。品川や新宿も発展をしつつあります。これは、昔の国鉄の持っていた駅前の一等地を今使っているわけであります。この土地は何かというと、国鉄の借金を国鉄清算事業団が引き継ぐ代わりに国鉄が手放した土地であります。国鉄からJRに移行するときに、国鉄自体の借金25兆円のほかに本四架橋や青函トンネルの債務もあり全体で37兆と言う巨額の債務を処理しなければならなかったのです。そのときに、JR本州3社を中心にだいたい14.5兆円の債務を承継することになりました。これは、あまり世の中に知られてなくて、JRがよくなったのは、借金を皆国民に押し付けたからだと言う人が評論家でもいるのですが、それは間違っています。37兆のうちの14.5兆はJRが負担し、そのうちの半分弱はわが社が負担しています。ですから、決して楽な状態で会社がスタートしたわけではありません。私どもの会社が発足したとき、借金が6.6兆円、収入が約1兆5千億円、しかもその借金の平均金利は7分1厘3毛という非常に高金利でありました。この長期債務はすでにかなり削減しておりますが、今でも約4兆5千億円あります。収入が約2兆円弱ですから、減ってきたとは言え、まだ倍以上はあります。この債務の平均金利は、社債を発行した、低金利のものに

借り換えをしているのですが、それでもまだ、現時点で4分2厘1毛と、今のゼロ金利時代のなかでは比較的金利は高いと言えます。一方で、余剰人員を抱えながら、一千億円程度の経常利益を維持しておりますし、運賃も15年間、消費税を別にすれば一銭も上げていません。国から補助金ももらっていません。このように健全経営を続けております。JR北海道も地域的に苦しいながらも頑張っています。北海道では、お客様が札幌周辺に極端に集中しています。私が北海道を出て、国鉄に入社したのは昭和36年ですが、当時札幌市の人口は50万人程度だったと記憶しております。私の家も北大病院正門前にあったのですが、学生時代には、夜になると、2階の私の部屋で時計台の鐘がよく聞こえたという時代であります。そのときの北海道の総人口が約500万人でした。今は約570万で、数十年経って約70万しか増えてないわけですが、札幌市が約180万人、周辺の小樽や千歳などを合わせますと、札幌圏で、だいたい300万人弱の人口があります。札幌圏以外の人口がいかに減っているか、これでわかると思います。こういった状況のなかで、JR北海道は黒字経営を続けています。大変立派な経営をしているわけでございます。どうか一つ、皆さま方も、これから冬になって、高速道路の運転は事故の危険もありますから、是非JR北海道を使っていただきたいと思うわけがあります。それはともかく、JR各社それぞれ苦しい状況を乗り越えながら、この15年間健全経営を続けてきているわけです。私どもの会社の株価が今だいたい70万円前後であります。どういうものか、日経平均株価がどんどん落ちており、1万800円くらいですが、わが社の株価は比較的堅調であります。この12月にはJR会社法改正法が施行されます。ま



た、わが社の株式400万株のうち、350万株は市場に放出されているのですが、50万株だけ政府が保有しています。このJR会社法改正法の施行と株式の完全売却が実現すれば、私どもは皆様方と同じように、完全な民間会社になるわけであります。我々はそれを非常に望んでいるわけであります。政治というものは、一円でも出したら、10倍くらい口を出すものだと考えておりますから、できるだけ早く国の出資をなくし、JR会社法による規制もはずして、完全民営化していただきたいと私どもは望んでいます。

先ほどの国鉄の借金37兆のうち、14.5兆をJRが承継したと説明しましたが、残りの23兆をどのように処理したかと言いますと、当時の国鉄の貨物ヤードや駅前の土地など、鉄道事業を継続するのに最小限必要な資産以外については、全部国が承継することになりました。東京駅前の旧国鉄本社も国が承継し、売却されてしまいました。この土地売却収入で、国が承継した23兆円の借金を返すことになっていたのです。そのときに土地を売っていたら、後の国民負担分となる国鉄の借金は非常に少なかったと思います。ところが、当時はバブル絶頂期でして、地価高騰を加熱してはいけないという政策判断から、政府が国鉄の土地売却を凍結してしまったのです。その後、バブルが崩壊し、地価も下落して、売却しても高くは売れなくなってしまいました。そもそも、国の負担した借金23兆円は、土地やJRの株式を売却して返済し、それでも足りない13.8兆円を税金で処理するというスキームをつくったのですが、土地売却を先延ばしにしたり、JR株をなかなか全て売却しないものですから、結局減らすどころか逆に増えてしまったのです。また、先ほどから私が株を全部売却して欲しいと言っていまし

たが、株式の売却収入はJR各社には一銭も入りません。全て国の収入になります。しかも株式の簿価は5万円ですから、収入はまるまる国のお金になるわけです。少々株価が低くても売ればよいのにと私などは思うのですが、なかなか売らないのです。そこには、我々も含めて、長い間日本経済が右肩上がりだったものですから、先延ばしにしても大丈夫という意識が残っているからなのだと思います。当時の関係者に、なんで国鉄の土地を売らなかったのかと尋ねたら、「もっと高くなると思った」と言うのです。もっと高くなってそこで売ればいいと思ったと。しかし、それは明らかにミスです。

もう一つ判断ミスや風潮というものが怖いと感じたのは、ITバブルです。アメリカでITが急速に発展して、ITベンチャーの株式が、実体はそれほどでもないのに、ものすごい高値をつけました。それで、アメリカの学者も「ニューエコノミー」と称して、アメリカは景気循環の枠のなかに嵌まらない時代がきたと、これからはずっと右肩上がり成長すると主張していました。私は、景気予測というのはそれほど当たらないという持論を持っていますが、このITバブルについても同じ考えです。インターネットをはじめとするIT革命によって、世界があっという間に狭くなりました。今まで一国のなかでクローズされていた経済が、まさに好むと好まざるとに拘わらず、グローバル経済のなかの一プレイヤーという形になりました。これ自体は非常に有効なものであって、今までの古いシステムを壊して新しいものを作り出して行くという意味では、非常に有効な方法であり、手段なのだと思います。但し、日本の経済学者や政府・国会の多くの方のように、これを景気浮揚の手段として過度な期待をするというのは、間



違いなのではないかと思うのです。IT化が一番有効なのは、流通コストの削減です。例えば代理店や問屋の多くは、中抜きによりこれから非常に厳しくなるでしょう。インターネットで直送体制が構築されていきますから、世界中の流通の過程で中抜きされた部分は失業者が増えていくと予想されます。職業転換教育をして、その労働力を他で吸収しなければならないでしょう。しかし、IT化によってコストダウンを行うことは、国際競争力という面で長期的には効果があるのですが、一時的には景気を悪くする方向に働きます。にも拘わらず、短期的にも景気浮揚に効果があると考えたところに間違いがあるのです。まだ効果が出てこないというのは当たり前のことなのです。アメリカでも、高名なサミュエルソンという学者が、ニューズウィーク誌で、ニューエコノミーという考え方に、きわめて強い疑問を持っているということを常に書いていました。今のアメリカの好景気は、

大きな景気循環の一つであると。IT化によって世界が一つになってくると、好景気ときの山は高くなり、不景気ときの谷は深くなる。その大きな景気循環に過ぎないということを、この学者は、ずっと何年間か書き続けていました。今になると、彼の主張は正しかったように思うようになってきているのです。

日本経済ということで、若干話は変わりますが、日本の公共工事がおかしくなっていると感じております。だいたい、国土開発計画についても、不必要な公共事業をやり過ぎて、その結果、日本の財政は現在大変なことになっています。この国土開発計画では、「国土軸」などと言う言葉を使っていますが、沖縄の果てから稚内の果てまで、国土軸をつくると言って金をまき散らして、至るところで無駄な道路をつくっています。こういった公共工事は止めてしまえと思うのですが、建設業界の方のなかには、多くの労働者を抱える





建設会社が潰れたら失業者が激増するという意見もあります。日本の建設業に従事する人の数は600万人を超えていますが、これだけ多くの人が働いているということが異常なのです。日本の国土はアメリカの約25分の1です。にも拘わらず、ここ最近年間のセメント使用量が、アメリカとそれほど変わらないのです。「日本は万里の長城でもつくっているのか」とアメリカ人の友人に言われるほど、財政赤字を気にせず多くの公共事業を起こしているのですが、それが長続きすると思っています。ですから、いくら自分たちが飯を食うためと言って、後輩につけをまわし、子孫に借金を残してまで工事をするというわけにいかないだろうと建設業界の方には言っているわけがあります。

また、現在の日本経済で最も深刻なのは製造業だと思います。北海道でも、工業地帯をつくろうと工業団地を建設して工場誘致などしましたが、あまりうまく行っているとは思えません。特に日本の製造業において深刻なのは、空洞化の問題です。人件費の安い台湾、中国、アジア各国、あるいは最近では、衣類などは、ウクライナとか東欧でつくられるようになってきています。日本には、企業として名前は残っていますが、工場などは移転してなくなっています。中国と日本の人件費を比較したら、他の部分をコストダウンしても、普通のものはかなわないでしょう。そうすると、日本は技術力を高め今まで以上に付加価値の高い製品をつくらなければならないのです。しかし一方で、現在日本では基礎技術が失われてきていると思います。大学の教育をはじめ、基本から直さなければならないでしょう。学生もパソコンなどを使用してコンピューターグラフィックできれいな仕事を

するけれども、油にまみれて、汗だくになって何かをつくるということを教えられていないのです。わが社の話になりますが、私どもはあまり知られていませんが、日本で有数の発電会社です。私どもの電車の運転用電力のうち約6割は自営電力で賄っています。東京では約8割です。発電の半分は信濃川の水力発電で、半分は川崎で火力発電を行っています。この川崎の火力発電所の発電機4機のうち一機を発電力の大きな最新式のものに取り替えしました。二百数十億もかかったのですが、稼動しはじめて一年間くらいは故障が多くて困りました。その発電機を製造したメーカーの社長が新年の挨拶にお見えになったので、いや、新年の挨拶はどうでもいいけれども、あなたどうしてくれるのだと皮肉も交えてその話をしたところ、さすがに顔色を変えてメーカーも調べに入りました。そうしたら原因は、ハイテクな部分ではないのです。一番ローテクの、今までの日本では絶対にしっかりしていたという基本的な部分が原因でした。例えば溶接であるとか、そういった部分がいい加減になっていたのです。このように、現在の日本は、昔は絶対大丈夫だった基礎技術の部分が空洞化してきているのです。だから、これはいろいろな政策を打たなければならないと思います。税金を投入して銀行の経営を支えるといったことも大事だとは思いますが、現在の日本経済の状況はそんな単純なことでは回復しないでしょう。昔ながらの経済・社会のシステムが、現在の日本に合わなくなってきているのです。小泉内閣の進めている構造改革を実行しなければ、今日は飯が食えても、明日から途端に食えなくなることになると思います。

そういった改革を進めて行く上で、やはり基本となるものは、規制緩和と情報開示だと思



います。日本の企業の多くは、情報開示の程度が非常に低いと自信をもって言えます。銀行の不良債権の額も我々にはよくわからないではないですか。情報を開示して、フェアな競争市場をつくることによって、はじめて自由競争というのは成り立つのです。自慢を一つだけさせていただきますと、平成10年に、ファイナンシャルタイムズというイギリス系の経済誌で、世界53カ国、3500人の企業経営者にアンケート調査し、「世界で最も尊敬される40社」を選んだのですが、トヨタ、ソニーに続きホンダと並んで27番目にわが社がランキングされていたのです。私は当時社長でしたが、非常に驚きました。国鉄から承継した巨額の債務を抱えており、余剰人員も多かったからです。わが社が発足したとき、三井造船の社長・会長をやった山下勇さんが会長に就任しましたが、私を含めわが社の社員のほとんどが、元国鉄職員、つまりはお役人でした。しかも、前身の鉄道省の時代を含めると80年くらいの歴史のある官庁なのです。それが、国鉄改革で会社が変わったのですが、一番最初に何をしたかという、とりあえず、国鉄時代と逆のことをやれと現場に命じたのです。また、最初に社員に猛勉強させたのは、税務です。国鉄は、一種の国家機関でありましたから、法人税を払ったことはありませんでした。例えば、工事を行う場合に、これは資本勘定なのか損益勘定なのかは意識していても、税務上損金となるかどうかまでは頭が回りませんでした。そこで、この税に対する感覚を植えつけるために、国税庁から出向をいただいたり、社員を専門の学校に通わせたりしました。こういった、経営の「いろは」の「い」からはじめた企業が、まだ十年ほどしか経っていないのに、世界に尊敬されるというのは何故だろうと不思議に思って、IR活

動でイギリスに行ったときに、ある投資家に聞いてみたのです。すると、「あなたの会社に借金が多いとかいろいろ問題があることを、我々投資家は熟知している。熟知するだけの十分な情報をいただいている。その情報開示の度合いが、世界のトップ企業のどこと比べても全く遜色ないという点で、あなたの会社は非常にフェアだと皆さんが評価しているのだ」と言われました。つまり、自由主義経済社会のなかで、堂々と胸をはって、商売をするということは、マイナス情報も含めて正確に情報を開示しているかどうかということ、つまりフェアであるということがベースになるのです。アンフェアだと言われたら、それは市場社会から出て行けと言われたことと同じです。日本は、早く同じ土俵に上がらなければなりません。その際に、私は、日本の経営でも構わないと思います。わが社は決して、アメリカ流の経営をやっているわけではありません。しかし、日本的な経営であろうと何であろうと、グローバル・スタンダードがある以上、それをきちっと守った上で言うべきことであって、それを守らないで言うということは、アンフェアになってしまうのです。だから、日本の企業が独特の経営をするのは、それはそれでいいのですが、そうしたことは、情報を世界レベルできちんと開示しているかどうかという観点に立った上で言うべきであって、情報開示もしないでそのようなことを言うのは、ゴルフの世界で自分だけローカル・ルールを認めると世界に向かって言っているのと同じことなのです。こうした情報開示の不足が、経済の判断ミスを起こす最大の原因になっていると私は思っています。例えば今、道路公団の民営化が議論されています。私は、機会あるごとに関係者にも言っているのですが、個々の特殊法人



の経営形態を変えればいいという問題ではないのです。今こそ、この仕事は、国が本来やるべきことなのか、民間に任せるべきなのかということを、きちっと見極めて判断をすることが必要なのです。国がやるべきことは、国に戻せばいいのです。それ以外はみんな民間に任せればいいのです。その手法も民営化にこだわる必要は必ずしもなく、特殊法人を廃止して国がその事業を民間会社に委託したり、思い切ってその分野を開放して民間会社を参入させてもよいと思います。しかも特殊法人改革は国だけの問題ではありません。北海道にも地方版特殊法人とでも言うべき自治体の出資会社がたくさんあるからです。この間堀知事に会って、あなたのところも、300か400くらいあるでしょうと。これを、北海道がやるべきことなのかどうかということをきちっと見極めて、北海道がやるべき仕事以外は、民間会社の参入を促せば、北海道経済の活性化にもつながると言ったのですが、北海道の皆さんにとっても決して他人事ではないのです。しかし、皆、今までの右肩上がりの経済成長を前提にしたシステムは、もはや不具合が生じてきているということをわかっているわけです。私は、もっとスピードを上げて、一年間くらいでやってしまうべきだと、極端な考えを持っているのですが、それでは劇薬だと言うのであれば、少しずつどうやっていくかということを考えていかなければならないと思います。

この話に関連して、私がきわめて重要だと思うことは、小さな政府にすることです。つまり、地方に権限を持たせ、地方分権を確立していく必要があります。地方に徴税権を渡して、地方は自分たちの住民から税金を徴収し、その税金の使い道を自分たちで判断するという体制をつくるべきです。江戸時

代は、各地方に藩があり、ある意味では今より地方自治が確立されていたと思います。明治時代から中央集権体制が整備されはじめ、戦後になっても、中央集権的な制度がいろいろとつくられていったわけです。例えば、租税法があるのに租税特別措置法をつくって、今や租税法の方があまり知られてなくて、特別措置法の方が有名になってしまっているような感じではないですか。そして、業界によって、いろいろな優遇税制が導入されています。私どもの会社も、鉄道事業者として優遇税制を受けています。しかし、金融政策もゼロ金利時代で効果がなくなり、財政政策も手詰まりになってきている現在、そろそろ税制改革を進めなければならないのではないのでしょうか。税制改正をして、各企業の優遇税制を基本的には廃止し、わかりやすい税制をつくるなど抜本的な手を打つときがきているのだと思います。

北海道の問題を考えたとき、今を生きなければならないということではありますが、先の北海道をどうするかということを、やはり皆でしっかり考えなければならないと思うわけです。私は、今から手を打つのであれば、特殊な分野に限って製造業を興すのならともかく、今までの一般製造業を追っかけていくのでは、全く北海道の再生はありえないと主張しています。この間道庁の方にも申し上げたのですが、参考になるのはアイルランドだと思います。アイルランドの人口は約360万人です。北海道より少ないのですが、この360万人で近年はGDPが10%程度伸びています。どうしてかと言うと、数年前にアイルランドは自分たちが生きる道として、バイオや酪農、ITといった分野を3つか4つに絞って、そこに集中的に取り組んだのです。日本でも終戦直後、全ての分野に投資できないか



ら、傾斜生産方式を採用して、鉄鋼とか石炭を最重点産業と位置づけて、集中的に整備していったのです。鉄道は重点産業に入らなかったから悲惨な目にあったのですが、アイルランドでは、3つか4つに焦点を絞って、その分野に集中的に政策を展開しました。ですから、北海道は、どの分野に焦点を絞って展開していくのかということを考えていかなければならないと思っていますのです。

私は、とりあえず、北海道で集中的に興していく産業は、観光だと思っているのです。北海道に限らず、製造業が空洞化している日本では、観光を産業としていかなければ、国としての発展は難しいのではないかと私は考えているのです。アメリカでも、フランスでも、ドイツでも、観光は非常に重要な産業なのです。どこの国も、観光担当の大臣をおき、観光省をおいて国の産業として力を入れています。しかも、観光というのは裾野の広い産業です。今政府は盛んにベンチャーの育成とか言っていますが、ベンチャーなど、観光産業のなかからどんどん興ってくるのです。例えば、皆さんのところに観光客がきて、これがお土産だと自信を持って言えるものはありますか。日本全国どこにいても、温泉饅頭とキーホルダーばかりではないですか。もし北海道らしいお土産というものをつくったら、これは売れるだろうし、それをつくる会社は優良なベンチャー企業になれる。この間青森の木村知事に呼ばれて、県の皆さんといろいろとお話をしたときに、青森のお土産の話題が出たのですが、青森県人が青森のお土産と言ったら水産物だと言うのです。北海道と似てますが、確かに水産物があります。ほっき貝とか、ほや、ほたて、それから黒ぞいを養殖してるとか言うのです。私は、それではお土産にならないと、青森檜がよいと言った

のです。檜の木のくずを袋に包んで風呂に入れたら、薬剤を入れるよりも効果があるのです。薬草というか、薬木になるのです。しかも、引き上げて乾かせば何回でも使えます。檜のお風呂というのは、千年も使うと言われるくらいですから。檜からとったエキスを今小さな会社がつくっていて、それをつけると男ならニキビ、女性なら吹き出物といったものが消えてしまうそうです。お土産として売っているそうですが、そういう新しいものをつくる会社がだんだん大きくなっていくのです。北海道でもあるはず。高くてまずい料理ばかり観光客に食べさせていたらダメです。今日も千歳空港を使ってきたのですが、レストランの値段が非常に高いのです。なぜ、玄関口である空港で、北海道のものは高くてまずいと宣伝するのか、私には理解できません。二条市場に来れば、安いしうまいではないですか。ですから、そういうところ含めて、観光を産業として位置づけて、いろいろと知恵を出すべきなのです。そうすれば北海道の観光はよくなると思います。

そこで、堤義明さんを中心にして、国内観光の活性化を図るという目的で、官民一体となって「観光産業振興フォーラム」という任意団体を結成しました。主に、祝日3連休化の促進を政府にアピールするといった活動をしてきました。3連休化と言っても、祝日を月曜日に動かすことで、ハッピーマンデーとも言います。そうすると、大抵の企業は土日休みだから土日月と3連休になるわけです。そうすると2泊3日でちょっとした遠出の家族旅行ができるようになります。これは、北海道、沖縄、九州といった東京から離れた観光地が一番潤う政策なのです。しかし、反対が多くて、説得するのに大変でした。敬老の日を動かそ



うとしたら老人団体が反対するのです。お孫さんとかが遊びにくようになりますよと説得したのですが、なかなか納得はしてもらえません。しかし、ついに祝日法が改正され、ハッピーマンデーは4日できました。4日で約1兆円の経済効果あると言われています。なんらお金もかけず、法律一本改正しただけでこれだけの効果を生むのです。しかし私は、まだ足りないと思っています。これをまだ倍増したいと考えています。アメリカでは、国の休日10日のうち、6日は連休にしているのです。3連休一つの経済効果がだいたい一千億から千五百億あるって言われていますし、しかもお金は何らかからないわけですから、特に北海道などはもっと3連休を増やそうという運動をやってもいいと思うのです。

また、いろいろな形で、観光客を惹きつけるということをしなければならないと思います。特に、不況だ不況だと言いながら、昨年一年間で千七百八十万人の日本人が海外旅行をしています。しかし、先日ニューヨークで同時テロが発生し、海外旅行客は激減していると思います。あまり適切な言い方ではありませんが、あのような不幸な事件の後、今北海道は観光客が増えています。増えている今のうちに、観光政策をきちんとやらなければダメだと思います。ですから、去年から私どもの会社も含め、シンクタンクや航空会社、旅行会社など協力して、北海道の観光開発に力を入れています。それで気づいたのが、観光に関わるデータベースがないということです。どこに行こうと言っても、どこに何があって、どのくらいの値段でいつ休みなのか、どのくらいの経費がかかるのか、どこの旅館がどのくらいの値段なのかといった観光情報が、あまり整備されていないのです。それで、

今データベース化を進めております。だいたい7割完成しています。少し前に、そのデータベースに基づいてモデルコースを100コース発表しました。最終的には12月ぐらいに、インターネットに全部この情報を載せようと考えています。インターネットに載せれば、友達同士で旅行しようというときに、どのくらいの値段でいくか、日数はどれくらいか、何を主体にどこを回ろうとか、何を楽しもうかなど、全部自分で計画を組むことができます。今、青森県の木村知事に会って、同じようなものの東北版がつくれないう話をしています。先日、東京都知事の石原慎太郎さんと話をしたのですが、東京も同様にデータベースをつくって、それをインターネットに載せて、世界に売り出そうという話になりました。

そういった取組みをしており、基礎的な部分は出来上がりつつあると思います。しかし、もっと基本なこととしては、リピーターをつくるようなサービスを提供しなければならないということです。相当部分北海道は、反省しなければならないと思います。商売のやり方が、一見の客相手に対するやり方と同じなのです。北海道を旅行した私の本州の友達などは、「松田くんの郷里っていうのは、自然は素晴らしいけど、二度と行きたくない」と言ってくるのです。どうしたのかと聞いたら、ある旅館が、混んでいるからと言って、通常と同じ料金で一部屋に何人も詰め込まれたということです。このような扱いでは、リピーターは生まれません。ですから、基本的な部分を直さなければならないのです。

先ほど紹介した「観光産業振興フォーラム」を発展的に解消して、「日本ツーリズム産業団体連合会」という組織をつくろうという動きがあります。今社団法人の申請をしており



ますが、国とは別に完全に民間主導型の組織を、鉄道、航空、ホテル、旅行といった観光に携わる様々な企業が連携して結成し、国内観光の振興を図ろうとしているわけです。もちろん官を仲間はずれにするわけではないのですが、商売というものはやはり民間主導でなければうまくいかないものだと思います。しかし、国にもお願いしなければならないことはありますし、道庁にも要請すべきこともあります。一例を挙げると、ピクトグラムが北海道の案内表示にはありません。空港と駅を除いたらほとんどないと思います。日本人でドイツ行かれる方はまず、一回はロマンティック街道行かれます。ロマンティック街道は、ドイツ語を知らなくても歩けるのです。案内表示に全部ピクトグラムがついています。ピクトグラムというのは、簡単にいえば、ここがトイレですとか、ここは禁煙ですとか、そういったものを示す記号・絵文字です。どの国の人にも通じるピクトグラムが、

街角の至るところに表示されているのです。また、もう一つ観光を振興していく上で重要なことは、環境を壊さないで、維持していくということです。もちろん、これは自然だけのことを言っているわけではありません。観光文化、遺跡もそうですし、このロータリークラブのように、人と触れ合うということや情報交換の場なども観光の一つとして考えることができます。観光を盛り上げていくには、イベントも当然必要となります。北海道には、せっかく大自然が残されているのですから、これをどのように維持し、育てていくかということ、これからは考えて欲しいのです。先ほど、国土開発計画について批判をしましたが、これは全国を同レベルの都会にしようという発想だからです。自然は、一度破壊されると、再生するのに大変時間がかかるものです。いくら技術が発達したからと言って、促成栽培で樹齢50年の木と同じものを1年で育てられるかと言うとできないでしょ

う。ですから、守るべきものはきちんと守っていかねばならないのです。例えば、我が郷里の札幌も、年々汚くなっていくように感じます。そこに住んでいる人たちが、環境を守らないからなのです。スイスでは、家の窓に花が飾ってありますが、これは条例で決めているのです。また、ドイツは、観光するにはよいところだけれど、住むとなると大変だと言われます。非常に規制が厳しいからです。洗濯物の干し方とか、ゴミの投げ捨てとか、市民がお互いに規制しあって、街の美観を守っているのです。それは住民の責任でもあり、義務でもあるのです。そういった規制が自発的につくられる背景には、観光を産業として振興していこうという気持ちがあるからなのです。そういったところから改善していかないと、日本を観光立国にすることは出来ないし、北海道を観光立国にすることはできないのです。

観光以外に北海道が力を入れていくべき産業として、私が考えているのは農業です。とりあえず、私は、伝統的な農業のやり方をもう一回見直した方がいいと思っています。近い将来、世界は大食糧危機に陥ることになると、私は予想しております。今世界の穀倉地帯と言ったら、アメリカのカリフォルニアが挙げられると思いますが、カリフォルニアでは地下水をポンプでくみ上げて農業をしています。オーストラリアもそうなのですが、雪の降らない地域で、水をポンプアップして農業をすると10年から15年ほどしか続きません。塩水が上がってくるようになってしまうからです。ですから、北海道や東北地方のように、雪という素晴らしい恵みを持つ地域は、食料生産能力が高いと言えるのです。これだけの可能性を北海道は秘めているのです。私は、北海道は日本から独立してもやっ

ていけるだけの要素を持っていると思います。必要な素材は全部揃っています。ないのは元気だけなのです。中央集権的な体制に慣れてしまっただけで、口を開けていれば国が税金を入れてくれるという植民地意識になってしまい、いつの間にかクラークさんの独立精神などなくなってしまっているのです。今、私は仲間と一緒にあって、農業会社をつくらうとか言っているのですが、私ももうかなりの年になってきましたから、気力のあるうちにやらなければならないと思っています。具体的に行動しなければ、何も変わりません。

もう一つ、北海道が力を入れて取り組んでいかなければならないと感じているのは、教育です。もう、東京など都会で、人を豊かに育てるというのは、無理なのだと思います。最近、つくづく思っていることは、どうして今の教育は詰め込み型なのだろうということです。私が今の時代に育ったら、おそらく北大も出ていないでしょうし、JR社員にもなっていないでしょうし、会社社長や会長にもなっていないと思います。なぜなら、今の基準でいえば、私は問題児とされるからです。好きなこと以外勉強していませんでしたし、年中植物園に逃げ込んで学校をさぼってましたから。学校をさぼって一生懸命、本を読んでいたのです。やはり自然があって、自由があるというところで、人間は伸び伸び育つのだと思います。登校拒否や学級崩壊といった現象は、都会が人間を抑圧しているから発生するのだと思います。この間石原都知事も、東京の学校の校庭がコンクリートで覆われていることに対し、「人間が泥を素足で踏まないでまともに育つか」と、「コンクリートを剥がそう」とおっしゃっていました。しかも都会の高層マンションに住んでいる子供というのは、下に降りてきて砂遊びなどしないの

でしょう。そんな環境で育ったら、心の豊かな人間には育ちません。ですから北海道のような自然に恵まれたところでは、むしろ学校を産業にしたらいいいと思います。全寮制の学校をつくって、札幌に来てもらって教育をするのです。いずれにしても、自然の豊かなところで人を育てなければいけません。三井の寺島さんは、何か世界一のものを北海道につくらないと、これから発展は望めないとよくおっしゃっています。札幌でなくても、旭川でも、我が郷里の北見でもいいですから、日本中、世界中の生徒を集めて教育をするというようなことができれば、私は、北海道に違った側面が生まれてくるのではないかと思うわけです。先日、ドイツに行ったのですが、ドイツでは高等学校まで全部午前中で授業が終わってしまいます。言ってみれば、読み書き算盤、歴史と地理といった最低限のことしか教えないのです。午後はいろいろなクラブ活動があり、サッカーをするとか、ピアノを習うとか、絵を描くとか、生徒の自由に選ばせるのです。生徒の自主性を尊重してカリキュラムを組んでありますから、ものすごい独創力のある人材が育っていくのです。一方、日本では、特に東京では、だいたい小学校5・6年生になると、お受験と言って、お母さんが目の色を変えています。学校から帰ってくるのが4時半か5時、それからすぐ塾に行くのです。だいたい父親が帰ってきたときでも、まだ子供は家に帰ってきていないのです。こういった生活サイクルを何年間も続けて、どうして健全な子供が育ちますか。そんなことをしていたら、日本人は頭でっかちになって、記憶力はいいかも知れないけれど、社会で役に立たない人間になると私は思います。自分の体験で言うものではありませんが、だいたいさぼっていた奴ほど偉くなっている

と思います。私は自慢ではないですが、小学校からずっと大学を卒業するまで、表彰状をもらったのは、運動会で一等賞をとったことくらいです。勉強がいないということではなく、人間らしく育てる環境が日本に必要なのだと思います。

最後に鉄道の話をし少し聞いていただきます。今、私は、UIC（国際鉄道連合）という世界90カ国、150の鉄道を会員とする組織の副会長をしています。また、その下部組織であるWEC（世界鉄道評議会）の議長もしております。UICのメンバーとよく話題になるのですが、21世紀は鉄道の時代になると、私も含め世界の鉄道関係者は皆そう思っています。理由の一つとしては、エネルギー問題があります。エネルギー効率がよく、環境に与える影響が最も小さい交通機関は鉄道だからです。

また、鉄道の最大のブランドは安全であります。鉄道ほど安全で大量輸送ができる交通機関というものを人類はいまだ生み出していません。しかし、その安全を守るためには、社員教育は欠かせません。システムが高度化すればするほど、それを扱う社員の教育は重要になってきます。アメリカでは、経営状況が厳しくなってくると、すぐにレイオフとかしますが、わが社においては、あくまでも終身雇用制を基本としています。どうもアメリカ流の経営をしないと格付けが下がるというようなことを言う方もいますが、私は、以前アメリカの格付会社ムーディーズを訪問して、安全を維持する上で、人への投資は欠かせないと、終身雇用制を大切にするといいことを説明したことがあります。彼らも「鉄道がそういう業種だと言うことがわかりました」と納得して格付けを維持してくれました。



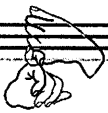
環境問題や安全性といった観点から、世界中で鉄道が見直されてきているのです。ドイツの例を挙げますと、アウトバーンという高速道路網が整備されています。アウトバーンというと速度無制限という印象がお強いと思いますが、実は環境面への配慮により、至るところで100キロとか130キロといった速度規制が設けられています。また、EU統合で物流が増えてきておりまして、トラックによる交通渋滞が問題になっています。そこで、ドイツ政府は、物流をトラックから鉄道にシフトしようと税制を含めた鉄道優遇政策をとっており、鉄道貨物輸送が対前年10%以上増えております。アメリカでも、空港の容量が一杯になってきています。ニューヨーク〜ワシントン間など利用客の多い路線ではシャトル便が出ているのですが、いつも混んでいて希望する便になかなか乗れないばかりか、所要時間も空港までのアクセスを含めて3時間半くらいかかります。それが、新しい高速鉄道が登場して2時間40分で行けるようになりました。そういった具合に、世界的に鉄道を見直す機運が高まっています。

安全という観点で考えた場合、自動車事故というのは無視できないほど多くなってきていると思います。年間115万人の方が自動車事故で死傷しています。そのうちの死者は約1万人です。ベトナム戦争でのアメリカ軍の死傷者が100万人弱ですから、それ以上の被害が出ているのです。にもかかわらず、自動車事故に対して行政が抜本的な対策をとっているとは思えません。例えば、車間距離をとらなかったため発生する事故があります。車間距離が近づき過ぎると警報を発する機械というのがあり、20万から35万円くらいで買えます。わが社のグループ会社の高速バスには全て装備しています。後ろから追突されたら

駄目ですが、多くの衝突事故は回避できます。カーナビは便利かも知れませんが、こういう装置をつければもっと安全になると思います。政策的にそういった装置の装備を進めればよいのですが、行政はそこまでしません。日本経済は道路と自動車でもっているという時代が長かったから、そういった意見は受け入れられませんが、これからそういった考え方は見直さなければならぬと思うのです。

また、世界の鉄道事業者というのは、大変仲がよくて盛んに交流をしています。技術的な面や人材育成の面などで連携を深めています。私は、将来、国際鉄道大学をつくりたいと思っています。アジアを中心に世界の鉄道員を集めて研修をする学校です。わが社では今、アジアを中心に年間数十人程度の方が研修にいられています。こういったものをどんどん拡大していきたいと考えています。

それから、私が議長をしているWECで進めているのですが、アジアからヨーロッパまでの「鉄道シルクロード」建設構想というものがあります。アジアからヨーロッパへ物資を運ぶ場合、現在は船や航空機が使われていますが、船を使うと1ヶ月くらいかかります。中東情勢によってはスエズ運河で足止めされて、さらに日数がかかることもあるそうです。そこで、鉄道を使って、中国からイラン、カザフスタン経由でヨーロッパを結んではどうかという構想が出て、今具体的に話を進めています。それが実現しますと、2週間から3週間でアジアからヨーロッパに物資が運べるようになります。国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) や国際貿易開発会議 (UNCTAD)、各国の運輸大臣、そしてUICも交えて、技術的な問題も含めて議論し、試験輸送をやろうということになっています。



政治的、宗教的な問題を抱える国もありますが、鉄道を通じてお互いに協力しようということで連携して検討しています。通関の問題やセキュリティの問題、条約締結の問題など、解決すべき課題は多いのですが、世界を鉄道で結ぼうという意識で一致協力して進めております。

最後に、時間がきましたから、一言で言いますが、文化を支えているのは、昔は貴族、今は企業なのだと思います。社会の文化の向上は、企業の役割なのだと思います。わが社では、今東京を中心に、駅型保育園を5ヶ所開業しています。基本的に、無認可保育園です。国の厚生省の認可保育園は、原則8時間保育など、ニーズに合わない規制が多いので、高秀横浜市長や東京都の石原都知事に頼んで、特別制度をつくってもらいました。ですから、無認可ではありますが、自治体には認められています。そういった保育園を増やすことは、女性の社会進出を支援するという点で有意義だと思います。他の企業も保育園事業に進出しておりまして、民鉄などもはじめているのですが、企業の役割というのは、本業でしっかり利益を出して、その利益の範囲内で社会貢献をするということだと思います。

ここにお集まりの皆さんで力を合わせれば、いろいろな新しいことができるのです。皆さん方で勇気を出して、若い人を育てて、新しい知恵をどんどん出していただきたいのです。具体論でできることから実施していくことで、着実に世の中は変わります。そう信じて皆で頑張ろうではないですか。

〔講師プロフィール〕

昭和36年3月 北海道大学大学院
法学部研究科修了
昭和36年4月 日本国有鉄道入社
昭和61年2月 同社再建実施推進本部
事務局長
昭和62年4月 東日本旅客鉄道株式会社
常務取締役 総合企画本部長
平成5年6月 同社代表取締役社長
鉄道事業本部長
平成7年6月 同社代表取締役社長
平成12年6月 同社取締役会長（現在）
・公職 UIC（国際鉄道連合会）副会長・WEC
（世界鉄道評議会）議長・社団法人 経済団体
連合会 常務理事・社団法人 経済同友会 幹
事・東京経営者協会 常務理事・日本経営者団
体連盟 常任理事・社団法人 日本観光協会
理事・社団法人 日本ツーリズム産業団体連合
会 理事予定（10/16設立）（現、観光産業振興
フォーラム 幹事 10/16解散）・財団法人 日
本交通公社 評議員・日本の観光を考える百人
委員会 委員・北海道の観光を考える百人委員
会 会長・社団法人 北海道倶楽部 会長・財
団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー
理事長

記念講演謝辞

ガバナー

岩 城 秀 晴



皆さん、長時間に亘り、松田先生のお話しをお聞き頂きまして有難うございました。只今のお話しにありましたが、松田先生は、社会に対する奉仕、職業に対する奉仕について、どう考えたならば良いのかを、細かくその原点を示唆されました。特に「真実かどうか、皆に公平か」を具体的にかつ判り易く、お話しをされておりました。

「四つのテスト」について具体的にお話し下さいましたので、これこそロータリアンではないかと心から感銘を受けて聞いておりました。

更に驚きましたことは先生はロータリアンではないとのことですが、まさに、ロータリアンのあるべき姿ではないかと考えている次第です。お話しの中にも特に北海道に居住する私どもにとりましては、本州から北海道にロマンを求めておいで下さる方々をJRが懸命に努力されている姿が企業人にとっては大事なことであったとおっしゃってます。

矢張り、我々ロータリアンは職業奉仕の原

点に戻って見直して行くことが大切なことだと今、考えさせられた次第です。

鉄道と言う物流の支柱となっておりますポッポ屋さんも国鉄時代からJR時代となった今日、北海道に夢を与えて頂きその実現に向って推進して頂きますことを心から御期待申し上げます。

また、教育論の問題についても特に新世代に向けてのお話しにつきましては私も同感でございました。

このような内容のお話しは、従来は甘い詞で終始するのですが、辛口のそしてこれから日本を背負って行く教育のあり方を御同い致しまして、我々ロータリアンと致しまして意を強くするところで御座います。

出来得れば松田先生には是非ロータリーに御入会をお勧めするところです。そこで皆様方我々ロータリアンはRIの原点である職業奉仕、そして社会奉仕を理念として奉仕活動しようではありませんか。

我々はこの心と心とのつながり、そしてロマンを求めた教育的な発想を松田先生から御示唆頂きましたことを心から厚く御礼を申し上げまして、閉めの言葉とさせていただきます。

長時間に亘り今日は松田先生に感謝の意をこめて本当に有り難うございました。





表彰



【ロータリー財団表彰】

* 2000～2001年度

財団一人あたり寄付額優秀クラブ

- 第1位 深川RC
- 第2位 札幌手稲RC
- 第3位 札幌幌南RC

財団寄付優秀クラブ

- 第1位 札幌東RC
- 第2位 札幌幌南RC
- 第3位 札幌RC

【(財)ロータリー米山記念奨学会表彰】

達成クラブ表彰

- 札幌真駒内RC
- 砂川RC
- 室蘭RC

感謝状

- 札幌あけぼのRC

表彰者名簿

〈マルチプル・ポール・ハリス・フェロー〉

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
深川	後藤田隆雄	札幌	伊藤寿美子
	永井 久之	札幌西北	森本 正夫
羽幌	實藤 吉信		馬杉 榮一
留萌	富山 惟夫	札幌手稲	深宮 正吉
	田中 公一	札幌幌南	遠藤 正之
岩見沢	佐藤 紀征	函館	森 祐平
	菊谷 悟		額賀 康之
	橋本 新治		太刀川善一
岩見沢東	野村 頼房		若山 直
札幌	伊藤 義郎	函館東	鍋谷 操子

〈ポール・ハリス・フェロー〉

クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
深川	山田 圭二	江別西	白旗 隆夫
羽幌	前田 晴市	岩見沢	小西 迪夫
美唄	海老名 元		早川 卓伸
	武市 雄弘		荒木 敏博
	奥山 裕章	札幌	渡辺 一郎
	西田 照雄	札幌西北	小林 秀樹
江別	菊田 政徳	札幌東	赤泊 史昭
	金田 敏雄	札幌南	福山 耕司
	西元 文男		松井 恒廣
江別西	島崎 修		北島 廣



クラブ名 氏名

札幌南	吉田 松雄
新札幌	有田 京史
	福士 恭次
岩内	池田 清美
伊達	矢内 順一
	大光 巖
室蘭	早坂 勝美
	進藤 勝哉

〈ベネファクター〉

クラブ名 氏名

札幌	伊藤 義郎
----	-------

〈米山功労者〉

クラブ名 氏名

羽幌	大石 洋一
	加藤 隆一
砂川	木村 正勝
札幌北	竹原 巖
札幌西	笹原 克己
札幌幌南	山名 善久
札幌真駒内	神谷 英光
	丸山 淳士

〈米山功労クラブ〉

クラブ名 回数

札幌あけぼの	第5回目
札幌西	第18回目
札幌手稲	第18回目
札幌幌南	第11回目

〈米山功労法人〉

クラブ名 法人名

札幌真駒内	(株)札幌薬剤
-------	---------

クラブ名 氏名

室蘭東	富田 孝夫
室蘭北	渡辺 絃一
	森 梅本 勲
函館東	宮崎 裕之
上磯	大場 公孝
	月舘 久治
	柳川 景
苫小牧東	三小田吉邦

クラブ名 氏名

札幌	伊藤寿美子
----	-------

クラブ名 氏名

札幌真駒内	佐々木 敦
	佐々木則秋
札幌南	尾山洋太郎
千歳	福田 武男
浦河	濱田 豊
室蘭北	吉岡 貞夫
函館東	森 久恒

クラブ名 回数

札幌真駒内	第16回目
函館	第7回目
函館五稜郭	第4回目

永年100%出席会員

40年

クラブ名 氏名

留萌	石川 健治
札幌真駒内	指川 健
新札幌	宇佐美定男

35年

クラブ名 氏名

芦別	吉村外茂二
札幌東	磯場 勇一
	高野 博

札幌幌南 高須 泰彦

函館	木村 英夫
----	-------

30年

クラブ名 氏名

留萌	平井 誠治
芦別	岩間 珠一

札幌北	谷口 良一
-----	-------

札幌西	岡崎 庚午
-----	-------

札幌手稲	石田 誠
------	------

札幌東	長澤 祐紀
-----	-------

	白崎 繁仁
--	-------

札幌幌南	遠藤 正之
------	-------

	吉田 彰
--	------

千歳	斉藤 公彦
----	-------

静内	落合 敏博
----	-------

伊達	堅田 進
----	------

	雲津 忠宣
--	-------

室蘭東	鈴木 久雄
-----	-------

苫小牧北	池田 作哉
------	-------

25年

クラブ名 氏名

芦別	古川 敏一
----	-------

	松本 元公
--	-------

砂川	山本 洋
----	------

滝川	岡本 皓
----	------

	渡邊 恭久
--	-------

クラブ名 氏名

滝川	戸井 康堯
----	-------

岩見沢	日沼 俊栄
-----	-------

当別	安藤 正
----	------

	内海 英徳
--	-------

	神田 光男
--	-------

	下段 寿之
--	-------

	平出理三郎
--	-------

	米口 稔
--	------

札幌	本間 幸成
----	-------

札幌西	東 敏彦
-----	------

	駒ヶ嶺大三
--	-------

	倭 昭三
--	------

	竹島武一郎
--	-------

札幌東	西川 正一
-----	-------

札幌幌南	金谷 寛
------	------

	角掛 晴雄
--	-------

倶知安	小野塚清一
-----	-------

小樽南	山田 幸雄
-----	-------

千歳	藤川 昭三
----	-------

恵庭	村上 利雄
----	-------

静内	細川 好弘
----	-------

	奥野 七郎
--	-------

浦河	三上 政義
----	-------

室蘭	大橋 庄一
----	-------

	幸松 清
--	------

函館	宮崎 一郎
----	-------

函館東	小野 孝良
-----	-------

函館北	西尾 昌一
-----	-------

苫小牧北	石田 貢
------	------

20年

クラブ名 氏名

留萌	杉本 寛
----	------

	川上 明弘
--	-------

	清水 隆
--	------

砂川	山下 眞史
----	-------



クラブ名	氏名	クラブ名	氏名	クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
滝川柳義文	赤平藤原 税	札幌南黒田 忠	砂川多比良 孝				
岩見沢前川 英雄	砂川高橋 俊美	尾山洋太郎	瓜 俊雄				
札幌幌内山 洋一	北谷 好文	新札幌阿部 敏雄	内野 司				
札幌モーニング佐藤 研介	滝川笹木 和幸	山石 博己	滝川島貫 喜八				
札幌幌東奥貫 一之	美唄高橋 稔	関 幸吉	中川 一郎				
札幌幌幌南羽部 大仁	毛利 清徳	松本 守	中垣 陽一				
札幌真駒内上遠野 徹	江別野村 昭松	小樽南伊藤 義美	中島 健				
神谷 英光	江別西梶野 芳章	大黒屋宏章	山本 毅				
札幌幌南実藤 誠	岩見沢江島 俊昭	山谷憲太郎	江別加藤 正勝				
岩内小杉高一郎	藤波 仁史	高橋 政美	津田 政勝				
小樽南中川 武彌	岡本 等	余市安田 亘	松下 勝芳				
千歳五十嵐 宏	高崎 幸夫	菊池精四郎	山田 誠				
大沼 三郎	岩見沢東碓井 佚弥	中本 陽三	遊佐 修				
岩崎 暉久	栗沢中村 一二	中村清太郎	江別西上光 一博				
上井 昭一	当別野口 和之	久野 等	上村 利勝				
佐藤 秀雄	札幌あけぼの砂原 雅治	藤井 哲夫	後藤 一昭				
高慶 繁博	札幌北出村 貢	柴田 弘道	高田 寛司				
沼山佐太郎	西家 皀仙	静内木村 泰道	谷江 吉之				
村松 克重	札幌西伊藤 正	長浜 和也	松下 文芳				
山田 睦雄	三成 脩	伊達高野 一雄	山口 清峰				
恵庭新川 進	札幌西北武田 忠和	室蘭田所 邦夫	岩見沢倉増 昭一				
静内高田 達	札幌手稲栗津健太郎	室蘭東児玉 直彦	山本 公彦				
奥田 隆一	福井 正佳	村木 一夫	鎌田 誠				
浦河半田 栄作	福井 敬悟	洞爺湖若狭 幸蔵	中塚 力				
伊達佐久間重行	札幌東赤泊 史昭	函館館菅原 進	倉増 秀昭				
室蘭東佐々木勝男	遠藤 一雄	函館亀田柴田 明知	栗山廣岡 秀博				
函館館中山 浩一	長谷川振一	森 武蔵 寿俊	小寺 進				
函館五稜郭富田 邦義	加藤 國彦	苫小牧横田 稔	札幌幌市川 唯行				
函館東原 隆俊	菊地 章	10年	札幌あけぼの秋野 公孝				
戸嶋 浩	菊地 弘嗣	クラブ名氏名	三井 慶昭				
平形 隆司	太田廉太郎	留萌笠原 正昭	久住 博				
函館北伊藤 康男	梁川 修	宮川 正己	札幌北大西 勲				
15年	札幌幌南中島 勉	赤平佐藤 元紀	三上 茂				
クラブ名氏名	長谷川洋一	竹俣 紀孝	樋口 正明				
留萌岡谷 善和	札幌真駒内吉村 洋吉	宇戸 啓隆	札幌モーニング吉田 義一				
鈴木 康伸	札幌南師尾 純一	芦別齋木 達雄	札幌西北新谷 喜信				



クラブ名	氏名	クラブ名	氏名	クラブ名	氏名	クラブ名	氏名
札幌手稲	小山 松男	札幌南	杉目 幹雄	蘭越	白石 勇	室蘭北	斎藤 崇
	渡辺 哲則		朝妻 邦雄	千歳	山田三重子		野村 滋
	中村 和雄		夏井坂信幸	千歳セントラル	土居 栄治		渡辺 紘一
札幌東	千葉 峻三	岩内	梅庭 昭寛		羽芝 涼一	函館	久保内康之
	伊東 孝		伊藤 正敏		須藤 丈	函館亀田	中村 泰三
	山崎 俊彦	倶知安	金井 政二		高塚 信和	函館五稜郭	内山 成一
札幌幌南	内田 豊	小樽	猪股 昌幸	浦河	園 修	函館東	今井 義憲
	天辰 定文	小樽南	荒田 一正		花谷 實		山谷 譲治
	栗虫 利明		大淵 勝敏		森 啓		吉川 達也
札幌南	池田 和弥		梶 健一	室蘭東	森川 亮	函館北	清水 孝信
	杉山 隆俊	蘭越	本間 義明	室蘭北	内池 真人	苫小牧北	谷岡 裕司



次期地区大会開催地発表と 開催クラブ会長エレクト挨拶

札幌北ロータリークラブ
会長エレクト
出 村 貢



次期地区大会開催地ホストクラブとして、ご挨拶申し上げます。第2510地区、ロータリアンの皆様には、ご健勝にて、ロータリー活動にご活躍のことと、お慶び申し上げます。さて、2002年、2003年度地区大会を、2002年11月16日土曜日、11月17日日曜日の両日、札幌市において、開催する運びとなりました。ホストクラブといたしましては、地域内全てのロータリアンが参加する、明るく楽しい大会を目指して、地区大会実行委員会を組織し、準備を始めました。小林博次年度ガバナーの意をくみ、効率のよい大会にすべく、日程

を組み、有意義で、思い出に残る大会を実行委員会が中心となって、企画いたしております。社会が、混沌としている今こそ、平和を願う理想の社会建設に向けて、努力する、多くのロータリアンが、積極的に参加する大会をと念じております。ロータリアン、家族の皆さん、ロータリー等、奉仕の理想を共にする関係団体の皆様、明年の札幌における地区大会へ多数ご参加下さいますことを、心からお待ち申し上げます。ありがとうございました。

国際ロータリー会長代理所感

国際ロータリー会長代理

Gary C.K. Huang

岩城ガバナー、節子夫人、そして、今回のこの大会の実行委員長をなさった畑中氏、元RI理事であります伊藤氏と、寿美子夫人、また、やはり、元RI理事であります、竹山氏とタカ子夫人、そして、今回私達のエイドをして下さった野口パストガバナーと圭子夫人、そしてまた、小林氏、時間のたつのは非常に早いもので、もうそろそろこの地区大会の終わりが来ようとしております。さて、今回私は私の妻コリーナと、RI会長リチャードキング氏と、そのファーストレディーでありますシェリーさんの代理としまして、この場に出席出来たことを、非常に光栄と存じておりますし、嬉しく思っております。また、このプログラムが終わりに近づいたにもかかわらず、このように多くのロータリアンの方々が、この会に出席して下さいていることは、非常に喜ばしいことでありますし、また、この地区大会が成功しましたのも、皆様お一人お一人の、そのような心掛けがあったからこそと考えております。やはり、こういった地区大会に直接参加して頂くこと、そのことこそが、この地区大会の成功の鍵を握っているといっても過言ではないと思います。ですから、ご自分に大きな拍手をして頂きたいと思っております。皆様方がいてこそ、この地区大会が成功したのでありますから。また、数多くの



パストガバナー、そして元RI理事の方々が、ご夫人とともに、この会場にいらっしゃること、この点につきましても、非常に私は嬉しく感じております。こういった方々こそ、私どもの師であり、アイドルであるわけですから、こういった方々を尊敬し、私どもはそういった方々の指導のもとに続いていきたいと考えております。ですから、パストガバナー、元RI理事是非、起立して頂きたいと思っております。また、奥様方にも、もう一度、大きな拍手をさせて頂きたいと思っております。こういった方々こそ、ロータリーの精神を受け継ぐ方でありまして、また、北海道の、札幌の精神を担っている方だと思っております。皆様方が、この先人の方々と同じことが出来れば、この北海道におけますロータリーの将来というものは、非常に明るいものになると信じております。また同時に、他の地区のガバナーのご夫人方も、この地区の会議にいらして頂いたこと、非常に嬉しく思っておりますし、それは偏に、岩城ガバナーの令夫人のご努力の賜と思っております。それでは、ご夫人の方々に起立して頂きたいと思っております。昨日からずっと、いらして頂きました。今回この会議の実行委員会から、素晴らしい通訳を二人用意して頂きました事に心から感謝します。泉さんと島田さんでした。どうもありがとうございます



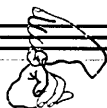
ございました。さて、この地区大会におきまして、私は国際ロータリーの副会長としてその会長代理といたしまして参りました。私は非常に重大な使命を担って、この場に立っております。ここで、皆様方に是非お伝えしたいのは、ロータリアンの将来はアジアに未来があるという事なんです。ですから、私は台湾を代表する副会長ではないんです。アジアを代表する国際ロータリーの副会長ということなんです。また、国際ロータリーの歴史を振り返ってみますと、アジアから副会長になりましたのは、私で3番目か、4番目だったと思います。将来、このRI会長として、タイのバンコクの方がなり、また、プレジントノミニーにはジョナサン氏がいるんですが、彼はナイジェリア出身です。ですから、このことだけを見ましても、国際ロータリーにおいてのアジアの重要性というものが、近い将来、非常に高くなるということは、はっきり言えると思います。9月11日の、アメリカでの同時多発テロの発生以来、私は、会長代理として、様々な国、様々な地域、様々な会議に出席して参りました。キング氏が会長、私が副会長になった当時こんなことを予定、予想したとは思っておりませんが、キング氏に代わりまして、私はアジアですので、このような会議に来ることが出来るわけです。がしかし、私どもの組織そのものが、グローバルな国際的な組織ですから、当然といえば、当然だと思います。この2ヶ月だけを見てみましても、私は会長代理として、10カ国訪問しております。ルーマニアにも行きました。チェコにも参りました。ハンガリー、ポーランド、コスタリカ、マレーシア、等々行って参りました。私が行きました国、ルーマニアは共

産国です。この国に入りますのは、共産圏です。ビザが必要です。そのビザの申請を待つだけで、3日、5日かかってしまう国です。私は台湾出身で、台湾そのものは、ルーマニアとの国交はありませんので、ビザを受け取るのに、少なくとも1週間はかかると言われてしまいました。コスタリカの出身の人でも、ビザの申請に2、3日でオーケーなのという事です。しかし、現実には、私どものロータリアンにルーマニアの方がいらっしゃるにしまして、彼のご尽力で、10時間でビザを受け取ることが出来たんです。私は、キング会長の代理として行くわけですし、私しか、代理として行くものはございません。しかし、ビザがないということなので、唯一その国に入れるのは、チェコを通してということだった訳です。私と妻・コリーナは、午後の5時に、チェコの飛行場に到着いたしました。その空港で、そのルーマニアのロータリアンの方が、待っていて下さいましたし、また、台湾の私の会社の人間も待っていることが出来ました。このチェコ共和国のブラハの滞在時間は、30時間もありませんでした。そこで飛行場についた途端、じゃあ、ルーマニアの大使館にすぐ行きましょうというふうに言われたのです。しかし、空港についたのが5時ですから、これから市の中心街に行って、大使館に行っても、もう7時になってしまう、オフィスはもう全部しまっているから不可能だと言う方がいました。この地区のガバナーがおっしゃいました。ルーマニアの大使が今大使館で待って下さるから、いますぐ行きましょうということです。着いたのが、7時10分前。その大使、閣下が大使館のドアを私のために開けて下さいました。私は勿論その国



の言葉はわかりませんから、私は話しませんでしたけれども、その大使が私の隣にいる人にホァングさんですかと聞きましたんで、彼はそうではないと、私がホァングだと言いましたら、私に握手をして、大使館の中にすぐ導き入れて下さいました。ビザの申請には、カラー写真が必要なんです。すべてがもう閉っている時間です。そうすると大使はカラーじゃなくていい、白黒でオーケー、パスポートの写真をそのまま使おうと言って下さったのです。そして、明日の午後7時にどなたかをいらして下されば、ビザをお渡ししましょうと言って下さいました。しかし、その翌日朝9時に電話が来まして、ホァングさん、ビザがもう用意出来てますよという内容でした。私と一緒にいた方は、二年半もその国にいて、もうそんな事が起るなんて、出来るなんて信じられないと言ってました。何しろここは、共産国なんだから、そんなことは出来るわけがないという事だったんです。即ち、ロータリーという組織がいかに強烈かということを物語っている話をさせて頂いたわけです。私どもはその晩にお会いしました会長の会議にルーマニアの大使を招待しました。初めてロータリーの会議に出席されまして、お役にたてて、とても嬉しい。いつか、私もロータリーの名誉会員になれたらということをおっしゃっているという言葉を受けました。私の国の大使の方は、パーティーの終わる頃に、私の方へ参りまして、もう目に涙をいっぱいためているんです。その彼が言います。ゲリーもう私は2年半もこの国にいても、こんな事が起るなんて、考えたこともない。あの大使は私に今まで一言も言葉をかけてくれたこともないという事なんです。し

かも、それ以上に来週予定されている祭日のパーティーに私を招待してくれたと。それで、私もお返しに是非、台湾の祝日のパーティーにご招待するようにと申しました。なぜ、こういったお話を皆様方にお話ししているかと言いますと、ここでもう一度皆様方にお伝えしたかったんです。ロータリーというのは、決して政治的な組織ではないんだということ。私ども一人一人が、この国際ロータリーのロータリアン、120万人いるわけですが、そのロータリアンであるということ是非常に誇りに思っているんじゃないでしょうか。しかも、国際ロータリーでは、世界でも最高の組織ということです。即ち、ロータリーにとって、ロータリアンにとって、これこそ、人類は私たちの仕事ということになるんじゃないでしょうか。次に、3日前にマレーシアで、非常に面白い事に遭遇いたしましたので、これについても、ちょっとお話をしておきたいと思います。10月の19日から20日まで、マレーシアのゾーン、幾つかあるんですが、それが会合を開きました。ゾーンイスティテュートという所です。しかもその席で、マレーシアの王様にお会いする、謁見することが出来たわけです。私どもの国際ロータリーの会長も、キングという名前なんですが。この王がゴルフのハンデ6、ご夫人は非常に美しい方なんですけれども、名誉会員として、名誉参加者として、この会議に出席して下さいました。この王様は、国民に愛されている王様です。そして、イギリスのケンブリッジ大学での修士号をお持ちです。それで、パストディレクターの伊藤さんと同じように、色々な慈善組織、色々なスポーツ組織の議長や会長をしていらっしゃいます。もう、誰も



が傍にいて、写真を撮りたいと思っているんですが、なかなか近寄れない。私はキング会長の代理として、また、国際ロータリーの副会長としてその場にいましたから、私と妻は、その王の隣に、座ることが出来ました。勿論、西洋で、教育を受けた方ですから、非常に友好的な方です。私達の会長、リチャードD.キングは、非常に歌が上手い。もう、プロのシンガーだと。すると王様はリチャードD.キングは、歌の王様だが、私は生れながらの王様だと言いました。ところでゲリーの名前は、漢字で書きますと、黄色という字なんです、これは中国語で言いますとやっぱり王様という意味なんじゃないですかと聞かれました。そうなんです。本当は王様という字なんです。ですから、マレーシアでは、王様と謁見する場合には黄色のものは着てはいけないというルールがあるぐらいです。そして、この王が言いました。私のゲリーというファーストネームを呼んで下さったんですが、そのリチャードD.キングが歌い、ゲリーも歌ってくれれば、その後黄色のイエローキングにしてあげるよと言って下さいました。だから、歌う王様と、生れながらの王様と、黄色の王様というキング、キング、キングと一番最初に三つ言ったわけです。これは、本当のお話なんです。別に作った話ではありません。歌い終わりますと、会場の人達全員が立って、スタンディング・オーベーションが五分も続いたぐらいです。マレーシアのロータリアンの方が言っていました。この、今晚の出来事で、私は一つのことを学んだと。私どもは、皆平等なんだと。私どもは皆おなじロータリアンという立場にいるんだと言っていました。ですから、今日私の妻と私は非常

に嬉しく思っております。幸せです。皆様方、私を皆様方と同じロータリアンとして、扱って下さいました。皆様の家族のような、歓待をして頂きました。そういったことを、心からここで感謝させて頂きたいと思います。この地区大会大成功を収めたといっているでしょう。その理由の一つは、これを支えたチームが素晴らしかったということ、また、それを率いた議長が素晴らしかったということなんです。それでは、組織委員会のメンバーの方々、そして、チームのリーダーであります、畑中さん、お立ちください。そして、この会議の成功を支えたもう一つの立役者が、ファーストレディーの節子さんです。非常に物静かで、いつも、笑みを浮かべ、ピアノをお弾きになり、また、歌も歌われる。また、子供のミュージカルの指揮もなさる、非常に素晴らしいファーストレディーがいたからこそと言っていいでしょうし、また、ガバナー岩城氏、非常にスマイルが素敵で岩城氏も大成功の鍵と言っていいと思います。それでは、ガバナー岩城氏と節子さん、私の妻、料理はあまり得意ではないんですが、絵を描くのは得意です。ですから、彼女の絵を記念品として、贈呈させて頂きたいと思います。それで、私どもが、ここにいたんだということを感じておいて頂くために、小さな記念品も用意させて頂きましたので、受けとって頂きたいと思います。ガバナーは、お酒がお好きだと聞いております。台湾のスペシャルブレンドを持って参りましたので、この後皆さんで、エンジョイして頂きたいと思います。また、私の古くからの友人で、私が非常に尊敬している方、私が今回ここに来るということを知ってすぐに、金曜日の晩に素晴らしい



ディナーを用意して下さいました。台湾の台中で、プレゼントエレクトとして、2,3年前にお会いすることが出来ました。彼が近い将来に、国際ロータリーの会長になられるのではないかと思われましたけれども、おそらくご夫人は賛成なさらなかったのではないかと思います。また、台中におきます、ナチュラル国立公園もご存知です。ですから、国立公園の絵を私の妻が描きましたので、これを是非、渡したいと思います。また、私の師であり、元理事でもあります、竹山さん、まだ台北にはいらして頂いてませんけれども、しかし、アナハイムで私は色々な事を竹山さんから学ばせて頂きました。ですから、妻が絵を用意しました。是非、贈呈させて頂きたいと思います。是非、台北にいらして頂きたいと思います。また、今回この、札幌におります間に、私ども夫婦をエイドして下さいました、ご夫婦、私どもをVIPとしてではなくて、本当に兄弟のようにしてケアして頂きました。エイドでありまして、また、パストガバナーであります、野口さん、そして、圭子夫人をお呼びして、贈呈させて頂きたいと思います。ネクタイとストラップをお贈りしたいと思います。今回のこの地区大会の議長、畑中さん、畑中氏が私の妻をショッピングに連れてって下さいました。ですから、私よりも、妻の方がハッピーでしょう。本当に、

色々ありがとうございます。また、今回のこの地区で長い間台湾をよく知っていらっしゃるしまして、私の友人であります方、30年以上も台湾とのつながりがある方をお呼びしたいと思います。また、同じ方が、40年、100%出席ということで、表彰されたということを知りまして、非常に嬉しく思っております。それでは、指川さん、どうぞいらして頂けますか。私の心からの記念品を差し上げたいと思います。それでは、ロータリアンの皆様、ご出席の皆様、最後にもう一度、私の心からの感謝の気持ちをお話しておきたいと思います。この素晴らしい地区で、この素晴らしい会議に出席出来たこと、しかも、RI会長代理として、出席出来たことを非常に光栄に考えているということです。皆様私はGary C.K.Huangです。このたび、私は、妻と共にRI会長の代理の務めをさせて頂き、大変光栄に思っております。また、皆様方の、私ども二人に対する厚いおもてなしに、心から感謝いたします。私は、RI会長の代理として、沢山の地区と国を訪れておりますが、第2510地区大会が、一番素晴らしい方と思っています。皆様、おめでとうございます。日本は、台湾と近いですから、皆様是非、台湾に遊びにお越し下さい。また、お会いしましょう。



ガバナーお礼の言葉



ガバナー
岩 城 秀 晴



いよいよ最後になりました。このように多くの方々が、席を立たれないで、Gary C.K. Huang会長代理のお言葉を頂戴しまして、私、身に余る感激でいっぱいでございます。ミスター・ゲリー・ホァングとは、一昨日お会いしましたけれども、十年のお付き合いのような気がしまして、これが本当の友愛であり、ロータリアンであるかなあと、考えております。昨日から私の顔を見て、仏様だというようなことをおっしゃっておりますが、ガバナー補佐にも、だいぶその域にお進みの方がいらっしゃるかもしれませんが、共にそのようなありがたい言葉を頂戴いたしたわけであります。また、今日の地区大会は、私は味のある、違った味を出させて頂きたいとおもいまして、地区のクラブの会長さんにその主旨をお話申し上げましたところ、グループのガ

バナー補佐が、まさにリーダーシップを発揮され、クラブをとりまとめて、このようにお集まり頂いたわけであります。多くの皆様方がこのように、お足を止め、また、終わったならば、懇親会で楽しもうと、残っておられることは嬉しく感謝にたえません。私は、例会を楽しく、そして愉快的親睦を、そして、和やかな気持ちを、皆様方とともに、と申し上げてきました。それが、まさに今日の地区大会であろうと、かように考えております。これも正に、アナハイムで培われたキング氏、ならびに、ゲリー・ホァング氏の温かい心、そして勉強が身になってきたのではないかなあと、この年になって、感激をしています。この年度は、色々なことを申し上げております。その中にも友愛と、ロータリーの気持ち、そういったことを忘れ

ないでいこうではありませんか。ここで、ゲリー・ホァング氏に対する、感謝の気持ちを、皆様と共に拍手で申し上げたいと思っていますので、どうぞよろしくご唱和いただきたいと思います。Thank you very much.

以上、ご挨拶にかえさせて頂きました。懇親会でまた少し、コメントさせて頂きたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。

どうぞ、お受け取りください。

国際ロータリー会長代理ご夫妻 への記念品贈呈



Gary C.K. Huang
RI副会長ご夫妻



閉会の言葉

大会副委員長

中 井 孝 光

ひと言、閉会のご挨拶をさせていただきます。今回の地区大会には、RI会長代理として、現職の副会長ゲーリー・C.K.ホァングさんと、絵描きでもあられる奥様コリーナさんが、ご夫婦でおいでくださいまして、この大会をたいへんユーモアあふれる、実りある大会にして下さったことに深く感謝致しております。この次はぜひ代理としてではなくて、会長さんとなってこの大会に来て下されることを願っております。そして、この地区内外から多数のご来賓の方々が出席して下さり、また、道内各地から大勢のメンバーが参加して下さったこと、そして、会を盛り上げて下さったことに対して、心から御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

この二日間のために、私達のクラブは、ホストクラブとしての任を果たすべく、一丸となって、色々な準備にあたって参りました。それもひとえに皆様に、楽しく、為になる、そして友情あふれる大会と感じてもらいたいという願いから、努力してまいりました。いかがでしたでしょうか。(会場から拍手)こ



の拍手で、今までの努力が報われる思いです。そしてまた、昨日のゴルフコンペでも、ひょっとしたら初雪が降るかもしれないと心配していましたが、非常に好天に恵まれて、多数の参加者に楽しんで頂きました。また、札幌パークホテルを使っの色々な会議もスムーズに執り行うことができました。一方、ご婦人方が集うスパウスなどの並行プログラムにも、多数の方に参加していただきました。これもひとえに、この第2510地区、71のクラブメンバーの皆様のご努力と、厚い友情のおかげと感謝いたしております。

さあ、この後はいよいよ記念懇親会でございます。おいしく、楽しいひとときを味わって頂きたいと思います。先程のゲーリー副会長のお話によりますと、ビールは我々に生命力とリーダーシップを与えてくれるということです。どうか、存分に味わっていただいて、明日からのロータリー活動に生かして頂きたいと思います。皆様どうもありがとうございました。



地区大会 記念懇親会



大会副委員長
吉田 壽 昭

開会の言葉

一言 ご挨拶を申し上げます。

皆様には昨日の会長・幹事会、記念フォーラムに引き続き、本日は早朝から長時間にわたり、本会議を初めとする地区大会の運営にご協力を賜り誠にありがとうございました。

お蔭様でロータリーの理念に基づく社会奉仕活動について多方面から沢山のご示唆を、又記念講演を頂戴いたしました松田昌士様には新たなエネルギーを頂戴することができ、本大会は誠に意義深くそして「心に残る大会」となりました。

今年度の地区大会は第2510地区初めての春、秋2回の開催ということで、ホストクラブとしては何かと心配もございましたが川崎秀雄会長以下札幌南ロータリークラブの総力

を結集し、「岩城ガバナー年度の地区大会を成功させよう」をスローガンに準備を致してまいりましたが、RI会長代理、ゲーリー・C. K.ホァングRI副会長ご夫妻を始めとする皆様のお力添えにより、無事最後のプログラムであります記念懇親会を余すのみとなりましたことに心より厚くお礼を申し上げます。

会場も狭く、何かと不行届きの点もあったかと存じますがロータリーの友情に免じてお許し願います。

この後は本大会のフィナーレを飾るにふさわしいエレガントでエキサイティングな「しばたはつみ」さんのディナーショー形式による記念懇親会をゴージャスに演出してまいりたいと存じますのでごゆっくりとお楽しみ頂ければ幸いです。

本日は誠にありがとうございました。



乾 杯

ガバナー 岩 城 秀 晴



閉会の言葉

札幌南RC会長 川 崎 秀 雄



昨日と今日の2日間、ゲーリー・C.K.ホァングそしてコリーナ副会長ご夫妻をお迎えして開かれました、本年度の地区大会もこの懇親会をもって、全てのプログラムを終了いたしました。誠に有難うございました。

ロータリーの年度こそ違いますが、今年は春と秋、2回の地区大会となりましたが、道内外から本当に数多くのロータリアンのご参加を頂きまして今大会を盛り上げてくださったことを厚く御礼を申し上げます。



しかし、今日ご参加の皆様方に手にしてお持ち帰り頂くお土産はございません。ゲーリー・C.K.ホァング副会長の素晴らしいメッセージと共に私共の厚い想いが通じ、皆様の胸に感動という2文字を刻んでお帰り頂くとすれば、ホストクラブとして大変幸せでございます。

さて、今回の大会は、全てのプログラムを札幌パークホテルさんで、実施いたしました。が、パークホテルの皆さんの献身的なご努力で、大会の運営がスムーズに出来ましたことをここに改めて厚く御礼を申し上げます。有難うございました。また、身内ではありませんけれども、今大会のホストを努められました札幌南ロータリークラブの皆さん、お役目本当にご苦勞様でした。畑中大会実行委員長のもと、皆さんがそれぞれ等しくその役割を担い、全員一丸となってベストを尽くしてくださったことを感謝申し上げます。

今大会の幕を閉じさせて頂くことにあたり、ご参加くださった皆様のご好意と友情に重ねて厚く御礼を申し上げて、閉会とさせて頂きます。有難うございました。

『アトラクションしばた はつみショー』





並行プログラム

◎スパウス

と き 平成13年10月28日(日)

- 11:00 ○札幌パークホテル東側入口前集合
11:20 ○札幌パークホテル東側入口前出発
12:00 ○札幌芸術の森工芸館の七宝展
○「新世紀——七宝 古典から現代」を見学
(札幌市南区芸術の森2丁目75番地)
12:45 ○札幌芸術の森出発
13:25 ○札幌パークホテル帰着
13:30 ○札幌パークホテルにて食事

札幌芸術の森は、21世紀へ向けた芸術文化都市札幌のシンボルとして昭和61(1986)年7月に一部オープンし、1999年に全3期15年にわたる整備を完了しました。札幌市の南の丘陵地にあるこの芸術の森は、その名前にふさわしい豊かな自然環境の中にあり、広さ40haにおよぶ敷地には、鑑賞、発表、制作、研修、情報交流の機能を備えた各種芸術施設が点在しています。

◎記念ゴルフ大会

と き 平成13年10月27日(土)

ところ 札幌エルムカントリークラブ
恵庭市島松沢55 TEL 0123-33-5151

- 6:30 ○登録受付
7:30 ○スタート

◎Spouse Program

Date : 2001.10.28(Sun)

- 11:00 *Meet at East Entrance of Sapporo Park Hotel
11:20 *Leave for Sapporo Art Gallery at Sapporo Art's Forest
12:00 *Cloisonne Exhibition
"New Century—Cloisonne, Modern from Classic"
75, Art Forest 2-choume, Minami Ward, Sapporo
12:45 *Leave at Gallery
13:25 *Arrive at Sapporo Park Hotel
13:30 *Lunch at Sapporo Park Hotel

*A part of Sapporo Art Forest was opened on July 1986 For the symbol of Sapporo City in the 21st century, it took 15 years to build whole facilities.

It is located on the hill of the southern part of Sapporo surrounded by rich natural environment. The site has 40ha, and there are many facilities for appreciation, exhibition, making, lecture, information.

◎Commemorative Golf Competition

Date : 2001.10.27(Sat)

Place : Sapporo Elm Country Club
55 Shimamatsuzawa, Eniwa
TEL 0123-33-5151

- 6:30 *Registration
7:30 *Play Golf

◎新世代プログラム (青少年プログラム)

と き 平成13年10月28日(日) 11:20~14:20

ところ 札幌パークホテル

コーディネーター 地区新世代委員長 奥貫一之

テーマ「人類への貢献」

~Contribution to Mankind~

Sクラス (大学生・奨学生・社会人の部)

会場 3階高砂

11:20 ○問題提起 講師紹介 奥貫 一之

(1) 医療活動を通じての人類への貢献

講師 札幌医科大学

名誉教授 千葉 峻三先生

(札幌東RC)

(2) ラオスでのスポーツ支援活動

講師 JICA 帰国隊員

片山みゆきさん

(三石在住)

(3) WCS活動を通じての人類への貢献

講師 ローターアクト

地区代表 村野 充君

(札幌北RAC)

(4) 究極の国際交流を語る

講師 米山奨学生

北海道大学文学部

ソランキ・マハヴィル・

クシャルチャンド氏

(インド)

令夫人 さやかさん

12:00 ○昼食懇談 (自己紹介等)

13:00 ○討論会 (終了後本会議に合流)

※テーブルリーダーは互選で決めていただき、終了後に討論内容を御提出下さい。

(メモ書き程度で結構です)

Jクラス (高校生・交換留学生・ROTEXの部)

会場 2階パールルーム

11:20 ○問題提起 講師紹介 細川 好弘・

清水 慧子

(1) インターアクトの社会奉仕活動を通じての人類への貢献事例発表

○札幌龍谷学園高校

インターアクトクラブ

会長 石丸 香奈さん

○北海道静内高等学校

インターアクトクラブ

会長 上田 真未さん

(2) 私の国の高校生の人類への貢献

交換留学生

ケイト・ランクロードさん

(オーストラリア)

(3) 私の見てきた海外の高校生の社会奉仕 (人類への貢献)

ROTEX 清水 織恵さん

(オーストラリア帰国)

12:00 ○昼食懇談 (自己紹介等)

13:00 ○野外懇談

札幌ドーム見学、グループ討議

テーブル毎のチームで地下鉄東豊線を使って移動します。

インターアクトは見学後に解散

交換留学生は17時00分迄にパークホテルに戻っていただきます。

◎米山奨学会学友会・財団学友会合同プログラム

と き 2001年10月28日(日) 11:20~14:20

ところ 札幌パークホテル 清流の間 (4階)

主 催 米山奨学会学友会・財団学友会

協 力 地区米山記念奨学委員会・地区財団学友委員会

テーマ「真の国際交流とは一学友会の果たす役割」

11:20 ○問題提起 (提起者は以下の通り)

石垣 博美

1990年度GSEチームリーダー

(PG、札幌西RC)

青木 功喜

1993年度GSEチームリーダー

(札幌東RC)

戸井 敏夫

地区米山記念奨学委員会委員長

(札幌南RC)

土橋 信男

地区財団国際親善奨学金委員会委員長

(札幌南RC)

陳 省仁

米山奨学会学友会会長

(北大大学院教授)

岡 宏幸

財団学友会会長 (札幌大通公園RC)

12:00 ○昼食懇談

13:00 ○討論会



スパウス プログラム

スパウス委員長 富 樫 英 樹

平成13年10月28日(日) 11:00~13:30

札幌芸術の森は、1986年にオープンし、1999年整備を完了しました。豊かな自然環境の中にあり、多様な機能を備えた芸術施設があります。

今回、札幌芸術の森にて七宝焼きの特別展示の見学をメインプログラムとしました。

大変気候の良い時期であり、当日も秋晴れの下清涼な空気の中、工芸館に散策しながら向かい、途中記念撮影をしました。

「新世紀——七宝 古典から現代」展や、常設展示、織物の製作実演などを見学しました。出展されていた七宝は我々の常識を遥かに凌駕した多様多彩な展示物に、皆さん一様

に驚きの声をあげており、解説をして頂いた方に、あまりの見事さにたくさんの質問が寄せられていました。一部即売をしている作品があり、お買い上げになられた方もいらしたようです。短い時間ではありましたが、充実したひと時を過ごされたようです。また、皆さん和気藹々の雰囲気の中、会話が弾んでいました。

以下、当日のプログラムを記します。

11:00 ○札幌パークホテル入口前集合

11:20 ○同出発

12:00 ○札幌芸術の森工芸館の七宝展

「新世紀——七宝 古典から現代」

12:45 ○同出発

13:25 ○札幌パークホテル帰着

13:30 ○昼食



富樫スパウス委員長あいさつ



新世代プログラム（青少年プログラム）

●フォーラム／テーマ

人類への貢献

～Contribution to Mankind～

新世代並行プログラムSクラス



コーディネートする 奥貫一之新世代委員長

司会：このプログラムに沿って、会議を進めさせて頂きたいと思います。テーマは、「人類への貢献」、(コンティンペーション トゥマンカインド) こういうテーマで、海外での協力活動の体験に基づいて、ディスカッションを行い、人類への貢献を目指す新世代のためのプログラムでございます。大変この「人類が私達の仕事」というガバナーのお話と関連の深い内容でございます、かくも大勢のロータリアンの皆様方にお話を聞いて頂く為に、ご参集頂きましたこと、本当に、光栄に、ありがたく思っております。それでは、早速でございますが、Sクラスの大学生、奨学生、社会人の部、大会をさせて頂きたいと思えます。問題提起をされる方が、4名いらっしゃいますが、このプログラムに、このとおりに進めさせていただきたいと思えます。

最初に、お話をさせて頂きます、札幌医科大学の名誉教授、千葉俊三先生、どうぞ、前の方へお願い出来ますでしょうか。先生の詳しい経歴等につきましては、ご自身のお話の

中に出てくると思いますので、私のほうからは、避けたいと思いますが、ただ一言、私先生を存じ上げるようになりまして、もう十数年になりますけれども、本当に面倒見のいい先生、教室の先生、あるいは、海外からいらっしゃった先生方の面倒を見ようと、絆をしっかりと持ちになるという、尊敬申し上げてる先生ですと、一言紹介をさせて頂いて、早速先生の話に入って頂きたいと思えます。先生どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

札幌医科大学名誉教授 千葉俊三先生：皆さん、おはようございます。千葉でございます。ちょっと大変お褒めの言葉を頂きまして、恥ずかしいんですけども。今日のプログラムです、私以外の三人のスピーカーの方は、本当に、新世代というか、若々しい方なんです。私だけ旧世代、まあ、シニアはシニアです、そこでこれからの若い人たちの参考になればということ、あるいは、メッセージをお送り出来ればと思っております。私に与えられたテーマはですね、医療活動を通じての人類への貢献という、大変大きなあれですが、この医療活動、まあ、保健医療協力活動と言わせて頂きますが、この国際的なそういう、保健医療分野での協力活動につきまして、非常に重要であるとともに、問題点も多いわけですが、限られた時間ですので、私の経験を交えましてですね、まあ、話題提供という程度でお話させて頂きたいと思えます。

医療協力活動に限らずですね、国際協力と



いうのは、何よりも人類愛に根ざしたものでございますが、医療協力活動にまあ、日本人も積極的に参加すべきである。現在、日本ではですね、非常に経済的にも豊かになって、それから死亡、例えば乳児死亡っていうのがあります。これは、満一歳の誕生日を迎えるまでに、千人のうちに、何人亡くなるかということなんです、それは、日本の場合は、3.5人程度です。あの、4人を切っておりますが、これは世界的で一番、もちろん他の先進国も含めて、一番低い数値なんですね。これは素晴らしいことで、しかしこれは、昔からですね、このように素晴らしかったわけではなくて、私が生まれた昭和10年当時は、千人生れた赤ちゃんが、百人亡くなったこともあったこともありますし、明治時代は、もっと亡くなったわけで、今の発展途上国の国と同じだったわけですよ。終戦を迎えた時も、何十ありましたし。その後、終戦以後ですね、日本も非常に外国から奉仕活動の恩恵を受けました。国際的に言いますと、WHOですか、ユニセフというような機関、あるいは米国等のNGOのような組織、それから、色々な所からですね、経済的それから、食べ物の援助とかですね、色んなこと、衣類も含めて援助を受けまして、急速に経済復興いたしましたですね、それに伴って大変健康状態もよ

くなりましてね、先ほど言いましたように、乳児死亡率の一つの国民の健康状態のバロメーターとして、重要なものですが、これが、世界でトップ、トップということは、一番低いということです。まあ、それなども反映されてまして、今世界一の長寿国でもあるというわけです。しかし、ちょっと振り返りますと、今ずいぶんWHOとかユニセフとか全部、あるいは日本のJICAとかですね、そういう、あるいはボランティアグループが発展途上国に協力しておりますが、日本もそれを協力される側であったということは、つい何十年か前だったわけでありまして、それを思いますと、現在のような日本はですね、もっともっと国際協力、少なくとも、医療協力も含めた国際協力をすべきであろうというのが立場でありますし、また、医療協力の中では、死亡率の高い、栄養失調も多い、そして今回のように戦争が起こる、内乱が起こるといって、一番被害に遭うのは、子供でありまして、そういう所で協力するという事の他にですね、感染症というものは、これは日本にないからいいというものではなくてですね、世界中で制圧しなければ、結局いつでも日本に入ってきますし、それから日本になくてもですね、いつまでもワクチンを続けなければならないというようなことで、これはこちらから一方的な協力じゃなくて、援助じゃなくて、自分の国のためにもですね、相互的に貢献するといったことであります。そういったことでですね、日本人はもっともっと国際的な医療協力活動に参加すべきであろうというふうに思います。

そこで、国際保健医療活動のあり方としてはですね、どのような有り方があるかといいますと、まず国際機関ということでですね、これは世界保健機構WHOですね、それから



問題提起する 千葉峻三先生と熱心に耳を傾ける新世代たち

ユニセフ国際児童基金ですか、そういった機関が、代表的な活動を行っております。先程ありました、オープニングセレモニーで、この国際ロータリーもインターナショナルなオーガナイズーションというようなこと、言われました。そうしますと、国際的な機関です、国際機関の中の一つに入るのかもしれませんが、後で申し上げるNGOとして世界に最大の規模をもつ、NGOのグループであるということも言えるかと思います。それから、各国ですね、それぞれの国において、GO、政府機関ですね、政府機関が行っている援助、これは日本ではですね。ODA政府開発援助というのがありますが、これを実際に執行しているのが、JICAですね。国際協力事業団で、あとでも国際協力事業団で派遣されて行かれた方のお話もあります。このODAはですね、この10年間1991年からですから、この10年間はですね、米国を抜いて世界のトップです。だいたい、年間一兆円、それから赤ちゃんも含めて一人一万円以上のお金を出しているというようなことになっています。それで今までに、二万八千人という人的な派遣がされてですね、その土地で貢献しているというような事があります。

現在、医療協力の分野では、三十数カ国にですね、色々なプロジェクトとか、協力の為

の派遣がされております。例えば青年海外協力隊もそのひとつであります、これは、六十カ国以上にだいたい千数百人が派遣されております。これは現在ですね。ですから、毎年担当の数の方が、色々な分野で協力しております。まあ、その一部が医療協力にも看護婦さんとか、助産婦さんとか、保健婦さん、そういった方々が携わっております。それから、NGO、非政府機関ですね、それぞれのボランティアグループもそうですが、これで代表的なのは、世界的に医療に関しましていいますと、みなさんご存知のように、国境の無き医師団ですか、というのがございまして、このNGOはですね、世界各地に展開しておりまして、世界に18の支部を持っているんですね。東京もそのうちの一つがあるということでもあります。これははもと、昔1969年ビアブラの大戦ですね、大変ビアブラに餓死しそうな栄養失調の子供達が沢山いまして百万人の子供達が餓死したと、そういう悲惨な事態の時にですね、国際赤十字から派遣されたフランス人の一ドクターが帰った後、それを提唱して創設されたものだ聞いておりますが、1971年に創設されておりますので、もう30年になるわけですが、これはやはり過去にベトナム、ソマリアですね、それからアフガニスタン、いまでもそうですが、アフガニスタン、それから、旧ユーゴスラビアとかですね、神戸の震災の時ですとか、これはやはり特徴として、宗教だとか、イデオロギーに関係しなくてですね、各国あるいは地域におきまして、医療あるいは救助活動とか、救援活動をしております。主に医師とかナース、看護婦さんとか助産婦さんとかが派遣されております。それで、国際平和に対する貢献として、一昨年ですか、1999年にノーベル平和賞を頂いたのはご存知だと思います。



まあ、こういったNGOとしては、この国境なき医師団などは、代表的な規模の大きいものでありますが、そのほかに例えば日本でも、これは岡山にあります、アムダという、今もアフガニスタンに出掛けておりますね。色々と新聞に登場しますが、アムダという国際医療救援団体があります。そのほかに沢山有りまして、最近アフガニスタンが問題になっておりますので、中村先生というドクターがですね、十数年あちらで活躍、地域の医療の協力をしたということが出て、ペシャワール会という名のこれもNGOですね、まあ、色々ミッション関係だとか沢山の大小合わせますと、医療関係だけでも、たくさんのNGOが日本の中でもありまして、活動している訳であります。そういった色んなですね、医療協力、医療活動の在り方が色々ありますが、若い方たちにはですね、こういったNGOなり、青年海外協力隊なり、色んなチャンスがあらうと思います。そういったことをイントロダクションにいたしまして、ちょっと私の経験したこと、主に写真ですので、ざっとこう流させて頂きたいと思います。よろしいですか、時間。

ちょっとこれ最初のスライドは、ちょっと細かいんで、字は、あまり関係ないんですけど、地図を御覧頂ければいいんですが、あの

黒く塗りつぶしている所はですね、乳児死亡率が最も高い地域です。主にアフリカ、それから南西アジアから中近東にかけてありますね。その次が赤いところ。日本は黄色ですね。黄色で書かれていまして、これは日本は乳児死亡率が世界で一番低いので、アジア諸国なんかですね、黄色は日本だけです。まあ、そういったところでは、例えば乳児死亡率百位以上というのはどういう事で亡くなっているかということ、かなり下痢性の疾患が多いというようなことが書いてあります。次のスライドお願いします。まあ、結局そのアフリカなど、そういう諸国に行きますと、今でも栄養失調のそういう子供さんが多いわけです。そうしてそういう子供たちは、基本的に大体栄養失調ですので、感染症になりますと、まあ、死ぬことが多いと。これはWHOの統計で、5歳までのですね、子供のあれですが、これは年間一千何百万ですかね、子供が死ぬわけですが、それで亡くなるものの、下痢症で亡くなる子供がここでは、三百万人以上と書いてありますが、そのほかに肺炎だとか、はしかとかですね、急性の感染症でなくなる子供が四百万以上ですね。そういったように、あわせますと感染症で、日本の子供達が普通にかかる感染症が多いんですが、それで亡くなるという、そういう国が沢山あるわけですね。次のスライドお願いいたします。それで、これは、天然痘ですね。これは世界のそれこそWHOの主導によって、有史以来人類を悩ませてきた天然痘を無くそうという運動ですね、そして、成功したわけです。これは、人類の歴史では初めての世界の国際協力によって、一つの病気を無くしてしまったという最初の人類史に残る出来事で、これは、1980年代の初頭に、出来たわけです。完成したわけですね。そのともかなり、世界全体が



感染症ですので、自分の国だけでなく、当時冷戦時代のソ連も米国も加わってですね、そして、なくしたわけですね。この時、日本は少し出遅れたんですけども、やはり、最終段階でエチオピアなどに追い詰めた段階では、青年海外協力隊の方も参加したと聞いております。そのお陰でもう、種痘というですね、今はもう20歳過ぎた方は受けてないと思いますけれども、そういうワクチンもですね、する必要がなくて、ワクチンのための、脳症のような被害もなくなったわけですね。これはポリオですね。ポリオ麻痺、これもなかなか悲惨な病気ですが、これについてですね、現在WHO主導で、この病気も地球上から無くそうという努力がされております。これに関しましては、国際ロータリー、これは、ロータリーのミーティングですので、ロータリーインターナショナルがですね、ポリオプラス運動を展開いたしまして、そして、皆さん方からの募金を集めまして、これは世界で一番大きなドナーになったわけですね。相当の多額の金額をユニセフ等を通じてですね、国際機関に寄付されまして、それがワクチンの購入ですとかね、ポリオの根絶にむけた運動、研究、調査に費やされております。次のスライドお願いします。それで、白い所はぜひぶん早くに無くなったところでございますが、その薄い所はですね、最近、ポリオが無くなったということで、日本も中国も含めて東アジア、これは昨年の京都ですね、この地域からのポリオ根絶宣言がされました。それで、濃い部分の南西アジアですね、インドとかビルマ、バングラデシュなど中近東、それからアフリカなどが今のぼって、そういう所に押しこまれています。これは、当初より少し遅れてますが、2005年を目標に頑張っているわけですね。そこが無くなれば、世界

中からポリオが無くなる。そして、いずれはポリオワクチンも必要無くなるということになる。素晴らしい事なんです、これからどう成りますか。また今回のような戦争に成りますと、こういったことにも直接響いて参ります。札幌東ロータリークラブはですね、これからの地域なんです、南西アジアの一部であります、ビルマでなく、今はミャンマーですか。ミャンマーのポリオもほとんど無くなってきてるんですが、今最終的な段階でモップアップっていう表現されていますが、そういうふうに一人一人の患者の可能性を潰して行く作業ですね。そういったことに関しまして、札幌医大の若いドクターがですね、元気で活動していると。それで、そういう方を通じてですね、東クラブとしては、何度かですね、ここに寄付をさせて頂いて、向こうでのそういう最終段階の活動に使って頂いていると、そういうようなロータリークラブ会員としての活動を行っております。次の世代ではないですね。そこで、次にですね、私のこれまでの国際保健医療協力に関する経歴なんです、私はWHO、これは国際機関ですね、それからJICAこれは、国の機関でいずれもNGOではないし、それから経験的にですね、いわゆる草の根運動的な、地域において診療活動を行ったという経験がございません。しかし、色んなレベルの協力がありまして、私は1975年にケニアにですね、これはWHOから派遣されて、これはケニアにおけるはしかの予防対策の研究をいたしまして、そしてこの提言をまとめまして、まとまった提言に基づいて、そういう国の非常にはしかの死亡率が高い、はしかにかかると10人に1人もしくは、2人亡くなる地域における、予防接種の法則、方策をたてた仕事に携わりまして、これは現在もそれにもとづいて、そ



ういう国の非常にはしかの死亡率が高い、はしかにかかると10人に1人もしくは、2人亡くなる地域における、予防接種の法則、方策をたてた仕事に携わりまして、これは現在もそれにもとづいて、行われております。それから次にウガンダに参りまして、これもWHOから派遣されまして、ウガンダで主としてポリオのワクチンの効果的登用法に関する研究を行いました。それからブラジルには、これは約一ヶ月間ですが、はしかワクチンの日本からの技術協力、その後のフォローアップのために行きました。それから、フィリピンにはWHOから派遣されて、フィリピンのボフォールという島で、モデル的に行われているオーストラリアの政府のもので、協力、事業のバリエーションに参加いたしました。その後、ケニアと縁があってですね、JICAの感染症対策プロジェクトにここ十数年関わってきて、この春にですね、リタイアしたというわけであります。今インドの下痢症プロジェクトにも参加いたしております。まあ、このように私の場合は国際機関とか、ODA、JICAですね、そういったものを通じての研究とか、それから指導、調査とかそういったものが主なので、ここにご参加の皆様方の中にはもっとですね、地域に根ざして、草の根的に参加したという方がおられるかもしれません。そういった方がいらしたら、後ほどご発言頂きたいと思えます。次のスライドをお願いします。あとちょっとこれはケニアの子供で、タンパク栄養障害がありまして、むくんでるんですね、毛も抜けて。こういう子が、はしかにかかっても、下痢症にかかっても、死んでしまうというわけです。はい、どうぞ。あのケニアなんか県立病院クラスでもこのぐらい。それから、田舎に行きますとこのぐらいになります。それから今、

国際協力事業団で、非常に立派なケニアのナイロビにこういう感染症専門の研究ができて、現在ここで主にエイズですとか、肝炎に関しまして、協力事業を行っております。ケニアでは、もうあそこらへん皆そうですが、エイズが問題になって、エイズのお母さんから生まれた赤ちゃんだけをこれは専門に扱っているところですね。それからストリートチルドレンが増えて、孤児がですね、結局エイズもそれに加担しているんですけど、非常に孤児が増えて、そして、多くはストリートチルドレンになって、子供が子供をしょって、まあ、こういうことをしています。で、私も一つ、少年ケニアの友というNGOがありますが、その副会長をしてまして、それでケニアの孤児院に対して協力しております。一部医療協力もしております。それで、奨学資金などをやっている団体ですが、そこで孤児院も訪れました。そこでそういう、孤児院の中にもエイズ感染者が来てますので、今問題になってます。しかし、子供達の目の輝きは、日本の子供達より素晴らしいですね。どこへいっても。あのボロを着てても。それが非常に希望を与えてくれることです。はい、どうぞ。まあ、そういうことで、時間がオーバーしましたので、まだ何枚かありますが、これで終わらせていただきます。

司会：千葉先生どうもありがとうございます。いつもですと、90分サイクルで授業をされておりますところを、15分でという無理なお願いをいたしまして、本当に恐縮をいたしておりますが、今お話にもありましたように、自ら新世代を育てて、その新世代が立派な働きをされているという所を目の当たりにして、感動を覚えた次第でございます。本当にありがとうございます。それでは、すい



ません。余市の荒木さん、それをめくっていただけないでしょうか。2番目の演者を紹介申し上げます。片山さんどうぞ、前へお進みください。千葉先生のお話の中にもありましたように、JICAで幅広くご活躍されています、片山みゆきさんをご紹介します。みなさま、昨年のシドニーオリンピックで、高橋尚子選手がああすばらしい拍手で、感激のゴールをしたんですが、そのテレビの一番後のほうで、一番最後のランナーとして走りこんできた、ふらふらになったラオスの女性ランナー覚えてらっしゃるでしょうか、そのランナーのお世話をされたのが、片山みゆきさんです。ご本人の経歴等を含めまして、詳しいお話がビデオをもって、されると思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

片山みゆきさん：はじめまして。片山みゆきと申します。どうぞよろしくお願いいたします。お手元にお配りした資料に基づきながら、ちょっとお話をすすめさせていただきます。2001キラキララオスという資料です。ないかたちちょっと後ろの方申し訳ございません。ちょっと50部しか用意しませんでした。私はですね、特殊法人、国際協力事業団の中の青年海外協力隊というものに参加をいたしました。主にですね、先ほど千葉先生のお話の中にもございましたとおり、医療、教育、農業、家畜飼育とかそういう分野が主な活動になっております。その中であります、私はスポーツ分野に参加をいたしました。ラオスという、ラオス人民民主共和国という国のナショナルチームのコーチとして、2年間ラオスの方で活動してきました。

次に、みなさんラオスってどんな国ですかという事なんですけれども、位置的に、みなさんこの地図を御覧にならなくても、



ラオスでのJICA活動を目を輝かせて語る 片山みゆきさん

解った方いらっしゃるでしょうか。私は要請がきたときに、ラオスの位置がわかりませんでした。いったいどここの国なんだろうということ。で、アジアの中の小さな国。で、地図を見てももらっても解るとおり、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、中国に国境を接している内陸国です。えー、海がありません。で、流れているのはメコン川。で、だいたい、三十五度から四十度あります。とても暑い国でした。で、首都は、ビエンチャンになります。人口は四百九十五万人。あと、面積ですね、二十四平方キロメートル、大体本州に北海道の人口が入っているという形になります。それから民族は、テジラオ族ですね。そのほか他民族国家です。数多くの種族が暮らしております。で、言語はラオス語になります。ちょっとラオス語っていう、マニアックな語学、言語なんですけれども、下のほうにラオス語をかいてあります。これを読んで書いて話せるようになった私もすごいなと自分で思うわけなんですけれども、これ読みますと、これは日本語で、あなたのお名前はというふうになります。これを発音しますと、チョースーニャン レ ラムサクニャンということになるんですけれども、次にコイスみゆきかたやま、あと、ラオス人がよく使う言葉です。モーペーニャン、気にしない気



にしない、モードスト ウィーリですね、だいたいそのぐらいの意味合いになってきます。国内的にどうゆう豊かになっていうか、どういう生活のレベルなのかなっていうのは、大体公務員の1ヶ月の給料が約20ドルです。20ドルということで、それで1ヶ月だいたい、家族を養っている形になります。ただ、20ドルではとってもやっていけないので、彼らは農業をしながら、田んぼを作りながら、鶏を育てながらという形をとってます。

私の活動の内容なんですけれども、配属先はラオス国家スポーツ委員会になります。ちょっと、次のページにもう入ってますけれども。派遣期間は、1999年7月14日から2001年7月13日、3ヶ月位前に帰ってきました。ラオスナショナルチームの陸上のコーチ。ただ、ナショナルチームといいますと、皆さん高橋尚子選手のような選手ばかりを想像するかと思うんですけれども、レベル的に、男子でも、ラオスの男子選手のレベルは、女子の高校生のレベルではないかと思えます。非常に低い感じを受けましたけれども、皆さんとても楽しんで練習に取り組んでいました。主な活動内容といたしましては、ナショナルチームの指導、その他に底辺拡大を目的とした、他県への巡回指導。他県ではですね、首都に比べまして、そういう文明が非常に遅れております。そのへんをカバーして、底辺拡大を計ろうということで、実施いたしました。それから、配属先の依頼でもありました通り、ラオスで唯一の体育大学での論議を2ヶ月間行っておりました。体育の授業ですね。それから、国内外への競技会へコーチとして参加しました。国内での競技会は、数多くありました。月に1回ぐらいずつ、小さな大会を開催しておりました。また、国外での競技会参加をいたしましたのは、ラオス国際

ハーフマラソン、バンコクでありました国際学生選手権と、それからパタヤ国際マラソンそれから、シドニーオリンピック。シドニーオリンピックに関しましては、男子の100Mの選手1名と、女子マラソンの選手1名、2名を連れて行きました。その選手と共に、オープニングセレモニー、クロージングセレモニーに出席いたしました。選手村での生活も1ヶ月選手と共にしておりました。あと、最後にですね、ラオス語による指導教本の作成なんですけれども、ラオス自体その本を作って授業等に使うという習慣が全くありません。先生が話した言葉を子供達がノートに書きこむという形を取っているの、指導教本というものがなくて、その作成を配属先から依頼されたので、私のほうもそれに協力するという、ラオス語で製作いたしました。ざっと今お話致しましたけれども、シドニーオリンピック皆さん御覧になったと思うんですけれども、日本人高橋尚子選手が優勝しました。それで、最後のランナーが、私の育てたシリバン選手でした。とてもメディアに受けたんですね。なぜかという、日本人、高橋尚子選手が優勝、最下位の選手ラオス、その裏に日本人コーチというのが、非常にメディアに受けました。そういう面を私は取りざたしてほしくなかったんですけれども、どうしても皆さんそういう方向に目がいつてしまうそうです。それで、テレビ朝日さんの方で、30分の番組を作成したいということで依頼がありまして、今日そのビデオをお持ちしました。それで、前半の15分は今日は時間が無くてお見せできないんですけれども、後半の15分だけ、ちょっと一緒に御覧になって頂きたいと思えます。今ビデオを見せるのは、首都のごく一部の暮らしの豊かな人達の、競技になってます。地方に出ると、こんなに豊



かな暮らしはしておりませんので、ちょっとその辺をご理解頂きたいと思います。では、ビデオお願いします。(ビデオ開始)これが、女子マラソン、シリバン選手の私生活です。このポストは私がプレゼントしました。ちょっとバイクで恥ずかしいんですけども、私です。ちょっと朝いっしょに…。(ビデオ終了)はい、以上です。あの一、30分のところを後半の15分だけお見せしました。前半の15分見たい方、ビデオテープ貸し出し可能なので、どうぞ。このシリバン選手、シドニーオリンピックに1ヶ月行ってまして、国に帰って、職を失いました。まだそういう状況です。ラオスはまだそういう国の状況なんですね。高橋尚子選手、日本人誰でもそうですけど、オリンピックに行った、行っただけで宣伝効果は企業は離さないと思います。でもまだ、向こうの選手たちはまだそういうことを出来ません。ですからまだ、職を失うですとか、学校をやめなければならないと、そういう状況にありながらも、直向きに、こういうスポーツを目指してやっていってるといいう国があります。先ほど千葉先生のお話の中にもありましたけれども、向こうの子供達、目の輝きが本当に違います。そういう部分を私2年間に感じてきました。ラオスは、まだまだ貧しい国なんですけれども、その中でも、そういう良い所が沢山あります。ですから、そういうラオスの色を持って、ラオスはこれからがんばってほしいなと思います。

司会：どうもありがとうございました。そのラオスの服装とみゆきさんのビデオで映った顔、本当に輝いてましたよね。今日の顔も本当に輝いていますけれども、みなさんももう一度よく御覧頂けませんか。これひょっとして向こうのラオスの民族衣装ですね。

片山みゆきさん：これちょっと、これ上は違

うんですけれども、この下と白のジャケットでオープニングセレモニーでグラウンド1周いたしました。ラオスの制服になっております。これはシンというスカートなんですけれども、これは巻スカートになっておりまして、こういう風に折たたんで。これ、私今はこう合わせてますけれども、日本の着物のように、こう合わせてもかまいません。とてもはきやすいんで、夏とかは、涼しくていいかと思います。

司会：はい、その衣装と輝かしい顔にもう1度拍手をお願いします。どうもありがとうございました。皆さん、ひょっとしてお食事の事が心配の方もあらうかと思しますので、ちょっとご案内申し上げますけれども、新世代と話しこんでおりますと、あっもう12時過ぎちゃったと、あ、もう1時だというようなことがよくあるんですけれども、私ももうすっかり新世代になったような気分になっちゃいまして、時間よりも話をゆっくり聞こう、語り合おうというような、そういう状況を優先させて頂きたいと思しますので、よろしくをお願いします。あとお二方ありまして、だいたい、12時20分ごろじゃないかなと予想しておりますが、この席には、五つのテーブルの50人分のお食事は確保されています。そして、後ろに座ってらっしゃるロータリアンの方々、約20名ほどいらっしゃいますが、その方の分は、地下2階の食堂、入って右手の方に用意してありますので御安心下さい。それでは、3番目のローターアクトの方を壇上にご紹介申し上げたいと思います。どうぞ、村野君前へお願いします。自己紹介等は、ご自分であらうかと思いますが、現在の地区代表。そして、酪農大学で学びながら、自然にとっても親しみを持っていらっしゃる、心



新世代たちを感動させた 村野 充君の誠実味あふれるスピーチ

優しい青年でございますので、WCS活動を通じての人類への貢献と、こういうようなことで、お話をお願いしたいとおもいます。よろしくお願いします。

村野 充君：えー、皆さん、こんにちは。僕は、国際ロータリークラブ第2510地区ローターアクト地区代表の村野充です。僕は、大勢の人の前で話すのが、大変苦手で、今日は資料も映像も何も用意してないので、大変お聞きづらい点は、数多いかと思いますが、よろしくお願いします。今日は、テーマが、人類への貢献、まあ、広い意味で国際奉仕ということで、まず、ロータリーとは、全く関係のない話ですが、いたって個人的な話なんですけれども、僕が以前フィリピンに行ってたときの話をしようと思います。今から2年前の春、僕が大学2年生の時ですね、フィリピンのネグロス島という所の、ドゥマゲッティという小さな町へ一人で行ったんですけれども、そこドゥマゲッティのあるNGOの団体によって設立した貧しい家庭のための子供達の幼稚園、カラウマンという所で子供達と一緒に遊ぶというか、遊んでもらうことを兼ねまして、2週間ほど、ホームスティしてきました。で、そこに実際行ってみたらですね、カラウマンちょうど夏休みに入ったばかりということで、子供達は誰

もいなく、で、僕も暇をもてあましてしまったので、ネグロス島の色々観光をして、時間を過ごして遊んでました。で、ある日ですね、ドゥマゲッティの町の隣にある、さらに小さい町に、ジミー・カーターキャンプが来るという話を聞いて、行ってみました。で、そのキャンプは、ご存知の方も多いとおもいますが、前アメリカ大統領、ジミー・カーターによって始められた、貧しい人たちに家を建てるというボランティアで、世界中の人々が集まってくる、それは規模の大きいキャンプでして、日本人もその中には大勢いて、中には札幌の大学生とかもいました。で、驚いたのが、ジミー・カーターにちょっと会えるのを楽しみにしていたんですけれども、実際来てみると、ヘリコプターでやってきて、で、2,3分して帰ってしまったんですけれども、で、さらに驚いたことには、集まった人々で家を建てるキャンプなんですけれども、まあ、技術的な面もあるでしょうし、集まった人々で家を建てることはほとんどなく、まあ、家を建てた人は現地の人たちなんですけれども、集まっていた人たちは何をしていたかという、まあ僕目から見てなんですけれども、まあ単なるお祭り騒ぎをして楽しんでいるといったような感じでした。で、その騒ぎに参加してるのも僕は退屈だったんで、そのキャンプ地の隣にある、歩いてすぐなんですけれども、貧しい地域のスラムを僕一人で、ぶらぶら歩いてたら、僕は日本人ということで、あつというまに人気者になってですね、色んな家に招かれて、遊びまわっていました。で、そのスラムの仲良くなった子供達といっしょに、まあその子供達をつれてキャンプ地に戻って一緒に遊ぼうかと思ったら、そのキャンプ地の人たちから、スラムの人たちはキャンプ地には入れないとい



う話を聞いて、僕は愕然としてしまいました。何がショックだったかという点、そのジミー・カーターキャンプによって、現地は、経済的にも物質的にも、まあ一時的にかもしれないですけれども、潤うことができます。そして、家を与えられた人たちも、そこから幸せな生活を始める事ができるようになるかもしれません。しかし、家を与えられた人たちは、それはあくまでも、与えられたものであって、自分自身で手にしたものではありません。そしてそれは、その地域に住む人達の精神的な面での差別化をひき起こすものではないかと思っています。国際奉仕とか、ボランティアといっても、地域の差別化を促進するようなことをしては、いけません。それを目の当たりにしたのがショックでした。で、実際にスラムの貧しい子供が、キャンプ地の手前で急に立ち止まって、僕に、僕はこれ以上進むことはできないよといって、少し悲しそうな顔をしていたことがものすごい印象的でした。

以上がフィリピンに行った時の話でして、少々長かったと思いますが、僕はそれから、国際奉仕というものについて、深く考えるようになりました。めざすべき、国際奉仕は何かということを考えたときに、結論の一つとして、持続可能な自立発展をめざすというのが僕の中で結論に達しました。それは何かというと、金銭的な奉仕だけでは、まあ、使い方によっては、一時的なものになってしまい、とても持続可能とはいえません。あくまでも、持続可能でなければ、将来的なものはみえてきません。そして、己による発展でなければ、己のためにはならず、本当の自立にはなりません。で、これもまた、持続可能とはいえません。この持続可能な自立発展をめざすという考えは、一人一人の個人的なもの

から、発展途上国と呼ばれるものから、先進国、色々な国を含めて、広い意味で捉えることができると思います。そして、その自立発展に最も近づくことのできる方法の一つとして、僕は教育があるのではないかと思います。で、教育という漢字、頭に思い描いてみると、考えを育てるというふうには見えてきませんか。考えを育てるということは、自分達が生きていく上での生き方を学び、それをはぐくむことであり、その自分達が大勢あつまって、結果的に国、世界を育てていくことに繋がるのではないかと思います。すこし、話が大きさに聞こえるかもしれませんが、僕はその教育というものが、世界中の人々が幸せになれる、最も根底的なものだと信じています。そして、この教育というのは、何も日本の学校で、皆さんが習ったような、国語、算数、理科、社会とかそういったものにとどまらず、例えば、自分が知っている経験や知識、それを知らない人に伝える、ただそれだけのことで、立派な教育の一つではないかと思います。そして色々な人の経験や知識を自分の中に取り入れて、それを上手にミックスさせて、自分の考えや行動に移していくことによって、先ほどの持続可能な自立発展をめざすことが可能になってくるのだと思います。国際交流という言葉がありますけれども、様々な国のさまざまな文化の中で、暮らしてきた人々と交流をすることで、お互いの経験や知識を交えることが、最も基本的で、意味の有る国際奉仕に繋がってくるのだと思います。で、最後になりますけれども、我々2510地区のローターアクトクラブでは、国際ロータリークラブのプロジェクトの一つでありますWCS事業に協力しまして、昨年度では、タイのノンカイという所に学校を設立するというので、僕個人的に



は、直接タイに行って、直接そこの子供達と色々遊んだり、いろんな交流をしたかったんですけども、まあそうもいかないということで、我々ローターアクトクラブでは、皆で学用品を集めて、そこの学校に送りました。で、学校に鉛筆を送るということは、まあ、鉛筆は特に字を書くぐらいしか使い道はないので、たぶん、まちがいなく学校の勉強に使われているだろうとは思いますが、WCSによって建てられた学校の子供達の、僕達の送った鉛筆によって、教育による、そこの子供達の自立発展を願いまして、そしてその国の持続可能な発展を願いまして、我々ローターアクトクラブでは、これからもWCS事業に協力していきたいと思っています。ありがとうございます。

司会：えー、村野君ありがとうございます。22名のローターアクトのみなさんがここにおられますけれども、そのいらっしゃる皆さんだけでなく、全道の代表を務めていらっしゃる方で、その今誠実なお話ぶりからも、その人徳がしのばれると、そういうふうな、村野君のスピーチでございました。ありがとうございます。最後は、ソランキ君と、ご夫人のさやかさん、どうぞ前へおでになっていただけますか。究極の国際交流ということで、お話し頂きたいと思います。色々な国際交流があるけれども、国際理解、やはりその最たるものは、国際結婚であるということで、お二人にうんとおのろけていただきますので、拍手をお願いします。

ソランキ君：皆様はじめまして。もう9年、究極の国際交流を語ろうと言ったのが、話をすることができて本当にありがとうございますけれども、まあ、準備不足で、まあ、いつも準備不足でいつも話しているから、今



国際結婚のよさを語るソランキ君とさやか夫人

日も準備不足でなんとか皆様方にお話ししようかと思って、皆さんの前で演説することは結構、難しいことだなあと、さっき座りながらちょっと、大変だ大変だと思っていたけど、今日ちょっとくらい話しますので、よろしくおねがいします。二人の付き合いきっかけということから、最初話したいと思っています。二人が当年の11月から付き合いはじめて、でも、3年前にアルバイト先で知り合いになりまして、そこでまあ、最初は、さやかに付き合いを始める前に、私が結婚をしたいということを話しました。ちょっと愕然とした、さやかさんも、あつという感じになって、普段は、日本ではそういうことないし、もちろんインドもないけど、ちょっと変わった感じで私、結婚したいということを話しました。でも、それはあとで、ゆっくり考えて、今年の8月に結婚しました。その8月に結婚したビデオを見せたかったんだけど、ちょっと都合によって、今日ビデオを持てることができなかったけど、今日は結婚パーティーのアルバムを持ってきたから、どうぞみなさん、見てください。

二人が結婚したのは、もちろん、インド人、しかも、ヒンズー教の中にある、ジェネという宗教の一家で、文化、習慣、宗教という面で、全く日本と違う。まず、私の宗教で、肉、



魚、卵を食べない。でも、家内の方が肉、魚、卵は毎日ないと、日本人の中で毎日ないと生きていけない。それは、どういうふうな感じで、二人がどういうふうな努力をして、越えていきましょうという感じで、最初の問題ができた。次の問題は、インドでは民族衣装のサリー、私の衣装はいつも狂ったパジャマ、けど、まあ、いつも日本という国で、ジーンズとかスーツでオッケー。それも何とかしましょうという感じで決めました。その後、宗教の問題で、私の宗教では、私が毎朝神様の前にお礼をしなきゃならない。でも、日本では、1ヶ月に1回か、1年に1回のお正月の時のお祈りです。けど、二人が毎日お祈りするようにしました。そして、今もしている。食事の面まで、考えると、毎日食事をどういうふうに作りましょうかと。私は、肉、魚、卵を食べないから。まず、最初野菜炒めとかをして、半分、私の食べる分を取って、また、肉を混ぜて、また、さやかのために作りましょうと。そういう感じで、今もやっております。これからもやっていくと思います。まあ、そういうふうな色々なことがあって、将来は、子供のことを考えると、もっと立派な事になるとおもう。なぜかという、日本の文化とインドの文化を混ぜて、できる子で、もちろん日本語、お母さんの言語は日本語だから、もちろん日本語を習わなきゃいけない。お父さんの言語がヒンズー語だから、ヒンズー語も習わなきゃならない。そうすると、国際言語、英語は習わなきゃならないから、そうすると文化、宗教も、日本の宗教も、インドの宗教も習わなきゃならないから、すごいいい子になるんじゃないかなあとき待しております。

皆さん結婚するが、結婚をどうしてするということになるんだろうな。子供のころから



問題提起をして下さった方々 左から米山奨学生ソランキ君夫妻、千葉峻三先生（札幌東RC）、片山みゆきさん（JICA）村野 充君（ローターアクトー）

お母さんがいつも言ってるの。今も時々お母さんの言葉が思い出される。それは、「結婚したい、宗教の人がいれば1番良い。でも、宗教の人にいらなくても、心と心が、以心伝心にならなければ、結婚しないで」。そして、家庭は、皆さんね、女性にとって人生で一番嬉しい事だといわれている。そして、男性は、もうふざけていつも、結婚は人生の墓場だとかいうけど、でも、私がそれを言わないで、いつも結婚は人生の素晴らしい事だと思う。家庭も妻も一番素晴らしいことだと思う。自分の母がいつも話をしていたのは、家庭があるからということです。家庭のご主人は神様です。奥様は女神です。そして、生まれてくる子供達は、信者です。だから、女神、あるいは妻とご主人が信者達といると、子供をうまく世話をしなきゃならない。それを良い子に育てることが、我々の職業です。まあ、そういうふうな色々な事があって、今国際結婚というんですけれども、私は皆と一緒に結婚したと思っている。それはただ世界が狭いという意識があるから。皆と同じように結婚した。それは、日本人だから、他の国の人だから、それは関係ない。人間がいるから、人間と結婚しました。という感じがします。これから、皆さんに言いたいことは、国境を



越えて、外国人のそれぞれの国の人達を怖がらないように、愛をはぐくみましょう。そして、皆さんが両手をつないで、世界が一つの国として、この国境なしで生きていきましょう。どうぞよろしくお願いします。

司会：ありがとうございます。さやかさんのお話も聞かないと。そのあたり、惚れたいきさつから始まりまして、彼のスピーチへの感想なども含めまして、令夫人さやかさんもよろしくおねがいします。

さやかさん：じゃあ、一言だけ、付け加えさせていただきます。国際結婚ということで、実際私もインドに行ったことがなくて、現実味がわからない状況なんですけれども、宗教の違いですとか、文化の違いが沢山あるんですけれども、彼を信じてついていいこうと思っていますので、よろしくおねがいします。

ソランキ君：そして、もう一つだけ言っておきたい。たぶん、皆様方若い人がね、結婚する前に、奥さんに絶対言うのは、俺を信じて

ください。俺を見て、一緒にあるきましょう。ねー！

司会：息が合ってますね。

さやかさん：言葉足らずを衣装で埋めさせていただきました。ありがとうございました。

司会：いえいえ、お二人の幸せそうな顔が、そのまま雄弁に語っていらっしゃるなあというふうな国際結婚でございました。それでは、一応先生方のお話が終わりまして。これから、お食事ということでにしたいと思います。

〈コメント〉：会食は5つのテーブル毎に会話がはずみ時間がたつのを忘れる程でした。

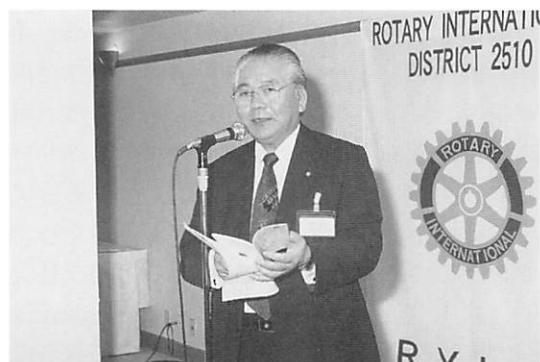
午後のプログラムはフロアー発言が活発に行なわれましたがテーブルを取ってませんでしたので2枚の写真から雰囲気を推察下されば幸いです。



参加者多数のためテーマ毎に分けて写真を撮りました。
千葉峻三先生のテーマを囲む新世代達



新世代並行プログラムJクラス



コーディネーター細川好弘インターアクト委員長

細川様：それでは、ただいまより、並行プログラムを開会させていただきたいと思います。ご案内のように、テーマは人類への貢献ということです。プログラムの中にも詳しく書いておりますけれども、海外での活動の体験に基づいてディスカッションを行い、人類への貢献をめざす、新世代のためのプログラム、まあこういうことでございまして、このJクラスにつきましては、4名の方に問題提起をいただいて、その中で、この目的に合った成果がえられればということです。それではさっそく、問題提起ということで、インターアクターの社会奉仕活動を通じての人類への貢献事例発表。札幌龍谷学園高校インターアクトクラブ会長の石丸かなさんからお願いをいたします。



問題提起されたケイトさん、清水織恵さん、石丸かなさん、高岡志保さん

石丸かなさん：第2510地区、インターアクトクラブを代表しまして、札幌龍谷学園高校インターアクトクラブの活動の一部を報告させていただきます。私達の活動は、老人ホーム訪問、独居老人宅訪問、街頭募金参加、知的障害または身体障害のある子供達との交流などです。今日は、老人ホーム訪問について、報告させていただきます。私達が、毎月訪問している、長生園での活動について、お話しします。長生園は、名前の通り、長生きの園です。部屋は一人一人個室になっており、部屋の入り口は、小さな玄関のようになっております。基本的に自分の身の周りの事は自分でできる方ばかりなので、掃除は、年に1度しかお手伝いしません。そのような方たちと、私達は毎月一緒に遊んでいます。長生園に行き、感じたことは、老人ホームといっても、色々あるんだということでした。私達は、長生園の他に、敬老の日には、西円山慶寿園という特別養護老人ホームにも、お手伝いに行っています。ここでは、一つの部屋に4人から6人で一緒に生活し、ベットの周りの少ししか自分のスペースはありません。また、自分では立って歩けなく、車椅子を使用していて、体の機能がだいぶ弱っている人が多いのですが、長生園は、元気な人が多いのです。ボランティアをしに、老人ホームへ行くとい



問題提起者 札幌龍谷学園高校石丸可奈さん

うと、掃除、食事の介助をするといったイメージでしたが、長生園では、そうではありませんでした。掃除を私たちがしてしまうと、自分でなくなる、そうすると、体の機能がおちてしまうのでいけないということでした。そのため、私たちは1年に1度だけ、普段出来ない手の届かない所などを掃除しています。また、私たちは、一人暮らしのおじいさんおばあさんの家を訪問して、5分ほどの短い間ではありますが、交流するという活動も年に1度ですが、しています。ここで感じたことは、普段一人で、あまり他の人と話すことのない方もいて、なかなか打ち解けるのが大変だったということです。このように私たちは多くの方々と触れ合うことによって、多くの事を学びました。これからも、たくさんのおじいさんおばあさんとの交流をして、おじいさんおばあさんのためだけでなく、自分自身のためにも続けていきたいと思ひます。

細川様：ありがとうございます。札幌龍谷学園高校インターアクトクラブ会長の石丸さんの方から、独居老人のボランティアということで、ご報告いただきました。それでは続きまして、北海道静内高校インターアクトクラブの会長が都合で欠席であります、高岡志保さんの方から、発表をお願いをいたします。



問題提起者 稚内高校高岡志保さん

高岡志保さん：社会福祉法人静内ペテカリとの関わり。我々静内高校の購買のパンは、手作り工房さくらという心身障害者共同作業所が生産しているパンです。このさくらは、町内にお店もあって、クッキーやアイスクリームなども販売しています。高校生にとっても、町民にとっても、なじみのあるさくらですが、このさくらを運営しているのが、社会福祉法人静内ペテカリです。ちなみに、桜の花は静内町においては、二十軒道路の桜が有名ですし、標高千七百三十二メートルのペテカリ岳は、日高山脈の秀峰ですので、どちらも静内町に関係の深いネーミングがなされています。社会福祉法人静内ペテカリは、そのほかにも、静内障害児施設静内ペテカリの園や、知的障害者厚生施設静内桜風園などを運営しています。なお、ペテカリの理事長は、静内ロータリークラブのロータリアンであり、インターアクトクラブ委員会の委員長でもある、細川好弘さんです。施設では、年間様々な行事が企画され、その行事にボランティアとして、また、ゲストとして、静内高校インターアクトクラブは参加しています。利用者とのお菓子作り、七夕祭り、ペテカリ祭、ウィンターボランティア、クリスマス会など、心温まる行事が多いです。中でも、交流運動会は、ペテカリの園と、桜風園のある、目名、



活発な意見が出されたグループ別意見交換

田原地区の自治会と、町社協が進めている、ノーマライゼーション事業の一つとして、毎年行っているものです。地域の運動会を施設の運動会と合体させたもので、珍しい例ではないでしょうか。私たちも、ボランティアとして、参加させてもらっているのですが、実際に競技にも参加し、リレー競争などは、負けまいと必死に走っています。障害があるとか、ないかということは、この運動会では関係ありません。桜風園、ペテカリの園の利用者との交流は、うまくコミュニケーションができなかったり、彼らの予想できない行動にとまどうこともあります。行事が終わるときには、楽しかったという感想がほとんどです。施設職員の対応は、いつもやさしく、私たちに気を使ってくれるので、私たちが申し訳無く思うほどです。今日は社会福祉法人、静内ペテカリの事業内容を知っていただきたく、資料を提出しました。地域に根ざした、地域と関わって行こうとする、静内ペテカリの努力がおわかりいただけたと思います。静内にいらしたときは、ぜひ、手作り工房さくらのパンをご賞味ください。

細川様：はい、どうもありがとうございます。ちょっと、宣伝をさせていただきましたけれども、まあ、私が担当している、知的障害施設であります。本当にあの、知的障害を



コーディネーターの 清水慧子青少年交換委員長

持った人達ばかりが、生活をしている場所がありますけれども、ここはかなり、静内高校のインターアクターも、年間を通じて、いろいろ、ボランティアをいただいております。その一部をご紹介しますいただきました。それでは、この後は、交換留学生と、ローテックスの部分に入りますので、司会の方を清水先生にお任せいたします。よろしくどうぞ。
清水様：みなさまこんにちは。それでは、お二人を紹介いたします。まず最初に、今年の一月、オーストラリア9640地区、ゴールドコーストから来日いたしました、恵庭ロータリークラブのホストで、千歳高校に通っております、ケイト・ランクロードさんです。日本が大好きで、そして今空手も、週2回やっているそうです。帰ってから、大学に入りましても、日本語をさらに続けたいという、日本大好きな交換留学生です。それでは、次は、ローテックス2000年～2001年1年間オーストラリア9800地区、メルボルンに留学をしております、長沼ロータリークラブスポンサー北広島高校に通学をしております、清水織恵さんです。向こうでは、3つのクラブでホストをされまして、4つのホストファミリーにステイをいたしまして、楽しく、有意義な留学生活をおくったそうですが、小学生にお茶を披露するなどして、日本紹介に務めて参ったそ



問題提起者 ケイト・ランクロードさん（オーストラリア）

うです。ではお二人、よろしくお願い致します。

ケイト・ランクロードさん：おはようございます。オーストラリアのゴールドコーストから来ました、ケイト・ランクロードです。さて、ボランティアとは何でしょうか。お金を出す人のこと？お年寄りや、弱い人を助ける人のこと？あるいは、単に励ましの言葉を言う人のことでしょうか。英語の辞書によると、今言った言葉は全部正解で、何かをしようと申し出る人のことです。日本語では、ボランティアという言葉は、もっと本格的な活動のためだけに使われています。

今日私は、オーストラリアの学校で、ボランティアがどのように行われているかをお話します。オーストラリアの学校では、生徒が生徒を助けることが、最大のボランティア活動です。生徒は、ダンスパーティーや、バザーや、カーニバルを企画して、学校の新しい本や道具を買います。上級生が、下級生のために、カウンセリングをしたり、勉強を教えたりするプログラムもあります。こうした行動は、直接学校活動に生かされます。そして、ボランティア活動をする事自体が非常に貴重なことで、生徒の繋がりを深いものにします。問題を理解するために、色々な行動をします。例えば、飢えを理解するために、40時



間食事しないとか、ホームレスの生活をするために、冬、外で寝るとか、白血病の気持ちを知るために、髪を剃ったりします。実際、私の友達の女の子も髪をそりました。こういうことをして、募金を集めます。私が行った学校では、少なくとも、年に20もの募金やボランティアイベントがありました。オーストラリアでは、小さなコミュニティの中でも沢山の人がボランティア活動に積極的に参加していると思います。もちろん、お年寄りや、体の不自由な人も助けますが、日本ほど、それは注目される活動ではありません。日本と違って、オーストラリアのほとんどの学校にはボランティア活動はありません。イベントがある時、学生皆にそれが知らされて、自分たちができると思う仕事をします。自分のできるところまでやりましょうと励ますことは、ボランティアをしやすくするのに効果的です。これは、誰もがボランティアが行うという意味ではありませんが、誰もがボランティアに参加する機会があるということです。

一方、日本でのボランティアはもっと正式なものだと思います。型にはまった同じような作業で、募金のため、ダンスパーティーをすることはないでしょう。また、髪をする人も決まっている傾向があるようです。日本で



類への貢



問題提起者 北広島高校清水織恵さん

ボランティアに参加する人はとても意欲的です。自分で活動を探しますし、多くの経験を持っています。技術は高いけれど、活動する人数は少ないのです。だから、日本ではボランティア活動は、特別な事だと思われるのです。私のオーストラリアの友達がこういいました。身勝手な人は、ボランティアをする人のことを、とても献身的だというけれど、私はボランティアをする人は、意志が強く、我慢強い人のことだと思うと。彼女は、ボランティアを特別な事だとは思っていません。これは、ほんの一人の意見ですが、ボランティアが日常生活ほんの一部であることを示しています。ボランティアは、当たり前のことです。学校でのボランティアとは、学校に何かを還元することです。子供達は、私達の未来だとよく言われます。だから、お年寄りや、体の不自由な人が困っているときに、子供達も重要です。ボランティアとは、設備を整えたり、子供達に助け合う事を教えたり、目標を与えたり、良い気持ちにさせたりすることだけではありません。ボランティアは、それ自体が楽しいことなのです。それでは、これから日本語が十分理解できない人のために、これを英語でスピーチします。(英語にてスピーチ)

清水様：ケイトさん、どうもありがとうございます



交流を深めながら札幌ドームへ

いました。では、清水織恵さん、お願いいたします。

清水織恵さん：昨年オーストラリアへ、1年間留学させていただいた、清水織恵です。まずはじめに、まだ英語が十分理解できない学生のために、英語でスピーチしたいと思います。(英語にてスピーチ) 私はこれまで、ボランティア活動というものを、あまり行ったことはありませんが、今日は私なりに、数少ないボランティア経験にもとづいて、少しお話しさせて頂きたいと思います。私が初めてボランティア活動というものを行ったのは、中学、高校で所属していた吹奏学部で、毎年1回老人ホームや、養護施設で、演奏会を行った時です。これは、恒例行事で、自分たちで進んでやったというわけではなく、ボランティアとは呼べないかもしれません。しかし、この演奏会では、お客さんに喜んでもらえるだけでなく、私達も元気をもらえたと思います。私達の演奏でも、こんなに喜んでくれる人たちがいると知って、それからの練習の励みにもなり、また毎年行って、演奏を聞いてもらいたいと思うようになりました。ボランティア活動として行った、私達の方が、何か大切なものを教えてもらったような気がしました。私はそれまで、ボランティアと聞くと、なんだか少し、とっつきにくくて、



自分がとてもえらいことをしているようなイメージでしたが、この経験を通して、本当のボランティアとは、もっと身近な、誰にでもできるようなものではないか、と考えるようになったのです。例えば私が通っていたオーストラリアの学校では、制服の代わりに私服を来て、登校し、そのかわりに、一人2ドル募金するという行事がありました。この方法だと、自分たちも楽しむことができ、かつ、日本でよく駅前などで行われている募金活動と違い、募金する方も気軽にできるという利点があります。他にももっと、私達が身近にできるボランティアの例があります。道に迷っている人を案内したり、近所の子供達の面倒をみたり、道路の雪かきをしたり、ゴミ拾いをするなどがそうです。まずは、小さなことから、自分でできそうなことを見つけ、それを実行していくことが何よりも、大切なことだと思います。ありがとうございました。

細川様：どうもありがとうございました。それでは、今発表された4名の方、もう1度、

こちらの方へおいでください。皆さんでお礼の拍手をさしあげますので。はい、それでは4名の方どうもありがとうございました。大変貴重な意見、発表がございました。ずいぶん、ボランティアの話もでておりましたけれども、確か今年は、ボランティア国際年ですか、確かこれは国連が、全世界にピーアールしていることなんですけれども、これは日本の方が提案をされて、ボランティア国際年という、国連で定めた年でございます。まことにふさわしい意見の発表がございました。まあ、その「中でも、色々ボランティアのことについて言われておりますけれども、まず自主性を培うとか、報酬を求めないとか、福祉の心を培うという、こういう3つの柱があるようでありますけれども、中で、ケイト・ランクロードさんも言っておりますけれども、何かをしよう、楽しく何かをしようということで、まさにその通りで、本当に皆さんがそういうことを合い言葉に奉仕活動にまいしんしていただければというふうに思います。それでは、これから食事に入ります。



札幌ドーム展望台にて記念撮影



●フォーラム／テーマ

真の国際交流とは

—学友会の果たす役割—

米山奨学会・財団学友会合同プログラム



大館：簡単に私が若干説明いたします。その後、国際交流について、考える事、感じている事をご発言して頂きたいと思っております。よろしくお願いします。それでは学友会の設立経緯について、ご説明いたします。今回は米山奨学会とロータリー財団が合同でやっておりまして、米山奨学会の方は、今から3年前1998年12月14日に北海道地区において、設立されております。米山奨学会学友会会長は、陳省仁先生、現北海道大学教育学部教授をやっています。また、ロータリー財団学友会は、少し遅れまして、今年、2001年5月20日に設立になりました。第2510地区ロータリー財団学友会として、正式に承認されました。会長は、岡宏幸さんになっております。

続きまして、それぞれの学友会の目的、それから活動内容について、簡単にご説明いたします。両学友会ともほぼ同じ目的を持っておりまして、一つに学友、ロータリアンとの親睦を促進すること。二つに各団体の発展に

寄与すること。そして三つに国際平和に貢献することを目的としています。具体的な活動内容ですが、米山奨学会学友会の方は、一つに親睦会の開催、二つに会報の発行、その他、本刊紙に沿う活動、となっております。また、ロータリー財団学友会の方は、一つに、総会、例会の開催、二つに学友会名簿の充実、三つにロータリー活動への参加、四つに新規奨学生GSEメンバーへの支援、五つ目に、対外活動として、米山奨学会、他の地区の学友会との交流を目指しております。また、最後に、ニューズレターの発行を年1回行うということを活動目標に掲げております。

次に、今回の合同シンポジウムの目的についてですが、多くわけて、三つあります。一つは、今後の両学友会の活動がより充実するように、ロータリアン、米山奨学会学友会学友、ロータリー財団学友会学友の意見を交換するというのが一番の目的です。特に今回のテーマは、ここにありますように、国際交流ということになっております。また、二つ



めに、両学友会の交流を深めるとともに、今後ともに活動を行う基盤作りをするというのがございます。実は、米山奨学会とロータリー財団の学友会が実際に話をしたというのは今回が初めてではないかと思います。今回、このシンポジウムを準備するにあたって、約3ヶ月ほど準備したんですけれども、その中で私は、米山奨学会の奨学生なんですけれども、米山の奨学生の方と直にお話をして、お互い感じていることは同じだなということがよくわかりました。三つめの目的なんですけれども、今回は新規奨学生の方を特にご紹介しているんですけれども、これから海外に行かれる方に情報提供をしたい。このことについても、今まで学友会が出来るまでは、具体的に実際に会って、情報を伝えるという機会になかなか恵まれていなかったもので、これを機会にそちらの方の活動も行っていきたいと思っております。ですから、活動内容の方をもう一度振り返ってみますと、今回のシンポジウムというのは、まずロータリー活動への参加、それから、新規GSEメンバーへの支援、そして今回の一番の目的ですが、米山奨学会との交流、この三つを目指して行っているものです。

ちょっと、話が長くなって申し訳ありませんが、それではいよいよパネリストの方々に



青木功喜 GSEチームリーダー

日頃国際交流について、感じることを、考えていらっしゃることをご意見頂きたいと思っております。お渡しした資料の中に、今回パネリストとして話して頂く方の要旨を若干まとめております。A3版の1枚の用紙が、さきほど受付でお渡ししたと思っております。ここで一つお詫びですが、一番目のスピーカーとしてご依頼していた、石垣先生なんです、本会議のプログラムの関係上、午前中出席が難しいということで、2番目にお名前が載っていらっしゃる、青木先生から、ご意見を伺いたいと思っております。また、石垣先生のご意見の方は、私が後で、簡単にまとめると共に、午後1時ぐらいに実際に石垣先生がいらっしゃるということなので、その時にあらためて、石垣先生の肉声で、ご意見を頂こうと思っております。それでは、青木先生、よろしくお願いいたします。

青木：座ったままで、失礼させていただきます。本日は、米山奨学会および、学友会の皆様方、よくいらっしゃいました。私は地区の国際奉仕委員長をおおせつっておりますものですから、そういう関係もありまして、本日は、話の口火だけをきらせて頂きたいと思っております。

私は、ちょうど財団学生の皆様と同じ年齢の頃、もう40年も前の話ですけれども、文部



省の海外出張で、イタリアとアメリカに留学させて頂く機会がありました。この二つの国の体験というのは、極めて対照的でありました。イタリアは、四千年にもわたる歴史がありまして、もうすでに確立された社会階級が厳然と存在しておりまして、その中で、医師はエリートとしての誇りを強く持っておりまして。それらの人達は、ノーブレス オブリージェの心、高貴なるものの責務ということを非常に大切にしておりました。若い時には、自分のことを一生懸命に行い、それなりに成功したら、その後は、世の中のために尽くすのだということをしっかり教えこまれていました。彼らには、神の存在は当然のことであり、人間の限界というものをよくわきまえておりました。私のいたローマ大学の病院でも、学科別に礼拝堂があって、シスターが奉仕活動をしておりました。医師の治療と患者の精神のケアというものは、はっきりわかれておりました。医師も自分の限界を悟り、常に礼拝を通して、自分自身を見つめることをおこたりませんでした。ローマ大学の眼科では、エチオピアに定期的に失明予防のボランティアにWHOのチームとして出かけておりました。エチオピアの人達は、非常に貧しいのですが、精神は豊かで、プライドの高い人が多くて、お金はくれとは言われませんでした。貸してくれということはよく言われました。日本人はよく物をくれたりすることで国際交流をしたりいたしますけれども、現地の人には、こじきではないので、物をくれすぎというのは、止めてほしいというのがよく言われておりました。それよりも、自分たちに送ってくれた機械の使い方をよく教えてくれて、しかも機械が高価で、進歩したものは必要ない。現在失明していく人を一人でも多く治すことが出来る、簡単な機械をくれ

ばいいのだ、ということで、最新の機械で、ごくまれな難病を治すことよりも、簡単で、自分たちでも行える、修理のできる機械をまず送ってくれというのが、切実な声でありました。この頃ちょうど、ハーバード大学から留学していた眼科の医者は、自分は何でも出来るという自信が非常に強くて、結局イタリアの習慣や、伝統になじめず、2ヶ月で帰っていくというようなこともございました。

その後、私はカリフォルニア大学の方に移りましたけれども、我々はあなた方が日本に帰ったら指導者としてやっていけるように教えるんだということを教授に言われました。そのための教育システムをしっかり確立しておりました。米国では、スーパースペシャリストになるための競争が非常に激しくて、勝ち残った人とそうでなかった人がはっきり別れておりました。一人一人が独立しており、自信に満ち満ちておりました。もちろん、そうでない人も多くいましたが、それらの人との交流はその時は出来ませんでした。私は決まった期間しかいれなかったもので、土曜日も日曜日も仕事をしようとして、実験室の鍵を管理している人に貸してくれと頼みましたが、断われました。彼女は、決まった時間の中で、競争するのがフェアで、お前のように休みにまで仕事をするのはアンフェアだと言われました。また、お前は単に能力がないのだからとさえ、極言されたのは、若い時、一生忘れ得ぬ言葉となりました。

しかし、それから帰国して間もなくしたら、ジャパニズエコノアニマルとか、ジャパニズアンフェアということを知ることが出来ました。国際交流には、お互いの国を知ることが大切であります。それは簡単なことではありません。わが国でも、今まで多くの学生が、欧米に留学し、



戸井敏夫 米山記念奨学委員会委員長

現在でもあります。しかし、これは明治時代の欧米に追いつけ、追い越せという時代とほとんど変わりありません。これでは真の国際交流は立ち遅れてしまいます。3年前にシカゴロータリークラブ第7170地区で、財団学生の選抜の面接試験があり、同席する機会がありました。そこで、留学希望の学生は、アフリカや、南アメリカの発展途上国の文化を学びたいという人が非常に多いのに驚きました。彼らは異質の文化を理解して、それを自分のものに消化してみたいという希望に溢れておりました。その意味からも私は、GSEプログラムに大いに期待をしております。第2510地区のGSE委員会は、開発途上国との交換が、2002年からはじめられると聞いております。2年前に私がRI本部で、研修して帰る時に、2ヶ月後に初めて、複数のRI財団の関係者に本音を言われました。それは、日本と韓国は、確かに多くの財団寄付をしておるけれども、それを自国の学生に還元することに一生懸命過ぎるということでありました。自分だけよければよいというわけではないでしょうが、そうとられることを知らず知らずに行っているということがございます。これでは真の国際交流は出来ません。エリートとして、取り扱われる人々との交流だけではなくて、ごく一般の人々との交流が、真の国際

交流には大切であります。このためにも、GSEは大切なプログラムであると私は信じております。

また、開発途上国はじめ、多くの国の、サイレントマジョリティーの声を聞く努力は不可欠であります。そのためには、失敗に学ぶのではなくて、日常の地道な、素晴らしい善意をお互いに認め合うことが大切だと思っております。知らず知らずのうちに、人間は、ともすれば傲慢になるものであります。しかし、人間のやれることには、限界があります。そのためにも謙虚さと、色々な人を認める寛容さが最低必要であります。我が国では、敷かれたレールを踏み外さないように歩くことが、若いときからしっかりしつけられます。また、何事も効率よく行われることがよしとされ、無駄な遊びを避けようとしします。しかし、それでは他の国には通じません。無駄や遊びのない世界は、心のない世界であります。同じ日本人という均一性の高い我が国では、他人と異なることは、和を乱すといひます。しかし、すでに切り開かれた道を行って、たどりつける所には、世界に通ずる新しい世界があるとは限りません。むしろ、道のない所を歩き、その道で新しい挑戦をすることが、21世紀の新しい世界に通ずると私は信じております。その挑戦ができるのは、あなた



方若い人達の、特権であると思います。以上です。

大館：青木先生、貴重なご意見ありがとうございます。青木先生のお話の中でまず、国際交流というのは、エリート集団の養成ではないということ、それから、開発途上国など、サイレントマジョリティーの方々にもっと耳を傾けるべきではないかということ、それから新しい道を切り開くには、今までと違ったことをしなければならないことなど、色々貴重なご意見を頂きました。先程、申し遅れたんですけれども、今回のプログラムの進行なんですけど、大きく三つに分かれておりまして、午前の部で、パネリスト八人の方々にそれぞれのご意見を言って頂く、それから、昼食を挟みまして、(略)…それでは、続きまして、戸井敏夫先生、米山記念奨学会委員会委員長、よろしく願いいたします。

戸井：地区の、米山記念奨学委員会委員長を務めさせて頂いております札幌南ロータリークラブの戸井と申します。本日非常に大きなテーマを与えられたのですけれども、私は、今の米山記念奨学金制度の現状と、それからそういった体験をふまえての国際交流のあり方ということについて、お話をしたいと思います。

まず、米山記念奨学会でございますけれども、現在毎年約千名の海外からの留学生の方に、奨学金を出しているわけですが、東南アジアからの留学生の方です。これまで全国で約1万の方に奨学金を出しています。地区内におきましては、これまで合計で207名の奨学生の方に今年は8カ国24名の奨学生の方に米山奨学金を出しております。学友会の設立は、先ほど司会の大館さんからお話がありましたとおり、約3年前に設立されました。私

は昨年委員長になりましたが、その後十分なフォローを学友会の会長さんにできずにきているということを、今回のパネラーとしての立場から、反省しなければならないなというように思っております。今後、学友会はワンパターンというふうによく言われるんですけども、懇談会という基本的なことから、もう1度始めて絆を強めなければというように思っております。

それでは時間の関係で、若干はしよらせて頂きますけれども、私は、米山奨学委員長としての立場から、若干のお話と感想をご紹介いたしたいと思います。まず、私がこの1年ちょっとの体験から感じた事を申し上げます。私は海外の留学経験もございませんので、外国から見た日本というものについては色々、本ですとか、テレビのここが変だよ日本人とか、ああいったものからしか推し計れないで、どうしても先入観というか、この国はこういうことだということで、感じておったわけでございます。特に、戦争中の体験がございます。東南アジア、中国、韓国の方々はそうとう日本に対して偏見を持っているのではなかろうかというような、予見といいいますか、先入観と申しますか、そういったものがあったわけでございます。しかし多くの米山奨学生の方とお話したんですけれども、若干やはり私の考えてたことと違うなという気がいたしました。

まず、一つお話を紹介いたしますと、米山奨学生は、応募すると全員が選ばれるというわけではなく、約5倍ぐらいの競争で、選ばれてくるんです。それで、どうすれば選ばれるかということが留学生の間で情報として飛び交うということがありまして、例えばロータリーに対する認識度合いとか、自分の研究していることとか、その内容がこういう方



が、望ましいというような留学生間の情報があるそうでございます。その中の韓国の一人の方でございすけれども、自分は日本と韓国の歴史を勉強しているんですけども、ちょうど勉強している歴史の時代が、1930年から45年の時代の歴史の勉強をしていて、主なテーマは、その当時の朝鮮人の強制連行の問題だということが主な研究テーマだったそうです。友達から、あんたそんな研究テーマをやってるなんてことでは、まず選ばれないから、それは隠したほうがいいと、違うのに変えた方がいいといわれたそうですけれども、実際にやっている事を曲げる、隠すというわけにはいかないので、面接のときに、自分はこういう勉強をしてこう思うというような話をしたそうです。結果は合格ということで、この件だけで判断したわけではないのですが、その後色々ロータリアンの方々と接して、やはり日本人の心というものは、自分の考えていたものと違うという印象を受けたと言っておりました。

また、他の方は、昔雨竜郡のダム建設で朝鮮人とか日本人とか、沢山犠牲になったそうでございますが、この夏休みにそこに埋められている遺体の発掘作業に行ったそうです。これは、日本と韓国と北朝鮮の3ヵ国の学生さんが、集まって行ったそうですが、これも、



土橋信夫 財団国際親善奨学金委員会委員長

こういった体験がどうだったということだけではなくて、米山奨学生にならなかったら自分は、アルバイトに追われて、夏休みにその様な体験をすることも出来なかったであろうというようにさらっとおっしゃっておりました。私の感じたのは、海外旅行などでは体験できない、その国に留学していなければ本当にその国が理解出来ないという部分が、大変大きいんではなかろうかと思えます。そういった意味では、ロータリーの国と国との間の相互の理解と友好親善、こういったことを深めて頂くためには、留学制度というのは、本当に大事なことかなと思っております。ただ、今学友会の組織というもの、先ほど申し上げたとおり、これまで約200名以上の米山奨学生の方がいらっしゃるんですけども、現在名簿で29名ということでありまして。今後これをどの様にして、ロータリアンと、今の奨学生、学友とが三者一体になっていくかが、重要でなかろうかと思えます。毎年面接をして、色々研究テーマとかを聞いているんですけども、やはりロータリーを理解しているかということだけではなく、あなたは奨学期間が終了した後、国際親善の架け橋となるべく、それをどういうふう考えているかということ、面接のときに聞くのが重要かなというふうに思っております。最後に今回

財団と学友と合同でこのような会を催しましたが、この二つの学友会同士が、接点を持って行く会合というのは、非常に重要であると考えました。以上でございます。

大館：戸井委員長どうもありがとうございます。続きまして、土橋信男先生、財団国際親善奨学金委員長よろしくおねがいします。

土橋：ご紹介頂きました。土橋でございます。そこにございますように、現在地区の国際親善奨学金委員会の委員長をしております。昨年からお引き受けいたしまして、現在2年目でございますが、昨年度9名の派遣する奨学生を選びまして、今年10名を選んで、ですから毎年9名から10名の方をこの奨学金によって、世界各地に送り出す委員会のお仕事をお手伝いさせて頂いています。今年の場合は、新聞にも初めて載せたということもありまして、問い合わせの段階で、約220件ありました。しかし、実際に申請をしようと最後まで出してきましたのは、48名でしたので、その中の26名の、面接をしまして、約半分近くに絞り、10名を選んだということです。ちょっと、司会の方の仕事を私取っちゃいけないんですが、今年選ばせて頂いて、現在の段階では、正式に言いましては、奨学生候補となっているんですね。キャンディデイトなんですね。アメリカで今最終選考が行われていまして、来年の1月に正式発表になって、奨学生という名称になるんですが、その奨学生候補の方が確か5人いる、ちょっと手を上げて頂けますか。6人いらっしゃいますね。この方たちが今年選んだ方たちですね。すでに帰ってきた方たちが学友なんです。学友の方何人くらいいらっしゃいますか。6人いらっしゃいます。米山のその他の方は、並行プログラムの方に大勢いらっしゃるんですね。それから、その他の方は、もちろんロー

タリアンの方ですから、もちろん言うまでもないことですが、そんなことで、私はそこに皆さんの所に要旨をお渡ししておりますように、社会貢献を考えたときのロータリー財団の意義と奨学生制度というふうに、私自身が申し上げることを絞ってテーマを書いたんですが、一番最初に青木先生のお話があったんですが、私も、ロータリー財団で奨学金を差上げて、世界で学んでもらうという人達の役割は非常にはっきりしておりますね、これはこれからの社会を担って頂くリーダー、エリートという言葉はあまり好きではないんですが、要するにリーダーシップをもって頂く、特に国際的な力を持って頂くようなリーダー育成が私達の仕事であり、このロータリー奨学金の主旨だというふうにはっきりと、私は思ってますし、そういう意識を持って、留学をして頂きたいなあと、それから帰ってきてからも、そういう意識で、これもまた青木先生、ノーベリストオブリジェというお話があったんですが、要するにこれは、一つの特権的なと言いましょうか、特権という言葉もあまり好きではないんですが、やはり特別な機会を与えられて、そして、援助を頂いて、そして学んで、社会的な地位責任を得たものの、やはり、責任ですから、それは自分のためではなくて、ロータリーの理想としての超私の奉仕と言いましょうか、自分を超えた他人のために自分のいただいたタレントを使って奉仕をする。そんな活動をして頂きたいなと、そんな風に思います。

これは別にロータリーでなくても、実は私自身、アメリカのニューヨーク、シラキュース大学という所で、5年半学んでおりまして、何回か、実は日本からお見えになった方のお世話をする機会があった。向こうでセミナーとか色んなかたちで、お世話をさ



せていただきましたけれども、その時にアメリカの方々のおっしゃられたこと、今でも私忘れないんですが、自分達がこうすることで、決してそれに対して、恩返しということは全く必要ないんで、そうではなくて、それは他のところで、もし得るものがあれば、他のところでまた同じようことをしてくださいというような言い方をされたんですね。これはなかなか日本の中ではない考え方です。日本はどうしても、恩返しといいたまうかね、その恩恵を受けたところにこれを返すと。そうじゃなくて、いただいた、色んな事柄に対しては、それを他の所で、ご自分を用いて、奉仕をして下さいと。ロータリーのリーダーシップを育てるというのは、まさにそういう考え方ではないのかなあと私自身、思っておりますので、ロータリーの奨学金制度、これは米山もそうだと思うんですけども、それから海外派遣する奨学金制度もそういうふうな気持ちを持って、皆様方に学んで欲しいし、帰ってきてからもそういうような奉仕をしていただきたいなあと。今回実は、これも戸井先生の方からですね、はじめてこういう、そしてこれも司会の大館さんの方からございましたけれども、こういうプログラムが並行してこういう機会に設けられたということが、私とっても良かったなと思って、うれしく思っておりますが、そしてこんなに大勢の方々に、お集まり頂いたので、奨学金制度、あるいはそれをどう用いられているかというようなことも、ご理解をして頂く機会がここに得られたということ、本当に感謝しています。そして、最初にはっきりとロータリー奨学金の目的というのは、そういう国際的なリーダーを育てるんだというようなことを申し上げたんですけども、ちょっと背景になる状況について、二つのことを申し上げさせ

て頂きたい。ちょっと時間が長くなることをお許し頂きたいんですが、これは非常に重要なことなんですね。昨年、これは当時小淵総理から森総理にバトンタッチされましたけれども、ご承知の方、多いと思いますけれども、教育改革国民会議という総理が直々に諮問をした26人による教育改革のための会議がもたれました。それで、12月に答申がありました。12月の22日に出たんですが、実質審議は3月から9月まで。非常に集中的に議論が行われて、日本の教育を変える17の提案というのを総理大臣に出したんですね。その教育を変える17の提案。なぜ、17なのかというと、これはまた面白い話があるんですが、皆様ピンとくる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は聖徳太子なんですね。17条の憲法というようなそういうお話がありましたけれどもまあ、そういう17の提案に基づきまして、本道から出ました、町村文部科学大臣の時に、今年の1月25日に21世紀教育申請プランというものが作られました。非常に早いです。今までこんなに早くですね、教育論議でまとめられて、そして改革のポリシーとして政策にもられたということはありません。21世紀教育申請プランというものができまして、それが6月に法律改正が、教育六法について、行われまして、いま来年度の予算申請がされています。ものすごく早いんですね。その中で言われていることは、17の提案を基にして、全部それに対応する政策をつけて、予算をつけて、来年度の概算要求を今してるんですね。いろんなものが予算カットの中で、教育だけがプラスになっています。これは、決まるかどうかわかりませんが、おそらく決まるはずですね。新聞で紹介されておりますので、これもご承知かと思いますが、例えばノーベル賞をですね、今年もらいました。過



去50年の中で約10人の方が日本でノーベル賞をもらっておりますが、これからの50年でその3倍ですね、30名の方がそれをもらうような、教育を日本でしなくちゃいかんと。それでこのリーダー養成というのが非常に大きな日本の新しく教育を変える国の政策の軸になっています。それでリーダー養成ということは、今までにない、色んな試みでやろうとしております。例えばこれも来年度予定をして、今進行中のことなのでございますが、日本で20の高校を選んで、スーパーイングリッシュランゲージハイスクールというのを作ると。それから日本で20の高校を選んで、スーパーサイレンスハイスクール、これはエリート養成。それから日本の大学のトップ30を選んで、世界のトップクラスになるような、大学作りをすると、そういうようなことが背景にあって、この間も北見工大と、旭川医大が合併するというようなことがパッと出てきておりましたり、色々な日本中の大学のピックアップが進んでおりますけれども、エリート作りをするということは、国の大きな制度改革として起こってるわけです。それで、国の方は国の方としまして、私はやっぱり今までのロータリーがやってきたことは間違ってたかなって思っております。国際的に通用するリーダーをわたしたちは作りたいということで、このプログラムがあると思うんです。これがまず一つの最初の背景ですね。それからもう一つの背景になることは、たまたま二つの講演会を通じまして、私も確かにこれは間違っていないと思ったんですが、その一つはですね、10月3日に、たまたま私は、犬飼智子先生を支える、難民救済を支える札幌市民の会がありまして、その会長をしていますので、犬飼先生が今年もいらっしゃったりということで、お招きしまして、10月3日に北星

学園大学と京王プラザホテルで、講演会でお話をして頂きました。京王プラザの方は、市民一般の皆様にご案内をしたんですが、これは新聞にも出ましたんで、約500人の方が、来てその前でお話になった。その中で犬飼先生がお話になったのは、今アフガンであいう難民がどんどん出始めていると。それで、犬飼先生は、その前に、コソボですとか、アフリカだとか、東南アジア、カンボジアへいらして、ご自分が難民救済をずっとされてるわけですね。ご自分で今書かれている本の印税は、全部その難民救済にあてて、犬飼智子基金というのをお作りになって、支えていらっしゃる。ところが、お金だけではないと。大事なものは、若い人達が、現地へ行って、働いてもらうことだと。日本からはなかなかそういう人が生れない。そして英語だけではだめですというんですね。英語のほかにさらに、一つか二つのプラスアルファの言語を持っていくような人作りをぜひしてくださいと。北星でそういう話をしたときに、北星の生徒たち、ほんとに励まされたといって、私のところにすぐメールが入りまして自分達にできることは、今すぐやりたいこともあるんだけど、何があるんだろうかというんで、私はその会に入って、その会を支える手伝いをなさいと、そういうふうに言ってるんです。

もう一つはですね、これは、10月24日に、中村 哲先生という方が、これも急にお招きすることになって、アフガニスタン、パキスタンでですね、現地で医療をずっとやっていらっしゃる先生です。今ちょうど日本にお帰りになってたんです。札幌に来て、酪農学園大学とKKRで講演会をされました。こちらの方はもっと大勢の方が集まりまして、酪農で約500人、それから、KKRで約700人聞いて



たそうですけれども、私はその中で、大変希望を持ったのは、高校生、大学生が非常に多く聞きにきてくれました。これは、中村先生の場合はお医者さんですから、これはちょっと特殊ですけれども、やはり現地に、日本の若者たちが行けるような、そして、現地へ行って、救済をするというのは、頑丈な体と、それからシックハウスになるような、かよわい人は駄目なんですよ。どんな所でも耐えられるような、頑健な体、強い意志、忍耐力を持った人でないと駄目なんですよ。だけどそれは、ロータリーの仕事ではないと私は思うんですが、しかし、そういうことに関心をもつ若い人も非常に増えてきているということからですね、私はまだ希望はあるなと思っています。ちょっと話が後半の方は、ロータリーのことでなくなりましたが、いずれにしても、人づくりをする責任が我々にあり、ロータリーは特に私はリーダー養成でいいと、ロータリーの仕事は、むしろそこに特化してですね、これからも進めて行くべきじゃないかとそんなふうに考えておりますが、しかしそれは非常に幅広い基盤に支えられなければならないということで、ちょっとその背景になる全国的な状況について、お話をさせて頂きました。最後にちょっと付け加えさせて頂きますが、4月から、私も札幌市



陳 省仁 米山奨学会学友会会長

の教育長をお引き受けいたしまして、札幌市全体の教育をどうあるべきかということを考えなければならない立場にありますので、その国の政策等今勉強しております関係で、その一端をお話させて頂きました。長くなりまして、どうも恐縮です。

大館：土橋先生どうもありがとうございました。続きまして、石垣先生ですが先ほど申し上げましたように、午前の部には出られないということで、私が手短かに石垣先生が特にお伝えしたいということを代ってお話したいと思います。石垣先生からこのようにファックスでびっしりと色々送られてきておりまして、特に最後の方の提言というのを言って欲しいと受け賜わっております。一つは、GSEプログラムに重きをもう少し置いてもいいのではないかと。それで、GSEプログラムというのは、実際に社会人になられた方が、外国に行って、向こうの社会人の方と接するというので、国際交流と言う意味の波及効果は大きいと。青木先生も先程おっしゃってましたが、リーダーシップを作るということで、奨学生の制度は確かに大事だけれども、より広範な国際交流の目的を達成するには、GSEの方が、時と場合によっては、大事ではないかということを提言していらっしゃいます。また、米山プログラムにつきましては、今後



日本の経済を考える上で、より、近隣諸国の方々との交流が必要になってくるだろうと。そういうことで、今回の米山奨学会と、財団学友会の合同プログラムを歓迎するということをおっしゃってました。続きまして、今まではロータリアンの方々の意見をお聞きしてまいりましたが、これからは、実際に奨学会、あるいは財団奨学会で、海外に派遣されたり、あるいは日本で学ばれた方のご意見をお伺いしたいと思います。なにぶん、時間が押しておりまして、申し訳ないですけども、これから述べる方はなるべく手短にお願い致します。それでは、陳先生よろしくお願い致します。

陳：北大の陳と申します。宜しくお願いします。時間もあまりありませんので、手短にしたいと思いますのですが、まず、私はかつて留学生でもあるし、もう10数年前から北大で仕事をしてまいりました。最近の数期間は、留学生も受け入れ、大学の短期留学プログラムのカリキュラムとかにも、少し関わっております。そういう立場から、日本の留学政策、あるいは、留学生と留学政策の間に見えること、ひょっとしたら、大学の外ではあまり見えないんじゃないかと思うようなものを、2,3説明と、あるいは指摘といいたしめようか、したいと思います。これは決して、大学のことを批判するとか、あるいは文部省の政策を批判するという意味ではなくて、むしろ実際に留学生と接している中で、色々な留学政策、あるいは留学生と接している中で、感じていること、そして、自分も長年日本に住んでいますと、もう半分日本人になっているような感じで、もちろん日本人にはなれませんが、なんかそういうような気持ちで、もっとこういうふうにしたら、日本社会にもいいんじゃないかということで、今日は発言したいと思

います。

まず、簡単に言いますと、どうも留学政策と留学生の間に一種のミスマッチがあると思うんですね。このミスマッチというのは、私の言葉で、少し説明いたしますと、国のレベルで、あるいは国際的レベルでどういうミスマッチがあるかといいますと、ご存知のように、数年前1984年でしょうか、日本政府は、国際貢献ということで、西暦2000年をめどに、10万人導入するという事を宣言いたしました。ところで、2000年をもう過ぎまして、今年2001年になっても、留学生は今のところ、せいぜい7万人ですね。この目標はなかなか達成できないでいます…。一方沢山の学生がですね。アジアの国から、アフリカの国から日本へ留学したいという人がいっぱいいると思うんです。私もしょっちゅうEメールを受けたり、あるいは、すぐ留学生センターを経由して相談がきたり、とにかく、行きたい、入りたいという事があるんですね。じゃあ、どうして沢山外国の留学生が日本に留学したいのに、その10万人の目標を達成できないのか。という、大きなある意味では謎ですよ。これがまず一つ。

もう一つは、大学の中、いったんは留学生を受け入れた所で、教員たちにとっては、私もそういう1人ですが、正直言っては、なかなか受け入れてもらえないんですよ。お願いして、まあ、洪々というか、まあしょうがないからやりましょうということが、ままあります。それもどうも政策と大学、あるいは実際に受け入れる側のミスマッチがあるのではないかと。言いかえれば、もっと受け入れたらこんないい事あるのに、自分の研究にも教育にも、大学の学生とか院生にも、プラスがあるという実感があまりないので、それはなぜなのかというミスマッチですね。



さらにもう一つはですね、受け入れる側と、学生の側のミスマッチは、こういう形でも現れています。つまり、教師から、受け入れはしましたが、どうも学生は、学力の面とか日本語の面では、どうも自分が思ったほど、かんばしくはない。要するにものすごく指導に時間がかかったり、色々な困難があると。一方学生の方も、例えば英語で、講義が聞けるとか、大学の先生なら英語が通じると思ったら、思ったほど通じないで、苦しんで、悩んでということもある。要するに、政策の面、そして国とか国際的なレベルとかから、実際の面において、いくつかのミスマッチがあって、これはどうしてそうなったのか。これは何も米山奨学財団の問題ではないんですが、思うのは、財団も財源は限られておりますし、しかも今少しずつ困難も生じているといいますし、そんな時に、言葉はちょっと悪いですが、八方美人というやり方をしない方がいいんじゃないか。もっと目標みたいなものを定めてやったほうがいいんじゃないか。それで、先ほどの青木先生とか、戸井先生の発言にもありましたように、もちろん留学生受け入れたからといって、恩返しせよと、そういうふうに考える必要はないんだけど、でも、留学生政策として、あるいは、奨学生制度として、もっとビジョンがあって、こういうような人材、こういうような資格を持った人たちを奨励したいというふうに考えた方がいいんじゃないかと思うんですよね。日本に來たいから、あるいは日本に來てるから、今まで奨学金を出してるから、出そうというのではなくて、自ら、こういう留学生、こういうような国際交流の方向をしたい。だから、こういう人達を援助するというようなもっと、はっきりとしたビジョンを持った留学生政策があってもいいんじゃない

かと思うんです。もっと言いますと、誤解されないように、お金出す以上は、口も出してもいいんじゃないか。口を出すというのは、ただお金を出すから、こうしろ、ああしろではなくて、もっとはっきりとしたビジョンが必要ではないか。その為に、我々、決して日本人だけじゃなくて、私のようなかつて恩恵を受けたものとしても、いかに相手といいましょうか、留学援助をしたい、奨学したいという相手の状況を知った上で援助しなければ、すれ違いの援助になってしまうんですね。あるいは、ただ、やってる、いいんじゃないかというふうになってしまうのではないかな。まあ、ちょっと言い足りない所もありますが、そういうような所が、まず一点ですね。

それで、次は、ロータリー財団が担える国際プログラムはどういう事があるかといいますと、時間がありませんで、今日本全体百年以上前から、どちらかというと、ヨーロッパとか、西洋に対して、すごく学びたい、そして学習したい、行きたいという動機がものすごく高いんですね。そういう意味では、もうそこで援助しなくてもいいのではないかな。もう、自らの内発動機が、かなり高いので、むしろ財団の方は、例えばアジアを一つの重点として、徹底的にアジアの他の国と一緒に、まあ、力あるなし、それぞれ状況に応じて、他のアジアの国といっしょに、アジアを視野として入れる。もちろんアジアだけじゃなくて、世界を視野として入れるんだけど、アジアをベースとしたプログラムのようなもの。例えばヨーロッパ、最近はイラスムスというプログラムがありますね。ヨーロッパ間、EU加盟国の間の留学制度のようなもの。例えば、アジアの国の間では、出来ないでしょうか。もちろん、しばらくは、日本人、そして日本の財団、米山財団を含むが、しばらく



いわゆる奉仕として、していかなければならないんじゃないかと思うんですが、要するに、そのアジア重視、これはまあ、一つの例としてね、ビジョンで、やったらどうでしょうかというふうに考えています。そして、留学奨励制度というのは、もちろんエリートだけではない。国際交流はエリートだけではないんだけど、多分、一つのステップとして、やはりそのエリートというか、意味も色々あると思いますが、やはり留学生の中に能力の高い人をまず援助をして、それと同時に、例えば、留学生と一緒に来ている家族の皆さんも、現にこちらにいらっしゃいますので、その人達の交流も非常にローカルなレベルで出来るわけですね。非常につまらないように、思われるかもしれませんが、例えば、留学生の家族は日本を学ぶチャンスがあまりないんですね。それで今、北大は、例えば日本語サロンという数10名の熱心な方、ボラン

ティアで日本語を教えている日本語の授業があるんですね。でも、家族の抱えている問題は、子供をどこに預けたらいいのなかなか場所がないので、なかなかそういうクラスがあっても、勉強出来ない。例えば、非常に小さなところで、これは、ロータリー財団やんなさいとは、いいませんが、例えばそんな所で、グラスルート、いわゆる草の根レベルの国際交流も出来るのではないかと。大きい所では、アジア全体の視野を入れた留学、あるいは国際交流のプログラム、そして、同レベルで、あるいは、ローカルなレベルで、細かいところの援助もできるのではないかと。非常に舌足らずで、説明不十分だったと思いますが、以上です。

大館様：陳先生どうもありがとうございました。午前の部ですけれども、皆さん色々、貴重なご意見を言って頂いて、有り難うございました。



記念ゴルフ大会

ゴルフ委員長
工 藤 武 久



地区大会記念ゴルフ大会は、10月27日(土)札幌エルムカントリークラブ東コースで行われました。

年2回の地区大会となった事もあり参加人数が心配されたのですが、女性の方7名も含め104名の御参加を頂き、当初心配されておりました雪も降ることなく快晴の中、和やかに行われました。

競技はシニア、ジュニアクラスに分かれて争われ、又スタート組別のチーム賞も設けました。

今回のゴルフ大会は懇親会をプレイ後にを行い、プレイ中の様子や成績を瞬時にパソコン上からスクリーンへと出したりとIT化にも努めました。

又、チャリティーホールも2ヶ所設け、皆

様からのご協力を頂き約20万円集まりアメリカの同時多発テロへの義援金とする事が出来ました。皆様のご参加ありがとうございました。



2001～02年度 RI2510地区 地区大会記念ゴルフ大会成績

ジュニアクラス

順位	氏名	out	in	Grs	Net	Hdcp
1	桃井 康夫	40	38	78	70.8	7.2
2	笹木 学	39	37	76	71.2	4.8
3	榎本 恵子	47	51	98	71.6	26.4
4	山内 浩資	39	38	77	73.4	3.6
5	岡本 進	40	43	83	73.4	9.6
6	小林 昌志	42	46	88	73.6	14.4
7	今 均	40	41	81	73.8	7.2
8	渡辺 一郎	43	38	81	73.8	7.2
9	福井 敬悟	45	48	93	73.8	19.2
10	梅田 鉄夫	47	40	87	73.8	13.2
11	添田 則行	50	47	97	74.2	22.8
12	安部 庸夫	39	45	84	74.4	9.6
13	中塚 力	42	42	84	74.4	9.6
14	望月 好明	48	49	97	75.4	21.6
15	稲津 涉	48	49	97	75.4	21.6
16	朝倉 正人	43	47	90	75.6	14.4
17	馬杉 榮一	43	40	83	75.8	7.2
18	松井 恒廣	40	42	82	76	6
19	志比川 武	46	48	94	76	18
20	西川 哲也	53	46	99	76.2	22.8
21	大澤 隆司	46	41	87	76.2	10.8
22	福田 修身	48	45	93	76.2	16.8
23	舩田 雅彦	41	45	86	76.4	9.6
24	中川 富雄	45	46	91	76.6	14.4
25	菊地 竹勇	46	45	91	76.6	14.4
26	荒木 敏博	44	46	90	76.8	13.2
27	松井 寿子	51	50	101	77	24
28	山本 順逸	45	44	89	77	12
29	太田ヒロ子	49	45	94	77.2	16.8
30	守谷 保夫	46	47	93	77.4	15.6
31	田中 國光	46	48	94	78.4	15.6
32	高元 寛治	38	44	82	78.4	3.6
33	工藤 静子	55	51	106	78.4	27.6
34	今井 典子	51	55	106	78.4	27.6
35	後藤 栄子	53	52	105	78.6	26.4
36	辻田 郁哉	53	49	102	79.2	22.8
37	柳 孝一	46	42	88	79.6	8.4
38	林 富勇夫	49	44	93	79.8	13.2
39	庭山 早苗	49	44	93	79.8	13.2
40	森木 潤一	45	48	93	79.8	13.2
41	久保 隆	53	42	95	80.6	14.4
42	穴戸 昭	56	50	106	80.8	25.2
43	有田 均	45	49	94	80.8	13.2
44	菊地 善久	51	48	99	81	18
45	日野 重利	47	49	96	81.6	14.4
46	長谷川直紀	56	50	106	82	24
47	後平幸太郎	42	47	89	83	6
48	田嶋 久嗣	58	55	113	83	30
49	菊池 恒	53	54	107	85.4	21.6
50	佐藤 義久	54	55	109	86.2	22.8

シニアクラス

順位	氏名	out	in	Grs	Net	Hdcp
1	佐々木則秋	41	38	79	70.6	8.4
2	林 正秀	42	41	83	71	12
3	大星 孝幸	46	43	89	71	18
4	菊地 章	42	38	80	71.6	8.4
5	渡辺 寿夫	37	39	76	72.4	3.6
6	中山 裕視	46	41	87	72.6	14.4
7	大川 健一	48	42	90	73.2	16.8
8	村木 宏道	47	40	87	73.8	13.2
9	松下 留雄	40	40	80	74	6
10	中澤 秀雄	47	51	98	74	24
11	金田 省三	41	38	79	74.2	4.8
12	夏井坂信幸	43	47	90	74.4	15.6
13	向田 基市	42	41	83	74.6	8.4
14	見田 義之	44	39	83	74.6	8.4
15	武部 賀	45	43	88	74.8	13.2
16	山崎 晴嘉	47	47	94	74.8	19.2
17	中嶋 宏	45	47	92	75.2	16.8
18	高橋 秀和	39	41	80	75.2	4.8
19	梅内 隆幸	52	45	97	75.4	21.6
20	二川 秀樹	44	46	90	75.6	14.4
21	後藤 由春	50	46	96	75.6	20.4
22	藤井 哲夫	42	47	89	75.8	13.2
23	中里 邦治	41	40	81	76.2	4.8
24	青木 功喜	47	45	92	76.4	15.6
25	夏井坂トシ	47	45	92	76.4	15.6
26	佐野 勝之	49	49	98	76.4	21.6
27	佐藤 清夫	42	42	84	76.8	7.2
28	戸井 敏夫	50	45	95	77	18
29	西田 照雄	52	47	99	77.4	21.6
30	小川 眞治	43	43	86	77.6	8.4
31	岡田幸四郎	48	44	92	77.6	14.4
32	下 公司	49	48	97	77.8	19.2
33	橋本 久明	53	49	102	78	24
34	渡辺 誠治	49	46	95	78.2	16.8
35	小林 俊之	57	50	107	78.2	28.8
36	吉村 誠治	50	49	99	78.6	20.4
37	工藤 武久	46	53	99	78.6	20.4
38	中嶋 春一	44	48	92	78.8	13.2
39	浅野 勝	47	45	92	78.8	13.2
40	上村 利勝	55	45	100	79.6	20.4
41	三浦 義昌	45	49	94	79.6	14.4
42	新見 健	46	47	93	79.8	13.2
43	樋口 俊一	56	48	104	80	24
44	佐々木昭一	46	44	90	80.4	9.6
45	富越 誠也	52	49	101	80.6	20.4
46	加藤 國彦	49	58	107	80.6	26.4
47	阿部 勝男	48	46	94	80.8	13.2
48	村山 豊喜	57	54	111	81	30
49	斉藤 博義	46	47	93	81	12
50	島津 宏興	56	46	102	81.6	20.4
51	久保田俊昭	47	47	94	82	12
52	石田 茂夫	45	55	100	85.6	14.4
53	南原 幹生	56	52	108	86.4	21.6
54	三上 直彦	60	55	115	87.4	27.6



ご来賓・ご招待者ご芳名（敬称略）

〈ご来賓〉

札幌市長 桂 信雄

〈ロータリーご来賓〉

RI会長代理(副会長) Gary C. K. Huang (D3480)
Taipei, Taiwan

(黄 其光)

RI会長代理夫人 Corinna S. L. Yao

(姚 世蕾)

〈ご招待者（地区外）〉

第2560地区 野沢さゑ子 (新潟東)
ガバナー夫人

第2820地区 北村 栄子 (水海道)
ガバナー夫人

第2580地区 牧野 早智 (東京東)
ガバナー夫人

第2630地区 福井 隆男 (鈴鹿西)
バスト・ガバナー
(ロータリー文庫監査員)

第2630地区 福井 章子 (鈴鹿西)
バスト・ガバナー夫人

第2500地区 道下 俊一 (浜 中)
バスト・ガバナー

〈ご招待者（地区内）〉

元国際ロータリー理事 伊藤 義郎 (札幌)

元国際ロータリー理事夫人 伊藤寿美子 (札幌)

元国際ロータリー理事 竹山 涼一 (札幌南)

元国際ロータリー理事夫人 竹山タカ子 (札幌南)

第2510地区 河邨文一郎 (札幌西)
バスト・ガバナー

第2510地区 河邨 宣子 (札幌西)
バスト・ガバナー夫人

第2510地区 大橋 康次 (札幌東)
バスト・ガバナー

第2510地区 白石 欽一 (札幌手稲)
バスト・ガバナー

第2510地区 富原 薫 (札幌)
バスト・ガバナー

第2510地区 富原 睦子 (札幌)
バスト・ガバナー夫人

第2510地区 西條 正博 (札幌)
バスト・ガバナー

第2510地区 野口 信夫 (小樽)
バスト・ガバナー

第2510地区 野口 圭子 (小樽)
バスト・ガバナー夫人

第2510地区 石垣 博美 (札幌西)
バスト・ガバナー

第2510地区 伊藤 長英 (苫小牧北)
バスト・ガバナー

第2510地区 伊藤祐紀子 (苫小牧北)
バスト・ガバナー夫人

第2510地区 森本 正夫 (札幌西北)
バスト・ガバナー

第2510地区 森本 節子 (札幌西北)
バスト・ガバナー夫人

第2510地区 遠藤 正之 (札幌幌南)
バスト・ガバナー

第2510地区 遠藤美栄子 (札幌幌南)
バスト・ガバナー夫人

第2510地区 小林 博 (札幌北)
ガバナー・エレクト

第2510地区 小林 幸子 (札幌北)
ガバナー・エレクト夫人



地区大会特別参加者名簿

【ローターアクトクラブ】

北海道拓殖短大RAC（深川）

佐藤 飛鳥 相澤和香奈

留萌RAC（留萌）

中森 豊和 菅原 豪 内山タカシ

赤平RAC（赤平）

伊藤 明和 荒井 雅子

岩見沢RAC（岩見沢）

鈴木 雪絵

札幌北RAC（札幌北）

沼澤 卓 鈴木 理恵 村野 充

及川 佑介

札幌幌南RAC（札幌幌南）

斎藤 和男 中山 泉 新井田章子

日崎さおり 三味 晶子 山内 勝人

前田 陽子

伊達RAC（伊達）

平尾 陽子

室蘭北RAC（室蘭北）

山田 雅之 佐藤 直子

函館RAC（函館）

青木 淳 国枝 光彦 山崎 徹

函館大学RAC（函館東）

藤村 義美 丸岡絵理香

【インターアクトクラブ】

駒沢大学附属岩見沢高校IAC（岩見沢）

長谷川正宏 木村 卓実

希望学園札幌第一高校IAC（札幌）

熊野まなみ 芳賀みち子

札幌龍谷学園高校IAC（札幌モーニング）

石丸 香奈 小笠原史子 佐藤 明奈

蝦子 裕美 新堀 琴美 村上 麻衣

札幌山の手高校IAC（札幌西北）

小林 美樹 福沢 歩

北海高校IAC（札幌東）

西 早耶子 須田 敦子 浦波 英里

吉野 恵

北海道静内高校IAC（静内）

高岡 志保 下山 由紀 蚊野 友美

中橋 明美

室蘭大谷高校IAC（室蘭東）

沼倉 崇宏 藤原 良太 中村 久志

馬場 祥実 谷永 智崇 相良 稜子

福原あゆみ

函館ラ・サール高校IAC（函館五稜郭）

後平 泰信 木村 達哉 村上 浩一

【IAC顧問教師】

駒沢大学附属岩見沢高校 畑田 雅延

希望学園札幌第一高校 天野 敏枝

札幌龍谷学園高校 稲場 薫

札幌山の手高校 平澤 誠

北海高校 金山 和弘

北海道静内高校 松澤 健吾

室蘭大谷高校 松田 徹也

福岡ひろみ

【交換留学生】

札幌モーニング

大熊 慧子

メーガン・チュウ（オーストラリア）

札幌西北

アイノ・テュンヤラ（フィンランド）

横丸 文

札幌手稲

ディエゴ・タンボレロ・ララ（メキシコ）

エリカ・デラヴェシア（アメリカ）

高崎 康子



札幌東

フィリップ・キャンترول (オーストラリア)

ナティカ・ボール (アメリカ)

蓬畑 景子

札幌南

クレイトン・ストレンジ (アメリカ)

小林 令奈

小樽南

アンナ・ロジャース (オーストラリア)

恵庭

ケイト・ランクロード (オーストラリア)

鈴木 愛

北広島

カイル・イー (カナダ)

由仁

阿部 香織

函館東

宮崎奈津子

上磯

ダレン・ウォーリー (オーストラリア)

張江 浩司

苫小牧北

高橋 春奈

【ROTEX】

札幌北

玉木 郁絵

札幌モーニング

木村 敦子

札幌西北

小林 美樹

札幌東

濱田早央里 小砂 晴資

小樽

末永三保子

恵庭

恩田 美保

長沼

古川 大憲 記虎 孝弘 清水 織恵

【米山奨学生】

江別

連 塗發

札幌

ジェイソン・バローズ

ライアン・ジグラー

札幌あけぼの

張 強 李 昇遠

札幌北

グリシェン・カデリ

札幌モーニング

曾 碩文

札幌西

朴 昶奎

ヘジャジ, ラド・ヘサメディン

札幌西北

春 燕

札幌手稲

趙 相元

札幌東

李 曉白

札幌幌南

金 紋聖 チャン・タチャーナ

札幌真駒内

金 勁和 呉 崇殷

札幌南

陶 艶 ソランキ・マハヴィル

新札幌

韓 恵仁



室蘭

孟 昭武

上磯

李 遺元

【ロータリー財団奨学生】

札幌モーニング 紙田 清

札幌東 清水由紀子

札幌幌南 尾張 敏章

愛洲 絢

札幌南 高原真奈子

札幌西 大平 美輪

〈財団学友 (GSE)〉

名 前	派遣年度	派遣国	スポンサークラブ
野沢 幸平	1979	オーストラリア	岩内
田嶋 弘美	1984	アメリカ	栗山
岡 宏幸	1990	オーストラリア	札幌東
白畑 博信	1990	オーストラリア	小樽南
鈴木 抄織	1993	アメリカ	札幌東
神部 寿郎	1993	アメリカ	滝川
鈴木 裕子	2001	アメリカ	札幌南
土井 聡子	2001	アメリカ	当別
河田 珠美	2001	アメリカ	余市

【ロータリー財団学友会】

〈米山奨学会学友〉

名 前	受領年度	出身国	スポンサークラブ
陳 省仁	1978	台湾	広島南
金 海英	1998	中国	札幌はまなす
顔 明芳	1998	中国	札幌幌南
鹿 美麗			
胡 東宇			

〈財団学友 (奨学生)〉

名 前	派遣年度	派遣国	スポンサークラブ
佐々木恵子	1974	オーストラリア	札幌北
本田 晃	1977	アメリカ	小樽
太田 英伸	1989	イギリス	札幌東
原田 公人	1993	アメリカ	札幌手稲
澤田 耕治	1996	イタリア	札幌幌南
伊藤 和弘	1998	セネガル	小樽南
山岸 加奈	1999	イタリア	札幌西北
関 ふ佐子	1999	アメリカ	札幌北
川原田抄苗	1999	ロシア	札幌南
小林 愛	1999	フランス	千歳



地区大会登録者名簿

東京東RC

平戸 譲 平戸 梓 嶋倉 晃
嶋倉 悦子 寿原 豊

小平RC

川森康次郎 森田 修 新名 秀雄
大貫 三夫 佐橋 栄一

●第1グループ

深川RC

舟谷 絹子 後藤田隆雄 林 正衛
伊藤 崇 北村 幸雄 葛原 琢磨
松本 佳巳 村上 正泰 村中 俊二
永井 久之 中 公一郎 中澤 清
成田 昭彦 成田 雅敏 小田 幸晴
小野 昭郎 大西 道祥 大西 祥太
佐々木弘有 佐々木 実 渋谷 賢治
杉村 修 高橋 慶一 棚橋 直登
田中 寛美 寺岡 義人 渡辺 一義
山田 圭二 安田 愼也 吉本 勲

羽幌RC

茶谷 恵一 地島 耕二 出口 治康
福井 俊一 舟橋 隆宏 林 敏朗
東出 寛 堀川理智子 伊原 重孝
石川 士史 實藤 吉信 神山 登
金浜 豊隆 加藤 隆一 櫛引 克弘
松橋 守 成澤 卓爾 西川 弘二
小原 克美 小川原幸紀 大石 洋一
斉藤 彰 神原 照夫 佐野 俊一
佐々木 武 笹浪 一夫 忠津 章
田原 昇一 高場 剛 武田 秀夫
寺本 真仁 山本三次郎

妹背牛RC

江幡 進 真鍋 剛 村上 正和
長田 宗正 斉藤 忠 佐藤 義明
梅澤 見堂

留萌RC

江端 稔 遠藤 光一 深瀬 晏男
福田 徹也 行徳 幸治 行徳智歌子
平井 誠治 石川 健治 井内 球雄
門脇 則充 笠原 正昭 河部 勲
川上 明弘 小林 清 越野 俊興
松川 一夫 道 重幸 三國 要
宮川 正己 水嶋 健次 森 俊二
森本 一 新井田榮路 二ノ宮清信
西谷 英樹 大沼 哲郎 大嶋 孝広
齋藤 清蔵 坂井 清 佐藤 喜一
佐藤 潔 澤田 茂 関野 政人
島田 勇 清水 陸 春藤 良雄
鈴木 康伸 高田 一視 高田 潔
高田美保子 武井 哲 田中 公一
田中 玲子 立山 一三 対馬 健一
若林 幹夫 渡部 英次 渡邊 裕久
山本 譲二 山下 眞 吉田 清治

●第2グループ

赤平RC

赤川 清介 藤永 貞治 藤田 安男
布施 洋一 早坂 文雄 早坂 弘幸
早坂 透 石野 茂 伊藤 和敏
和泉 義雄 宮川 徹 武藤 哲雄
岡田 知治 大櫛 哲行 大坂 晃
太田 勝利 佐々木重昭 佐藤 元紀
高江智和理 竹俣 紀孝 田中 良一
田中 隆志 宇戸 啓隆 若林 弘基
渡部 芳己 横岡 潤一 吉田 茂
湯浅 守



芦別RC

荒川	忠義	道島	尚光	早坂	勝
稲津	寿一	石岡	雅	岩間	珠一
神野	一民	角谷	高明	北	正信
小西	修身	松本	公元	森沢	勳
根井	弘	野口	英明	小畑	陽彦
岡本	幸男	齋木	達雄	坂田	憲正
桜井	祝	高橋	秀幸	高島	英世
竹原	幸盛	田中	一廣	坪坂	周二
土山	久男	渡辺	哲雄	渡辺	寿一
依本	蕃	吉村	外茂二		

中谷	幸司	中山	弘三	野村	良孝
岡本	皓	尾崎	友之	坂本	和繁
坂田	秀昭	笹木	和幸	佐藤	圭二
佐藤	茂	関藤	和順	柴田	哲雄
篠島	弘	塩尻	一幸	相馬	隆男
菅原	剛太郎	鈴木	英光	高木	敏行
高嶋	敏寛	高山	訓正	武田	晃
田中	幹雄	坪谷	隆二	土田	秀樹
上田	英二	上田	秀司	和作	康市
鷺尾	昌法	渡邊	恭久	山口	清悦
山根	英治	柳	義文	米倉	慎一
吉田	邦夫	吉田	正治	吉住	敏夫

砂川RC

阿部	博一	青木	寛	千葉	清
藤田	諄	福家	幹夫	平間	克彦
堀江	和美	石家	裕二	伊藤	徳博
梶尾	幸克	片田	和生	木村	正勝
北谷	好文	小林	公民	近藤	俊継
増井	利雄	松岡	孝吉	三好	直道
水島	孝嗣	二橋	邦征	二宮	健志
西川	悦郎	信太	英樹	沖中	馨
沖田	比呂志	大谷	春男	斎藤	正
榊原	二三夫	沢田	広志	沢田	幸三
杉本	勉	高橋	秀明	高橋	克実
高橋	俊美	竹田	俊一	上田	達
瓜	俊雄	山田	信一	山本	洋
山下	真史	山崎	義彦	吉川	富雄

●第3グループ

美唄RC

坂東	浩	海老名	元	藤井	明
二川	秀樹	後藤	三雄	東野	碧
本田	俊朗	星川	孝司	宝崎	錠二
板山	茂敬	岸山	皓次	北野	保孝
工藤	信	黒沢	一夫	円子	保
三浦	武美	宮崎	昭	毛利	清徳
中川	廣吉	中込	茂	西田	照雄
荻野	秀明	奥山	裕章	大竹	繁夫
関	宏	城野	裕好	高橋	誠
高橋	稔	高瀬	謙二郎	武市	雄弘
田村	勝明	田村	秀次郎	淡中	満
山本	靖雄	吉村	誠治		

滝川RC

安立	徳章	相田	正弘	藤川	宣男
古澤	武	林	博幸	細田	光人
石黒	安雅	伊藤	広志	伊藤	忠博
泉	敬止	神部	絢子	神部	洋史
川口	義弘	今野	正一	正木	政雄
松原	章	松橋	和博	三浦	晃裕
三浦	俊次	宮崎	英彰	望月	敏幸
明円	直志	中垣	陽一	中島	健

江別RC

安孫子	建雄	洞野	博文	藤原	敏雄
郷	和平	原	利之	林	重樹
林	敏昭	星	享克	細田	克美
金田	敏雄	菊田	政徳	正木	勝夫
増田	良二	松下	勝芳	松山	敏則
最上	裕之	西	照夫	西村	孚
野村	昌人	野村	昭松	奥野	一嘉



佐伯 宮彦	石堂 了正	清水 基陽
進藤 忠明	高間 專逸	高野喜世志
立石 静夫	津田 政勝	八島 壯之
山田 誠	山本 和年	山崎 一夫
吉田 欣司		

江別西RC

古石 允雄	萩尾 睦雄	長谷川直紀
服部 涉	梶野 芳章	雉子谷松次
増山 柳	松下 文芳	森木 潤一
野村 義次	岡村 信明	大森 和子
大澤 隆司	島崎 修	品川 昌典
白旗 隆夫	穴戸 昭	添田 則行
土谷 茂樹	上田 芳明	上光 一博
上村 利勝	安田 勝次	

岩見沢RC

荒木 英雄	荒木 敏博	荒岡 春雄
浅野 剛	千田 一彦	江島 俊昭
原 保昌	橋本 新治	早川 卓伸
林 秀徳	五十嵐 閣	石田 豊明
加地 浩	神田紀久夫	加藤 雄二
勝井 裕幸	香月 英気	菊谷 悟
北市 宗三	小林 弘明	小林 泉
小坂 昭男	倉増 秀昭	倉増 昭一
前川 英雄	牧 陽一	増田 信夫
南 博之	三嶋 顕	向田 甚市
武蔵 信一	中塚 力	仲屋 成裕
納谷 輝雄	西村 芳徳	岡本 等
岡山 一	大屋 均	嵯峨 義輝
齋藤 修	佐藤 紀征	関野 孝志
田蒨子敬夫	田口 憲一	高山 富雄
竹内 守	竹内 友康	田中 昭
得地 一久	梅内 隆幸	渡辺 孝一
山本 公彦	山岡 憬	山崎 康行

岩見沢東RC

赤松 茂	藤井 清一	早坂 克己
林 富勇夫	平井 勉	細谷 義弘
石橋 宣利	金田 省三	勝田 秀樹
松重 彰伸	村木 正幸	長田 正文
南原 幹生	野村 頼房	小倉 和敏
坂口 堅一	関 二三子	田口 剛志
竹村 正義	滝本 妙子	田巻 敏行
津元美智代	碓井 佚弥	渡辺 博人
渡辺 劭	山田 功	

栗沢RC

枝広 栄美	林 義明	本田 正一
本田 義晏	池本 徹	井元 玉男
稲童丸 貢	岩田 隆	金山 英昭
河合 明	河森 稔	三沢 晶夫
宮森 俊一	中村 一二	中田 信広
佐野 邦夫	鈴木 正夫	高野 正光
吉永 忠邦		

栗山RC

赤間 敏親	千田 秀侍	福田 修身
廣岡 秀博	今井 敏明	石田 利光
磯見 豪希	桃澤 忠彦	北野 一義
小寺 進	久住 八郎	松下 留雄
太田ヒロ子	佐藤 清夫	佐藤 穰
関 吉一郎	篠原 武	塩見 雅英
友成 克司	利国奈美子	梅津弥須治

当別RC

安藤 正	千葉 一男	福井 昭和
長谷 行雄	且見 勝栄	近藤 勝宏
前田 啓詞	松田 浩一	見上喜久雄
大畑 博行	大澤 勉	小山田雄一
佐藤 順一	泉亭 祐司	島 義慈
島田 裕司	下段 寿之	武田 昭龍
谷本 辰美	辻 伸行	辻野 修

●第4グループ

安澤 正美

札幌RC

相茶 俊介	相沢 幹	荒 紀男
福山 真司	福山 卓爾	古川 秀介
古野 重幸	濱野 信二	橋本 敏明
廣川 雄一	市川 唯行	井後幸太郎
今泉 眞一	陣上 雅人	加森 公人
金澤芳太郎	神崎 國勝	勝木 紀昭
川田 和男	菊原 幸夫	北畠 顕
久保田俊昭	工藤 俊也	松田 信行
松藤 誠哲	松本 章	松本 脩三
松村 亮一	見田 義之	森川 佳勇
村山 正	長井 伸樹	中野 友雄
中田 揮雄	中山 茂	西川 司郎
庭山 早苗	小口 直行	大口 雄一
大原 芳夫	大橋 義平	大森 義弘
大島 茂	太田 仁	岡本 智洋
小野 武彦	尾崎 英雄	西條 正博
櫻井 政経	櫻井 勝	指川 司
佐藤 裕文	佐藤 薫	佐藤 征紀
澤 泰宏	正殿 博章	杉野目 浩
杉谷 行雄	田嶋 忠義	高薄 浩志
武田 圭策	竹内 宏二	寺井隆太郎
鉄井 勝之	富原 薫	富原 睦子
富永 康治	塚本 勲	内山 洋一
植田 英隆	魚住 昌也	潮田 隆
渡辺 一郎	山中 善夫	山崎 駿
柳川 捷夫	横沢 章	吉田 宏

札幌はまなすRC

北川 敏夫	熊谷 福夫	松尾 浩之
中山 正美	丹羽 肇	野村 勝隆
岡西 功	大石 春雄	大角 忠義
坂田 文正	高橋 裕典	寺本 正司
戸部アナマリア	遠島 芳然	徳物 葉子

札幌北RC

出村 貢	深浦 信吾	後藤 憲市
樋口 正明	池田 輝雄	井上 勝一
鎌田 慎司	河野 英夫	木村 芳江
小林 博	小林 幸子	小林 孝夫
小林 俊之	熊谷 満	前田 一人
森川文太郎	長太 義雄	中川 東
小野 忠	大西 勲	大西 忠男
大田すみ子	佐藤 宏	城木 浩一
菅原 耕治	須藤 純一	杉下 清次
鈴木 隆	高橋 麗秋	竹原 巖
若狭 吉範	脇田 稔	米山 道男

札幌モーニングRC

藤森 敏昭	樋口 俊一	平田 博史
広瀬 進	堀居 信次	今村 重孝
井野 智	小松崎文一	近藤 良一
大熊 慧教	太田 勝久	榊山悠紀士
佐藤 亮蔵	関口 清	下土井健雄
篠原 達雄	田村 任	田中 燈一
露木 茂	宇治 正光	渡邊 至宏

札幌あけぼのRC

秋野 公孝	千葉 曜子	飯田 英年
買手 哲美	笠原 嘉郎	北口 一靖
小林 和明	栗林 孟史	久住 博
町屋 博	三井 慶昭	永田 省三
西山 秀夫	佐藤真知子	染谷 重雄
砂原 雅治	高橋 紀幸	高坂 輝雄

札幌西RC

浅野 元広	江原 建一	伏木 忠了
橋本 信夫	畑山 博	東原 秀行
池田 牧夫	石垣 博美	石黒 直文
潟沼 憲三	河邨文一郎	河邨 宣子
川田 弘	北島 清	北見 公一



小竹 俊夫	三成 脩	宮越 陽一
宮崎 善昭	武藤 順	中野 昇
根本 武夫	仁平 誠	岡崎 純
小野 眞司	大金 武夫	坂口 雄一
佐藤 裕一	芹田 馨	鈴木 繁
鈴木 俊三	高島 申治	高下 泰三
竹野 和史	竹島武一郎	田中 昌敏
田中 信晴	徳田 勲	対木 正文
上出 利光	氏平 増之	渡辺 寿昭
八木 昌興		

札幌西北RC

赤山 義孝	秋山 秀雄	出口 元治
福岡 英雄	本田 誠一	井口 光雄
池内 泰文	上ヶ嶋桂一	金澤 洋
菊地 匡彦	小林 秀樹	久保 隆
工藤 徹也	前田 幸宏	馬杉 榮一
三上 直彦	森本 正夫	森本 節子
中嶋 成実	成田 勇吉	西尾 孝徳
西岡 憲廣	小川 眞治	大野 義雄
大島 利一	桶谷 治	斉藤 博義
斉藤 隆夫	佐々木昭一	下 公司
高元 寛治	高嶋 瑞記	武田 忠和
多米 豊	田中 國光	富岡 公治
戸坂恵美子	渡邊 葉子	八木 忠雄
山藤 雅弘	山本 耕司	山崎 晴嘉

札幌手稲RC

阿部 弘	阿部 光行	網干 要
安尻 丈夫	荒木龍太郎	栗津健太郎
千葉 亮一	福井 敬悟	福井 正佳
福尾俊太郎	針谷 龍宜	肘井 博行
平田 勝美	久末 満三	今井 達雄
石田 誠	石井 等	岩瀬 一郎
金子 隆	潟沼 良三	小坂 勝治
小山 秀昭	小山 松男	松崎 幹
中川 喬雄	中川原 憲	中村 和雄

太田 博視	岡田幸四郎	酒井 孝夫
三戸 義美	白石 欽一	高橋 敏雄
高崎 英仁	滝本 繁	渡辺 哲則
山地 庸夫	山本 雅章	山谷紀巳夫
萬屋 義則	高崎 武子	丹羽 祐而

●第5グループ

札幌東RC

阿部 功一	赤泊 史昭	青木 功喜
荒岡幹史郎	朝倉 正人	坂東 宗一
千葉 峻三	藤井 英勝	藤本 栄松
羽賀 光一	早崎 弘晃	堀田 昌資
星野 恭亮	池田 光司	磯場 勇一
鍛治 努	笠原 昇一	加藤 國彦
川原宏一郎	菊地 章	菊地 弘嗣
児玉 一彦	黒澤 昌彦	黒澤 滋子
村井 肇	村山 富夫	村山 豊喜
長澤 昇司	南原 康二	名塩良一郎
西村 孝治	小田切房之	大橋 康次
太田廉太郎	奥茂 信行	奥貫 一之
佐藤 鐵磨	関堂 勝幸	島田 保久
白石 正勝	白崎 繁仁	須田 幸男
平 公夫	平 良一	高橋 徹
田中 公	丹田 均	谷口 博
田尾 重良	富山 陸浩	土倉 裕之
塚原 房樹	若原 秀明	矢橋潤一郎
山口 進	山谷 隆史	横山 安行

札幌清田RC

阿部 哲夫	江口 洸	林 紀美子
堀 理人	石岡 幹雄	柏倉 慎
小島 健	小仲美智子	真鍋 昌市
松岡 繁	三澤 龍子	三戸 和昭
宮村 素子	桃井 康夫	村本 忠
永見 貴昭	長尾 光洋	中島 永昭
中村 隆	西澤 寛俊	沼館 栞



大竹 不二男	作地 弘美	佐藤 政男
高橋 宏	高橋 宣充	玉井 清
渡辺 寿夫	山本 俊隆	

札幌幌南RC

有田 均	土橋 信男	遠藤 正之
遠藤美栄子	深貝 亨	羽部 大仁
橋本 久明	金子 均	近藤 和雄
近藤 浩	工藤 巖	神代 利臣
栗虫 利明	前田 恒雄	舩田 雅彦
森 正志	村上 恒明	奥村 建夫
佐々木仁志	佐々木雅之	佐藤 泰寛
新道 喜信	莊司 藤雄	田口 春男
高橋 秀和	高島 英寿	田中 賢一
田中眞二郎	田澤 泰明	戸井 敏夫
砺波 寿	土谷 享	角掛 晴雄
海野 英爾	和田 壬三	渡邊 春樹
山地富士夫	山本 順逸	山名 善久
山下 信行	山内 浩資	柳 孝一
横井 昭廣		

札幌真駒内RC

荒川悠久子	浜井 俊弘	本田 勇
泉 仁史	上遠野 徹	神谷 英光
金井 義司	桂 末治	川越 仁
國澤 利光	黒田 一夫	丸山 淳士
松尾 利雄	森谷 明弘	中村 孝一
中山 裕視	南部 昭憲	小野寺美津男
小野寺鉄男	黄木 道晴	斉藤 松身
斎藤 康嗣	佐々木 敦	佐々木則秋
指川 健	佐藤 泰彦	高坂 勝義
上田 正佳	渡辺 修	山田 一也
山内 正子	吉村 洋吉	

新札幌RC

阿部 敏雄	有田 京史	伊達 光男
福士 恭次	原口 伸一	保木 茂実

五十嵐 勤	石田 茂夫	加藤 政吉
木須 哲夫	水野 正純	望月 好明
佐野 文男	佐々木 正	千秋 亨
高橋 俊一	梅田 鉄夫	宇佐美定男
山石 博己	山岡 誠	結城 孝之
湯谷 昌己		

札幌大通公園RC

阿辺 勝也	荒井 吉枝	藤田 征二
長谷川美栄子	井田 政樹	石田 俊平
加我 修子	開発由美子	金森 圭樹
木津 敏彦	紺野 眞	黒柳 眞理
新田 直子	小笠原 肇	岡 宏幸
大坂 忠	リギンズ・テリー	佐藤 文彦
染原 正民	田中 利男	

●第6グループ

岩内RC

池田 清美	石村 省悦	伊藤 正敏
木下 正義	益田 長俊	野澤 幸平
小川 進	斉藤 徹	佐藤 泰視
武井 優	土屋 一郎	内田 一

倶知安RC

青山由美子	旭 克久	朝倉 直治
原 実	金井 政二	宗像 直孝
長尾 靖友	名畑 秀樹	名畑 圭啓
中井 宏治	中井 直樹	西勝 照平
小川 淳一	岡本 晃治	小野塚清一
佐竹 正志	佐藤 慎一	柴田 洋一
鈴木 保昭		

小樽RC

足立 竹秀	赤尾 正彦	鮎谷 佳一
江端 俊夫	藤原 昭三	廣川 建哉
本田 壮稜	稲田 文雄	庵原 登之



石井 良幸	板垣 宏志	上参郷真章
金久保兵士郎	笠間 茂	河辺 由清
菊地 稔	菰田 尚正	熊澤 隆樹
松倉 弘	道上 隆敏	三山 雄弘
宮崎 敦	西川 満	野口 英機
野口 信夫	野口 圭子	能島 正朋
岡島 昇	佐藤 正治	佐藤 修
柴田 徳彦	島口 義昭	清水 雅章
杉江俊太郎	高田 義人	竹田 昌市
田中 良和	丹呉 幹彦	谷内 馨一
泊谷 裕文	津田 哲哉	右近 清
柳澤 昭吉	吉田 順治	吉村 克之

小樽南RC

荒田 一正	浅原 健藏	福島 正紘
拝田 和夫	浜口 貞雄	畑 龍英
廣瀬 保男	石崎 則孝	見延庄三郎
村田 達哉	中嶋 宏	野村 定弘
小笠原俊介	大淵 勝敏	斎田 義孝
柴田 達朗	清水 人司	相馬 哲也
田崎 勝	辻 健	山谷 隆平

小樽銭函RC

安齊 博	江刺家俊輔	藤川 正二
藤中 博文	藤田 政昭	石岡 信之
河崎 義章	松本 光世	中田 弘
多田 武夫		

蘭越RC

浅野 勝	本間 義明	堀川強太郎
伊瀬 政治	金子 一憲	室野 真
中嶋 春一	新見 健	佐藤 義久
志比川 武	白石 勇	

余市RC

荒木麻美子	荒木志津子	藤澤 準一
林 正秀	彫谷 吉英	嘉屋 達雄

近藤 徹哉	目黒 幸隆	三上 勲
森 義彦	中井 克雄	西田 雅之
佐々木忠男	清水 義信	高橋 哲雄
谷川 淑郎	山田 昭恵	安田 亘
吉田 克英		

●第7グループ

千歳RC

曙 恒平	藤谷 信弘	福田 武男
古谷 眞一	服部 隆志	平間 和弘
岩崎 暉久	柿崎 隆行	上井 昭一
川下京三郎	木村 照男	喜多 清皓
村松 克重	村田 研一	中村 堅次
西 誠	小笠原 良	大西 信也
酒井 宏	佐々木 昭	菅原 文雄
谷地田 武	横田 義弘	

千歳セントラルRC

土居 栄治	原 明	今井 章夫
井上 英幸	入口 博美	石山 辰雄
松坂 敏之	長手 英記	大井 綱雄
大野 馮	大屋 建一	斉藤 博司
坂井 治	佐々木俊英	白木 松敏
須藤 丈	鈴木 昭廣	多賀 勲
田口 廣	高塚 信和	竹原 孝
和田 次彦		

恵庭RC

力弓 忠	藤井 哲夫	早瀬 源一
雛田谷武志	細川 茂	菅野 義之
久野 等	日下 健三	眞野 尅脊
三浦 孝治	諸橋 力	村上 利雄
中川 富雄	中里 邦治	小原 健栄
大川 健一	斎藤 茂生	柴田 弘道
鈴木伊佐男	館内 辰男	堤 由延
山田 邦昭	山澤 興治	



北広島RC

厚谷	成樹	馬場	信吾	加々見	盛幸
加藤	寛治	真木	孝男	宮崎	眞
宮崎	雅好	大谷	恵一	鈴木	政夫
竹内	実				

長沼RC

天野	敦子	古川	大之	古川	良子
花輪	博一	花輪	美智子	青木	雄一
久保	敏雄	西部	宣雄	清水	彰
清水	弘恵	清水	慧子	高木	繁秀
武山	敬二	戸田	源二	辻野	つね子
青木	正枝				

由仁RC

有馬	利春	後藤	篤人	本間	好道
市川	由紀男	河端	利男	大内	正一
庄司	弘	竹田	光雄	吉田	弘幸

●第8グループ

えりもRC

林	宏曜	池田	敏文	菊地	竹勇
喜多	昌	小林	強	西川	一雄
坂田	達	佐藤	幸雄	新松	隆
菅沼	敏昭	富越	誠也	山科	幸一
山内	重保				

三石RC

明石	秀男	出口	弘史	榎本	恵子
石垣	文雄	小林	龍作	山田	博継
山田	信行	山口	志郎	安田	勝昭

様似RC

荒木	英文	郷司	公雄	橋坂	兼雄
梶川	仁	小林	栄一	宮野	俊美
中村	茂	坂本	好則	島田	一省

高木 茂一 山本 康仁

静内RC

嵐	忠一	平野井	繁	細川	好弘
池田	征紀	石垣	勝英	伊藤	正明
河田	勝男	小坂	政成	見上	糸松
美濃又	洋子	宮内	正寿	中島	滋
長浜	和也	佐藤	隆司	洪井	郁夫
武岡	大佑	富岡	豊	梅庭	泰弘
山田	明				

浦河RC

秋山	靖典	網谷	敏夫	濱田	豊
花谷	實	半田	栄作	加藤	恵一
小林	忠雄	近藤	一男	桑原	征彦
前田	絃陽	大森	幸男	大谷	律子
大山	勝美	斎藤	英	酒井	乾
笹地	政雄	蘇田	又栄	園	修
杉本	修	高橋	勝也	高橋	清孝
武田	豊	種本	尚志	富田	輝次

●第9グループ

伊達RC

安宅	修治	福井	研吉	平口	泰敏
伊藤	金蔵	金本	栄一	堅田	進
川南	忠三	木村	定吉	工藤	賢一
栗原	弘治	栗橋	義徳	栗本	茂生
楠本	誠治	守谷	保夫	武者	賢一
中井	英光	中嶋	康	中里	慶三
新井田	孝	小笠原	栄一	小野寺	隆之
大坂	清勝	佐久間	重行	笹木	学
菅	俊治	唯木	久彌	高橋	武彦
高野	一雄	辻田	郁哉	若林	英雄
山崎	満晴				



室蘭RC

早坂 勝美	岩田 弘志	鴨井 清成
鴨井 清貴	鴨井 清一	川村 敏昭
菊地 千之	菊入 剛	木山 奉正
国田 雅弘	前田 迪夫	牧野 嵩
宮田徹治郎	西村 昭男	奥田 哲夫
関村 和義	新保 紘	田所 邦夫
寺尾 幸正	内山 博	吉澤 政彦

室蘭東RC

天谷 富雄	小林 進	黒田 秀雄
前田 康博	真柄 優子	森川 亮
斉藤 誠	鈴木 稔之	若松 竹治
矢萩富士雄	山本 尚夫	横田 敏明
寄木 清二		

室蘭北RC

花田 規	廣瀬 禎	岩本 信平
加藤 栄吉	川本 康裕	川田 寿之
熊谷 弘夫	松田 博文	松田 信幸
松島 茂	村井 么乙	中田 孔幸
西尾 静枝	野村 滋	及川 力
斎藤 崇	笹谷 豊明	菅原 悦子
附田 博	渡辺 紘一	吉岡 貞夫

登別RC

千葉 泰二	遠藤 秀雄	石山 春男
片岡 哲雄	木村 和夫	栗林由喜恵
増田チエ子	皆川 和廣	宮武 忠史
守屋 弘	中村 雅	斎藤 正史
鈴木 実	高岸 満則	高橋 恒夫
時田 捷司	戸塚 守夫	上田 博子
和田正二郎	若木日出男	山瀬 隆幸
吉野 洋一		

洞爺湖RC

阿野 康春	川南 明則	前谷 休市
-------	-------	-------

皆川 一男 三浦 昭三 若木 昭夫

●第10グループ

函館RC

遠藤 哲二	飯塚 良二	石田 勉
景沢 周平	加藤健太郎	小林 敏夫
小泉 康祐	久保内康之	國立 金助
丸山 雄一	森 祐平	森川 順治
小原 幸男	沢田 慎一	菅野 剛造
若山 直	渡辺 靖夫	百合 宣博

函館亀田RC

遠藤美根雄	堀 好夫	板倉 啓信
金澤 浩幸	中村 泰三	沖田 豊
清水 修	玉井 清治	谷藤 雅司
土永 均	渡辺 清志	吉田 孝蔵

森RC

出町 英二	橋本 利弘	伊藤 進
岩本豊太郎	梶谷 恵造	金丸 勝善
川村 竹光	木村 章	近藤 宣明
松浦 實	三浦 祐伸	向中野貴夫
武蔵 寿俊	長瀬 賢	野田 剛
桜田 伸也	渡辺 英明	柳田 晃
吉田 好	吉田 豊	

七飯RC

千代栄佐夫	川又 修治	木宮 正樹
越田 広司	宮村 拓郎	西谷 理
大森 茂	佐々木 弘	柴田 晴史
菅原 昭	上野 一義	渡会 元紹
山内 一男	横田 有一	

長万部RC

赤塚 繁夫	鐘下 紘一	大広 繁雄
佐々木広美	佐藤 一雄	角 健

高森 治光 植本 喜之

●第11グループ

江差RC

深見 秀治	神 信雄	前川 敏雄
小笠原 隆	瀬野田明義	田畑 裕士
棚田 清	打越東亜夫	渡辺 誠治
横内 隆文		

函館五稜郭RC

阿彦 治	蝦名 康夫	後平幸太郎
石尾 清広	上出 真也	川畑 武裕
川上 誠	河村 隆平	菊地 喜久
今 均	光錢 裕二	松本 明
長雄 唯一	中村 喜憲	中澤 秀雄
能戸 彰	斎藤 東栄	酒井 正人
菅原 徹	菅谷 剛	富田 邦義
渡邊 慶衛	薮下 明	

函館東RC

福嶋 貢	原 隆俊	池垣 清信
小安土達郎	小泉護太郎	松井 久男
松山 茂	宮崎あけみ	宮崎 裕之
森元 浩	鍋谷 操子	信田 明
菅原 憲夫	戸嶋 浩	横岡 孝一
米屋 邦夫	吉川 達也	

函館北RC

栗飯原幸男	阿相 義則	藤野 明信
石橋 輝夫	伊藤 康男	金子 謹也
増田 定雄	松見 修二	宮上美恵子
中川 洲平	中野 亮	成田 豊
小笠原 孝	佐藤佳寿絵	柴崎 晃
新 博夫	薮下 義晴	山下 清司
大和 明		

上磯RC

張江 征司	光錢 健三	増田 幸久
佐藤 勇二	鈴木 淳	内村 敦子
山内 哲郎	柳川 景	

松前RC

長岡 武久	西村 健一
-------	-------

●第12グループ

白老RC

藤岡 和男	初瀬 伸二	平間 但
石田 信雄	笠井 博輝	河合 浩司
川村 聡二	熊谷 威二	門別 紀一
元木 邦明	中山 育子	大道 實
坂田 孝次	杉村 孝	高石 誠次
田辺 真一	谷島 純平	手塚 貴志
和歌 宏侑	山手 康	

苫小牧RC

阿部 喜朗	穴倉 迪彌	青山 一夫
荒澤 義範	浅野 篤仁	藤瀬 幸保
古川 幾雄	五艘 洋司	長谷川為久夫
橋本 洋一	畠山 則繁	市町 峰行
井本 博	石田 浩晃	石川 栄治
岩月 輝美	梶川 昇	梶谷 梅宏
君嶋 基弘	北村 好昭	小林 司
今野 陽三	松崎 徳一	宮田 昭一
森田 正夫	村上 満男	永井 高明
小保方伸一	大森 政代	佐藤 慎二
佐藤 俊生	千賀 保彦	下総 裕輔
杉山 修二	高原 泰彦	田中 春夫
田中 正臣	得能 隆	年藤 義徳
圓谷 敏彦	渡辺 健治	山口 昭悦
山本 正幸	山本 豊	山崎 伸一
横田 稔		



苫小牧東RC

青木 孝吉	石田 英二	木村 修
北 裕和	小林 忠男	児玉 和雄
古宇田 渉	松下 昌平	松原 實
水元 修治	森 泰祐	中野 孝一
小笠原正男	斉藤 英明	櫻岡 義久
三小田吉邦	佐藤 正孝	佐藤 正
関 千代子	菅野 嘉一	高井 昌機
高橋由利枝	田中 彰	綱木 保利
渡部 好治		

苫小牧北RC

阿部 光一	荒井 捷一	千葉 辰一
藤田 信一	古戸 寅雄	伊部 廣明
池田 好文	伊藤 長英	伊藤祐紀子
伊藤 竹雄	門脇 清	菊地 芳彦
小西 強志	紺野 誠一	丸屋 憲一
長尾 孝広	中山 佳孝	岡田 秀樹
小野 多七	大江 克彦	鈴木 信
鈴木 隆	高木 一男	高橋 寛
高橋 康則	田中 稔	谷岡 裕司
土屋 孝人	矢部 繁	山田 信夫
山田 新一	山本 秀子	山本 雅昭
山崎 正寿		

札幌南RC (ホスト・クラブ)

阿部 勝夫	阿部 光子	阿部 孝司
阿部美津子	安部 庸夫	安部由美子
秋山 宏	秋山 寿子	青木 健次
青木 寿江	朝妻 邦雄	朝妻 純子
藤林 稔充	藤林 律子	藤居 周一
藤居 道子	藤澤 豊喜	藤澤由美子
福山恵太郎	福山美保子	福山 耕司
福山 恵子	後藤 由春	後藤 栄子
橋本 耕二	橋本しづ子	畑中 俊介
畑中 蓉子	服部 信吾	服部 寛子
日野 重利	久末 聖治	久末みどり

本田 信康	本田 久子	本間 良二
本間 優子	堀内 龍	堀内 雅子
百留 次雄	市川 隆	市川 敬
池田 和弥	池田 智波	池内 和正
池内 倫江	今井 國雄	今井 典子
稲場 哲也	稲場砂恵子	稲津 亘
稲津 弥生	石 典芳	石 明子
伊藤 栄俊	伊藤登美子	伊藤 純
伊藤 京子	岩城 秀晴	岩城 節子
金川 一男	金川 雅子	金井 英明
金井 重博	金井 清美	片山 英男
片山 道子	加藤 正雄	加藤 千恵
川井 一男	川井 公子	河森 利行
河森加代子	川崎 秀雄	川崎 妙子
菊池 恒	菊池 朋子	北島 廣
北島 芳子	小林 昌志	小林 容子
工藤 武久	工藤 静子	熊本 努
熊本 澄代	クリステン トーネ	クリステン 穂子
黒木 増夫	黒木 ひな	黒田 忠
黒田 博子	松井 恒廣	松井 寿子
松崎 孝一	松崎 弘子	南館 全次
南館 充子	三浦 義昌	三浦 優子
宮内 優	宮内万里子	諸治 隆嗣
諸治 京子	師尾 純一	師尾その子
村上 憲一	村上 時子	村木 宏道
村木 穂浪	村田 長市	村田 澄子
長崎 幸雄	長崎 道子	中井 孝光
中井 邦子	中島 一郎	中島 順子
中道 博	中道 一恵	中村憲由樹
中村 文美	中家 秀信	中家 佳子
夏井坂信幸	夏井坂トシ	西川 哲也
西川 優	西尾 長光	西脇 順二
西脇 純子	大星 孝幸	大星 淑子
太田 眞琴	太田 福子	大山 昌克
大山 美子	岡本 進	岡本実枝子
尾山洋太郎	尾山 悦子	斎藤 元護
斎藤 容子	斎藤 定明	斎藤世柅子



齋藤 誠一	齋藤 良子	坂 尚謙	田嶋 久嗣	田嶋 紀子	武部 實
坂 節子	実藤 誠	実藤千恵子	武部 絃子	武田利兵衛	武田 節子
佐々木敬信	佐々木良子	佐藤源五郎	竹山 涼一	竹山タカ子	寺沢 栄一
佐藤 郁子	佐藤 伸	佐藤 邦子	寺沢 弘子	富樫 英治	富樫 英樹
七戸 恒俊	七戸 弘子	島津 宏興	富樫 正子	徳中 征之	徳中 恭子
島津 桜子	須田 義雄	須田 明美	坪田 幸栄	坪田 宏子	山口 潔
杉目 幹雄	杉目 敦子	杉澤 達史	山口 節子	山下 準平	山下 祥子
杉澤 廣子	杉浦 則男	杉浦 京子	横田 昭	横田 郁子	吉田 松雄
杉山 隆俊	杉山 純子	多田 久志	吉田 節子	吉田 壽昭	吉田 芳子
多田 峰子	平 昌夫	平 昭子	吉尾 弘	吉尾喜美子	



地区大会運営委員会役員及び実行委員会役員

地区大会運営委員会役員

プログラム委員会

委員長	ガバナー	岩城 秀晴
委員	パスト・ガバナー	河邨文一郎
	パスト・ガバナー	野口 信夫
		加藤 正雄

信任状委員会

委員長	パスト・ガバナー	森本 正夫
委員	パスト・ガバナー	大橋 康次
	パスト・ガバナー	富山 惟夫
		金井 英明

選挙管理委員会

委員長	パスト・ガバナー	石垣 博美
委員	パスト・ガバナー	富田 嘉市
	パスト・ガバナー	富原 薫
		工藤 武久

決議委員会

委員長	パスト・ガバナー	伊藤 長英
委員	パスト・ガバナー	白石 欽一
		今井 國雄
		三浦 義昌

登録委員会

委員長	パスト・ガバナー	遠藤 正之
委員	パスト・ガバナー	西條 正博
		平 昌夫
		斎藤 元護

出席推進委員会

委員長	ガバナー・エレクト	小林 博
委員	ガバナー補佐	大石 洋一
	ガバナー補佐	木村 正勝
	ガバナー補佐	向田 甚市
	ガバナー補佐	西岡 憲廣
	ガバナー補佐	上田 正佳
	ガバナー補佐	畑 龍英
	ガバナー補佐	村上 利雄
	ガバナー補佐	山科 幸一
	ガバナー補佐	熊谷 弘夫
	ガバナー補佐	三浦 祐伸
	ガバナー補佐	酒井 正人
	ガバナー補佐	渡部 好治

地区大会実行委員会役員

ガバナー	岩城 秀晴
大会委員長	畑中 俊介
副委員長	中井 孝光
副委員長	吉田 壽昭
大会 S A A	西脇 順二
ホスト RC 会長	川崎 秀雄
地区幹事	加藤 正雄
大会幹事	師尾 純一
副幹事	福山恵太郎
副幹事	青木 健次
大会会計	武部 實

地区大会ホストクラブ実行委員会

◎委員長

特別顧問

竹山 涼一

顧問

秋山 宏 西尾 長光 坂 尚謙
多田 久志 富樫 英治

総務委員会

◎徳中 征之 片山 英男 川井 一男
金井 重博 佐々木敬信 富樫 英樹

登録・宿泊委員会

◎佐藤源五郎 阿部 孝司 日野 重利
実藤 誠 杉目 幹雄 安部 庸夫
阿部 勝夫 七戸 恒俊 斉藤 定明

会場委員会

◎稲場 哲也 小林 昌志 朝妻 邦雄
橋本 耕二 稲津 亘 岡本 進
佐藤 伸 黒木 増夫 大山 昌克
横田 昭 村田 長市 堀内 龍

交通委員会

◎山口 潔 後藤 由春 中村憲由樹
北島 廣 田嶋 久嗣 杉澤 達史

食事委員会

◎服部 信吾 伊藤 栄俊 松井 恒廣
村上 憲一 久末 聖治 中道 博
齊藤 誠一 吉田 松雄

接待・救護委員会

◎長崎 幸雄 伊藤 純 須田 義雄
南館 全次 諸治 隆嗣 島津 宏興
武田利兵衛 大星 孝幸 クリスチン・トール
百留 次雄 藤居 周一

広報・記録委員会

◎熊本 努 福山 耕司 夏井坂信幸
西川 哲也 三浦 義昌 坪田 幸栄
山下 準平 尾山洋太郎

音楽・余興委員会

◎本間 良二 池内 和正 石 典芳
菊池 恒 太田 眞琴 中家 秀信
金川 一男

ゴルフ委員会

◎工藤 武久 杉浦 則男 平 昌夫
本田 信康 宮内 優 河森 利行
今井 國雄 村木 宏道

会場監督委員会

◎西脇 順二 黒田 忠 松崎 孝一
中島 一郎 金井 英明 市川 隆
藤澤 豊喜 杉山 隆俊

会計委員会

◎武部 實 池田 和弥 藤林 稔充

出席推進委員会

◎斎藤 元護 寺沢 栄一 吉尾 弘



地区大会を終えて

「めざせ コミュニティへの
サービスを」がめざしたもの

地区幹事 加藤 正雄
金井 英明

本年度のRIリチャードD.キング会長は「人類が私たちの仕事」と言う力強いテーマを掲げましたが、当地区岩城秀晴ガバナーはそのテーマに応え、地区方針として社会貢献を中心にロータリー活動を推進してまいりました。

そのために、本大会のテーマは「めざせ コミュニティへのサービスを」と設定し、札幌南ロータリークラブのホストのもとに、企画され、準備をし実行されました。

特に本大会は、本年度より年度当初での大会開催になりましたので、平成13年においては、2度の地区大会の開催を余儀なくされました。

先ず頭を悩まされましたのは、テーマに沿って如何に素晴らしい大会を企画するかとの考えの前に、年2回の開催なので、参加者の数が極端に減少をするのではないかと言うことでした。

だが、札幌南ロータリークラブの素晴らしい企画とともに、参加依頼の運動は熱意のあるもので、多くのロータリアンが感銘を受け参加をされましたことに、私たちも心より敬服するところです。

大会終了後、参加ロータリアンの多くが感動のもとに帰路についた話を聞き、大会が成功裡に終えたんだなと思ったとき、札幌南ロータリークラブの会員お一人お一人に感謝を申し上げますとともに、この大会を支えていただいた多くの関係の方々に、心よりお礼を申し上げます。この大会が、この地区の更なる発展の礎にならんことを祈りながら…

地区大会ホストクラブ実行委員会の皆様



編集後記

「めざせコミュニティへのサービスを」をスローガンとする、2001～02年度地区大会は、ユーモアにあふれ、楽しく為になった、次の時代を指差する大会でありました。

8名で構成されました、広報・記録委員は、プログラムに沿って、忠実に正確な記録を残すことを念頭に、楽しかった実りのある大会の雰囲気、余韻をかもし出すことにも留意しました。その為、話し言葉から書き言葉に替えたのみでの表現では大変難しく、冊子の中に話し言葉による文章と書き言葉による文章とが混在することと致しました。

校正に関しては十分に気を付けたつもりですが、なお不十分な点が多々あろうかと思えます。ロータリーの友情に免じてお許し下さり、特に記念フォーラム、記念講演、並行プログラム等、ご一読の上地区大会の感動を再度思い出して頂ければ幸いです。

原稿をお寄せ下さいました皆様、テープおこしをした原稿の事前チェックなどのご協力を頂きました皆様に対し、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(広報・記録委員長 熊本 努)

2001～02年度国際ロータリー第2510地区 地区大会の記録

発行日 2002年5月
発行者 第2510地区大会実行委員会
札幌南ロータリークラブ
〒060-0002 札幌市中央区北2条西4丁目北海道ビル902号室
電話(011)231-1297番
編集 第2510地区大会記録 広報・記録委員会
委員長 熊本 努
印刷 三浦印刷株式会社
